PC98-NX

活用ガイド
ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

PC98-NX SERIES

VersaPro

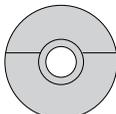
VA80J/WX・VA70J/WX
VA70J/WS・VA70H/WX
VA65H/WT・VA65H/WS

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。

●『はじめにお読みください』
このパソコンの接続方法やWindowsのセットアップ手順について説明しています。

・型番の確認
・添付品の接続
・Windowsのセットアップ
・マニュアル紹介

●『活用ガイド 再セットアップ編』
このパソコンを再セットアップする場合の方法について説明しています。

・再セットアップの方法

◎『マニュアル CD-ROM』
『活用ガイド ハードウェア編』、『活用ガイド ソフトウェア編』がPDF形式で収録されています。利用方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

●『活用ガイド ハードウェア編』
このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。

・キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
・周辺機器の接続と利用方法
・システム設定について

●『活用ガイド ソフトウェア編』
アプリケーションの利用方法、追加と削除の方法について説明しています。また、さまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。

・アプリケーションの利用方法
・トラブル解決Q&A

このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

　周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

2001年１月　初版

対象機種

VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WS、VA70H/WX、VA65H/WT、VA65H/WS

853-810028-075-A

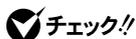
このマニュアルの表記について

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

⚠警告　注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

⚠注意　注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルで使用している表記の意味

表記	意味
14.1型モデル	14.1型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。
13.3型モデル	13.3型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。
12.1型モデル	12.1型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
FAXモデム内蔵モデル	FAXモデムを内蔵しているモデルのことです。
ワイヤレスモデル	本体にワイヤレス通信機能を内蔵し、別売のワイヤレスモデムステーション(AtermWM56)やAtermIWシリーズと無線通信が可能なモデルのことです。
内蔵指紋センサモデル	指紋センサを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
暗証番号機能モデル	セキュリティ用の暗証番号入力機能を搭載したモデルのことです。
Windows Meモデル	Windows Meがあらかじめインストールされているモデルのことです。
Windows 98モデル	Windows 98があらかじめインストールされているモデルのことです。
Windows 2000 Professionalモデル	セットアップ時にWindows 2000 Professionalを選んでセットアップしたモデルのことです。
Windows NTモデル	セットアップ時にWindows NT 4.0を選んでセットアップしたモデルのことです。
Office 2000モデル	Office 2000 PersonalまたはOffice 2000 Professionalがあらかじめインストールされているモデルのことです。
【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択する操作を指します。
「コントロールパネル」を開く	「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする操作を指します。 Windows Meで「コントロールパネル」の画面に操作したいアイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてアイコンを表示させてください。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	次のいずれかを指します。 ・Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000、Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 日本語版
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal
Office 2000 Professional	Microsoft® Office 2000 Professional
MS-IME2000	Microsoft® IME2000
MS-IME98	Microsoft® IME98
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
DirectCD	DirectCD™ 3
インターネットエクスプローラ	次のいずれかを指します。 ・Microsoft® Internet Explorer 5.5 ・Microsoft® Internet Explorer 5.01 ・Microsoft® Internet Explorer 4.01 SP2

◆このマニュアルで使用しているイラストと画面

・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。
・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	モデル	電話回線
VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WS、VA70H/WX、VA65H/WT、VA65H/WS	FAXモデム内蔵モデル	A00-0384JP
	ワイヤレスモデル(内蔵モデムなし)	A00-0398JP
	ワイヤレスモデル(内蔵モデムあり)	A00-0369JP
	モデム/LAN同時搭載のモデル	A00-0384JP

本装置(モデム/LAN同時搭載のモデル)の直流回路の抵抗値は309Ωです。線路抵抗条件によっては使用できないことがあります。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

■瞬時電圧低下について

[バッテリパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■レーザ安全基準について

CD-ROMモデル、CD-R/RWモデル、CD-R/RW with DVD-ROMモデルには、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのいずれかが内蔵されています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス[NEC UltraCare℠ International Service]対象機種に限り、当社の定める地域・サービス拠点にてハードウェアの保守サービスを行います。サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
http://www.ultracare.nec.co.jp/jpn/
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® Me、Microsoft® Windows® 98、Microsoft® Windows® 2000 Professional、Microsoft® Windows NT®は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(Intellisyncを除く。詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。（ただし、海外保証サービス[NEC UltraCare℠ International Service]対象機種については、海外でのハードウェア保守サービスを実施致します。）

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.(Only some products which are eligible for NEC UltraCare℠ International Service can be provided with hardware maintenance service outside Japan.)

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

目　次

PART

本機の機能

PART 2

周辺機器を使う

PART 3

システムの設定 275

PART 4

付録 291

索引 315

PART

1

本機の機能

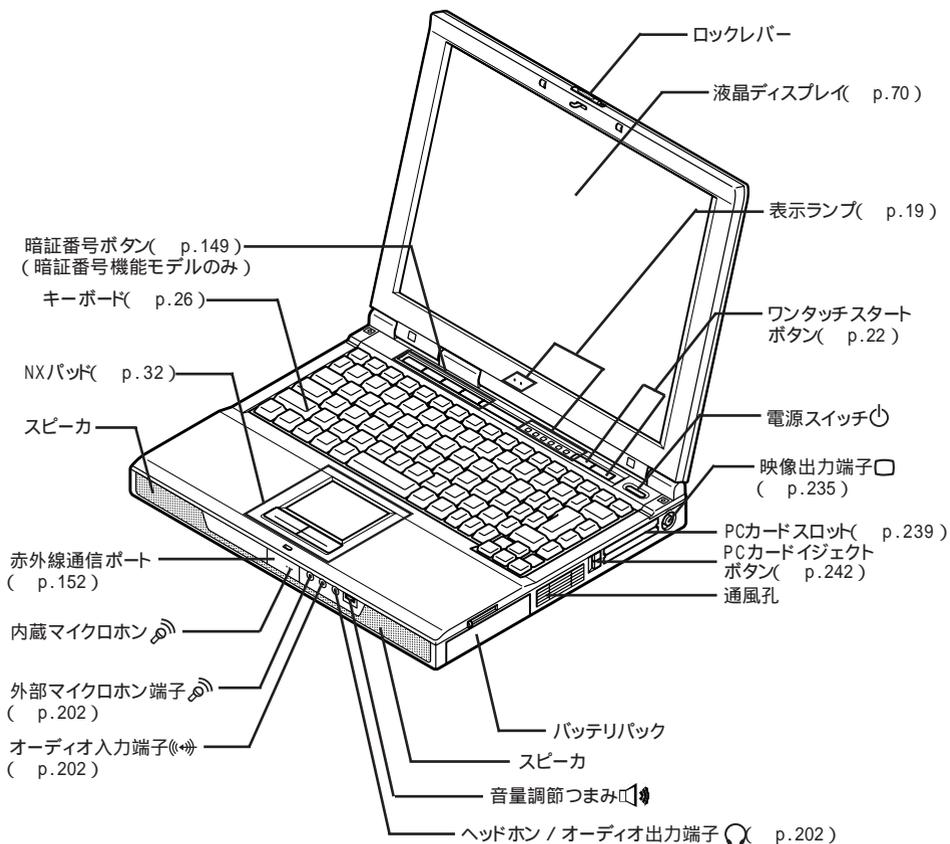
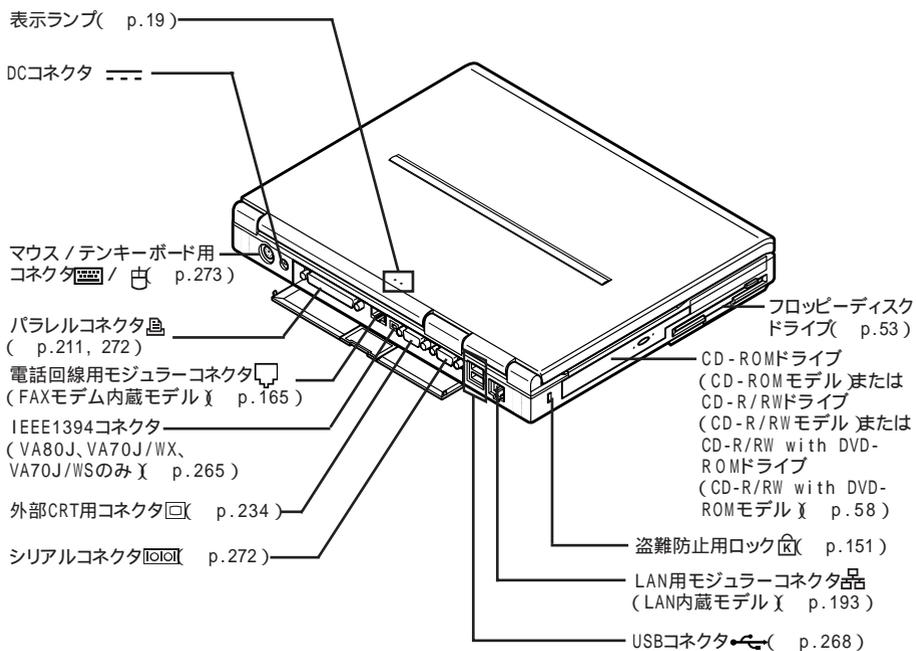
本機の各部の名称といろいろな機能について説明しています。

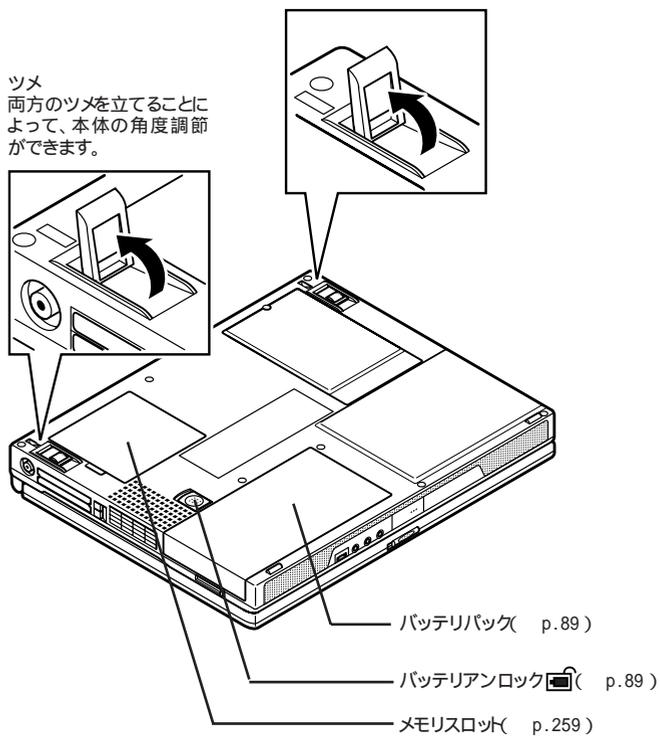
各部の名称

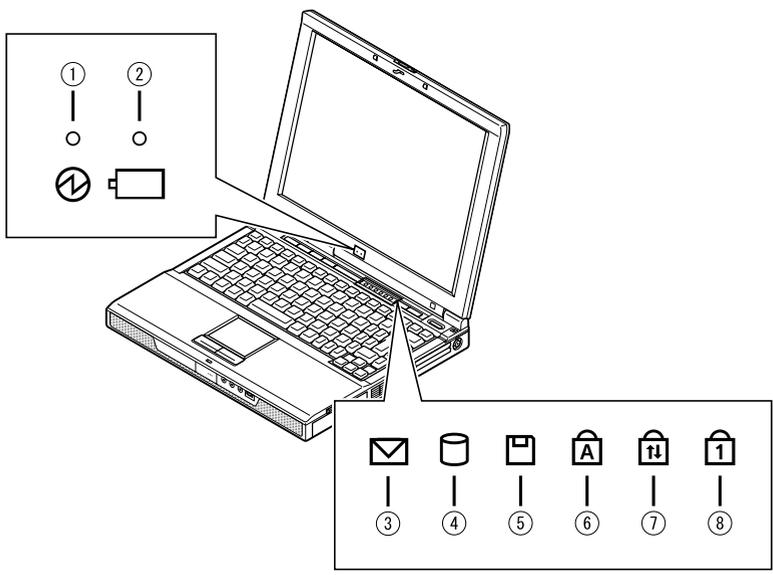
本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

本体前面

本体背面

表示ランプ（→p.19）
DCコネクタ
マウス／テンキーボード用
コネクタ　／　（→p.273）
パラレルコネクタ
（→p.211, 272）
電話回線用モジュラーコネクタ
（FAXモデム内蔵モデル）（→p.165）
IEEE1394コネクタ
（VA80J、VA70J/WX、
VA70J/WSのみ）（→p.265）
外部CRT用コネクタ（→p.234）
シリアルコネクタ（→p.272）
フロッピーディスク
ドライブ（→p.53）
CD-ROMドライブ
（CD-ROMモデル）または
CD-R/RWドライブ
（CD-R/RWモデル）または
CD-R/RW with DVD-
ROMドライブ
（CD-R/RW with DVD-
ROMモデル）（→p.58）
盗難防止用ロック（→p.151）
LAN用モジュラーコネクタ
（LAN内蔵モデル）（→p.193）
USBコネクタ（→p.268）

本体底面

ツメ
両方のツメを立てることによって、本体の角度調節ができます。
バッテリパック(→p.89)
バッテリアンロック(→p.89)
メモリスロット(→p.259)

表示ランプ

表示ランプの名称と役割

①電源ランプ( )

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)
黄色	点灯	バッテリ容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)でバッテリ容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリ容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)でバッテリ容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

②バッテリ充電ランプ（ ）

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリ充電中
	点滅	バッテリのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※：バッテリを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリリフレッシュを行ってください（→p.85）。

③メール着信ランプ（ ）

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり、またはPIAFS圏内
消灯	メール着信なし、またはPIAFS圏外

ワイヤレスモデルの場合、BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ（Peripheral Setup）」の「PIAFS使用時のランプの切り替え（Lamp switch when PIAFS is used）」を「圏内（Area）」に設定すると、ランプを別売のワイヤレスモデムステーションなどの親機の圏内にいるかどうかを確認する機能に切り替えることができます（→p.289）。

④アクセスランプ（ ）

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

⑤フロッピーディスクアクセスランプ（ ）

ランプ	状態
緑点灯	アクセス中
消灯	アクセスしていない

⑥キャップスロックキーランプ（A）

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

⑦スクロールロックキーランプ（）

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

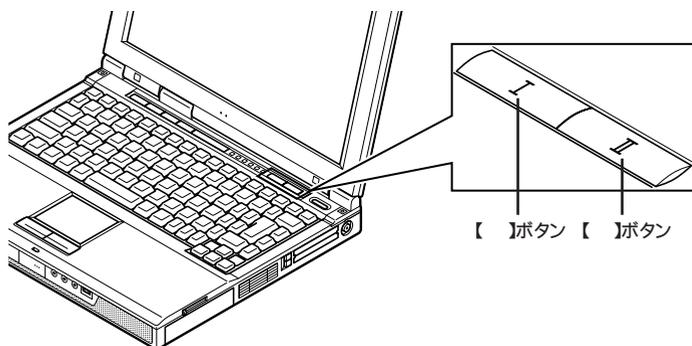
⑧ニューメリックロックキーランプ（）

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます。
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます。

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使うと、ボタンを押すだけで、あらかじめ設定したアプリケーションを起動することができます。

ワンタッチスタートボタンを使う

本機には次のワンタッチスタートボタンがあります。

チェック!! **Windows 98のMS-DOSモードで起動した場合や、セーフモードなどWindowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。**

◎【Ⅰ】ボタン、【Ⅱ】ボタン

【Ⅰ】ボタン、【Ⅱ】ボタンを押すと、本機の電源がONの状態、OFFの状態にかかわらず、すぐにアプリケーションを起動するように設定できます。
購入時は、それぞれのボタンを押すと、「インターネット接続ウィザード」が起動します。

起動するアプリケーションを変更したい場合は、「ワンタッチ スタートボタンの設定」で行います。

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

「ワンタッチスタートボタンの設定」を使うと、どのアプリケーションをワンタッチスタートボタンで起動させるかを設定できます。

ワンタッチスタートボタンでは、アプリケーションを「同時」または「順次」に起動することもできます。「同時」は、ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動する方法です。「順次」は、はじめに登録したアプリケーションを終了すると次のアプリケーションが順次起動する方法です。

◎「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする

「ワンタッチスタートボタンの設定」画面が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックして起動することもできます。

参照 **ワンタッチスタートボタンの設定→「ワンタッチスタートボタンの設定　ヘルプ」**

「ワンタッチ スタートボタンの設定　ヘルプ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチ スタートボタンの設定　ヘルプ」をクリックすると表示できます。

◎ アプリケーションを割り当てる

ここでは、例として【 Ⅰ 】ボタンに「メモ帳」を割り当てる方法を説明します。

チェック!! ショートカット(拡張子が.lnkのファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが実行されません。
登録後正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。

1 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

2 「ボタン設定」タブをクリックする

3 「ボタン1」の下の(単独)をクリックする

4 「スタートメニュー」タブをクリックする

5 「プログラム」フォルダをダブルクリックする

6 「アクセサリ」フォルダをダブルクリックする

7 「メモ帳.lnk」を「プログラム1」ボックスにドラッグ&ドロップする

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「OK」ボタンをクリックする

10 「はい」ボタンをクリックする

◎ ワンタッチスタートボタンを無効にする

次の操作で、ワンタッチスタートボタンを無効にすることができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンを無効にする」をクリックする

2 「「ワンタッチスタートボタン」を無効にします。」と表示されたら、「はい」をクリックする

3 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」をクリックする
本機が再起動します。
再起動後、ワンタッチスタートボタンが無効になります。

> この操作を行うと、「ワンタッチスタートボタンを無効にする」は削除され、「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が追加されます。

◎ ワンタッチスタートボタンを有効にする

次の操作で、ワンタッチスタートボタンを有効にすることができます。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする**

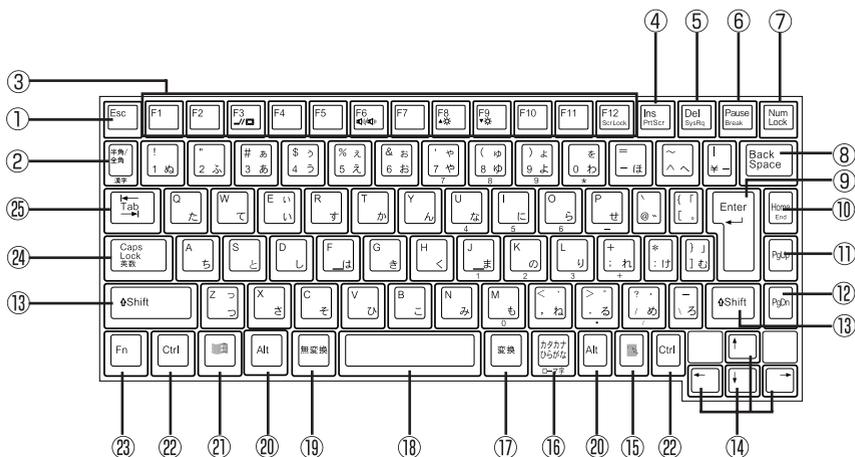
2 **「「ワンタッチ スタートボタン」を有効にします。」と表示されたら、「はい」をクリックする**

3 **再起動を促す メッセージが表示されたら、「はい」をクリックする**
本機が再起動します。
再起動後、ワンタッチ スタートボタンが有効になります。

> この操作を行うと、「ワンタッチ スタートボタンを有効にする」は削除され、「ワンタッチ スタートボタンを無効にする」が追加されます。

キーボード

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの名称

① 【Esc】：エスケープキー
② 【半角／全角】：半角／全角キー
③ 【F1】～【F12】：ファンクションキー
④ 【Ins】：インサートキー
⑤ 【Del】：デリートキー
⑥ 【Pause】：ポーズキー
⑦ 【Num Lock】：ニューメリックロックキー
⑧ 【Back Space】：バックスペースキー
⑨ 【Enter】：エンターキー(リターンキー)
⑩ 【Home】：ホームキー
⑪ 【PgUp】：ページアップキー
⑫ 【PgDn】：ページダウンキー
⑬ 【Shift】：シフトキー
⑭ 【↑】【↓】【→】【←】：カーソル移動キー
⑮ 【▤】：アプリケーションキー
⑯ 【カタカナ ひらがな】：かなキー
⑰ 【変換】：変換キー
⑱ スペースキー
⑲ 【無変換】：無変換キー
⑳ 【Alt】：オルトキー
㉑ 【⊞】：Windowsキー
㉒ 【Ctrl】：コントロールキー
㉓ 【Fn】：エフエヌキー
㉔ 【Caps Lock】：キャップスロックキー
㉕ 【Tab】：タブキー

キーの使い方

◎ 特殊なキーの使い方

キー操作	説　明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キー前面に青で表示されている数字や記号を入力できるようになります。 もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】＋【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。 もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】＋【半角／全角】 または 【半角／全角】 (MS-IME98、MS-IME2000使用時のみ)	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。 もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】＋【カタカナ　ひらがな】 (MS-IME97使用時を除く)	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ　ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→p.28)。

◎ ホットキー機能(【Fn】の使い方)

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。
組み合わせが可能なキーとその機能のアイコンは、【Fn】と同じ色 (青)でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機　　能	説　　明
【Fn】+【Esc】	サスペンド	Windows NT 4.0使用時にサスペンドにします。
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え(　/　)	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります。
【Fn】+【F4】	スタンバイモード	Windows NT 4.0使用時、スタンバイモードにします。
【Fn】+【F6】	ビープ音量調節(　/　)	ビープ音の音量をオン/オフに設定します。
【Fn】+【F7】	節電レベル選択	Windows NT 4.0使用時、キーを押すごとに、節電のモードを切り替えます。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる(▲☼)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる(▼☼)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F10】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【⊞】	右Windows	右【⊞】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Home】	End	【End】の役割

※: テレビが接続されているときのみ切り替わります。

【Fn】+【F3】~【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F8】、【F9】を除く)。

キーボードの設定をする

1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする

「キーボードのプロパティ」が表示されます。

◆Windows Me／Windows 98／Windows NT 4.0の場合

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

・文字入力時の繰り返し入力のタイミング調節
・カーソルの点滅速度の調節
・日本語入力システムの選択
・レイアウトの設定

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

◆Windows 2000の場合

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウ左上の「速度」「入力ロケール」「ハードウェア」の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

・文字入力時の繰り返し入力のタイミング調節
・カーソルの点滅速度の調節
・インストールされている入力ロケールの設定
・入力ロケールのホットキーの設定
・デバイスの設定

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

◎ 別売のキーボードを使うには

別売のテンキーボードやキーボードを接続して使用することができます。テンキーボードは本機背面のマウス／テンキーボード用コネクタ（⌨／ 🖱）に接続します。キーボードはUSB対応のキーボードを本機のUSBコネクタ（⭠）に接続することができます。

チェック!! Windows NT 4.0では、USB対応の周辺機器を使用することはできません。

参照 別売のテンキーボードやキーボードの接続→PART2の「その他の機器」の「マウス／テンキーボード用コネクタ」（p.273）

日本語入力の使い方

本機では、次の日本語入力システムが使用できます。

モデル	Windows Me モデル	Windows 98 モデル	Windows 2000 Professional モデル	Windows NT モデル
Office 2000モデル	MS-IME2000	MS-IME2000	MS-IME2000	MS-IME2000
その他のモデル	MS-IME2000	MS-IME98	MS-IME2000	MS-IME97

入力方法や操作方法については、各日本語入力システムの「ヘルプ」をご覧ください。

◎ 日本語入力システムのオン、オフを切り替えるには

1 **【Alt】を押したまま【半角／全角】を押す**

インジケータ領域(タスクトレイ)の が になります。
これで日本語入力システムがオンになりました。
日本語入力システムがオンのときに、同じ操作を行うと、 が になり、日本語入力システムをオフにすることができます。

◎ MS-IME2000/MS-IME98の「ヘルプ」を参照する

1 **MS-IME2000またはMS-IME98のツールバーから「ヘルプ」ボタン をクリックする**

A 般 CAPS KANA

2 **メニューの「目次とキーワード」をクリックする**

3 **表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする**

4 **「ヘルプ」を終了したいときは をクリックする**

◎ MS-IME97の「ヘルプ」を参照する

1 MS-IME97のツールバーから「ヘルプ」ボタンをクリックする

2 表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする

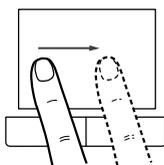
3 「ヘルプ」を終了したいときには ☒ をクリックする

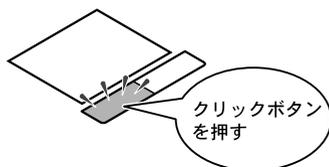
NXパッド

本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。NXパッドは、コントロールパネルを使ってより使いやすいように設定できます。

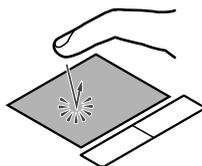
NXパッドの使い方

◎ ポインタ(カーソル)の移動

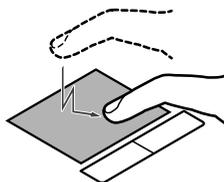
パッド上で指を動かすと、指の動きに合わせて画面上のポインタ(カーソル)が動きます。

◎ クリックとダブルクリック

画面上のボタンやアイコンにポインタを合わせ、左のクリックボタンを1回押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことを「ダブルクリック」といいます。

右のクリックボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。

◎ タップとダブルタップ

指先でパッドをたたく操作です。1回たたくことを「タップ」、2回連続してたたくことを「ダブルタップ」といい、それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。

◎ **ドラッグ**

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせ、左クリックボタンを押したまま指をパッド上で軽くすべらせると、ドラッグできます。

アイコンやフォルダの上にポインタを乗せた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにすべらせてもドラッグできます。

NXパッドドライバをインストールする

NXパッドドライバをインストールすると、次のようなNXパッドをより使いやすくするための設定ができます。

・NXパッド上で指をすべらせることで画面をスクロールできるスクロール領域の設定(Windows Me、Windows 98のみ)
・キーボードからの入力時に、間違えてタップしたりポインタが動くことが無いようにNXパッドを無効にする設定

NXパッドドライバのインストールは次の手順で行います。

■Windows Meの場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

2　**「デバイスマネージャ」タブをクリックする**

3　**「マウス」をダブルクリックする**

4　**現在セットアップされているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする**

5　**「ドライバ」タブをクリックする**

6　**「ドライバの更新」ボタンをクリックする**

「デバイスドライバの更新ウィザード」が起動します。

7　**「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

8　**「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

9　**「ディスク使用」ボタンをクリックする**

10　**製造元ファイルのコピー元に「C:¥NXPAD」と入力し、「OK」ボタンをクリックする**

11　**「モデル」のリストの中から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

チェック!!　**「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。**

12　**「次へ」ボタンをクリックする**

ファイルのコピーが行われます。
この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。

13　**「完了」ボタンをクリックする**

14 **再起動を促すメッセージが表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリックする**

15 **「NX PADプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする**

16 **「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする**

17 **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする**

18 **「再起動」を選択し、「OK」ボタンをクリックする**
再起動後、設定が有効になります。
再起動後、ポインタが動かなくなった場合は、以降の手順を行ってください。

◆ 再起動後、ポインタが動かない場合

次の手順でもう一度再起動してください。

1 **【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す**
「スタート」メニューが開きます。

2 **カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し、【Enter】を押す**

3 **カーソル移動キーで「再起動」を選択し、【Enter】を押す**

■Windows 98の場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

2 **「デバイスマネージャ」タブをクリックする**

3 **「マウス」をダブルクリックする**

4 **現在セットアップされているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする**

5 「ドライバ」タブをクリックする

6 「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」が起動します。

7 「次へ」ボタンをクリックする

8 「特定の場所にあるすべてのドライバーの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

9 「ディスク使用」ボタンをクリックする

10 「配布ファイルのコピー元」に「C:¥NXPAD」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

11 「モデル」のリストの中から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

チェック!! **「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。**

12 「次へ」ボタンをクリックする

ファイルのコピーが行われます。

この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。

13 「完了」ボタンをクリックする

14 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリックする

15 「NX PADプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

16 「システムのプロパティ」画面の「閉じる」ボタンをクリックする

17 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする

18 「再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

再起動後、設定が有効になります。
再起動後、ポインタが動かなくなった場合は、以降の手順を行ってください。

◆ 再起動後、ポインタが動かない場合

次の手順でもう一度再起動してください。

1 【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す

「スタート」メニューが開きます。

2 カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し、【Enter】を押す

3 カーソル移動キーで「再起動する」を選択し、【Enter】を押す

■Windows 2000の場合

1 「Administrator」でログオンする

2 使用中のアプリケーションをすべて終了する

3 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする

4 「ハードウェア」タブをクリックし、一覧に表示されている「標準PS/2ポートマウス」を選択して、「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

6 「次へ」ボタンをクリックする

7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」ボタンをクリックする

8 「ディスク使用」ボタンをクリックする

9 **「参照」ボタンをクリックする**

10 **「ファイルの場所」に「C:¥WIN2K¥SLIDEPAD」フォルダを指定する**

11 **「Apfiltr.inf」を選択してから「開く」ボタンをクリックする**

12 **「OK」ボタンをクリックする**

13 **「NX PAD」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする**

14 **「次へ」ボタンをクリックする**
必要なファイルがコピーされます。

15 **「完了」ボタンをクリックする**

16 **「閉じる」ボタンをクリックする**
「システム設定の変更」画面が表示されます。

17 **「はい」ボタンをクリックする**
本機が再起動します。

■Windows NT 4.0の場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする**
「マウスのプロパティ」画面が開きます。

2 **「全般」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする**

3 **「デバイスの選択」画面が表示されたら、「ディスク使用」ボタンをクリックする**

4 **「参照」ボタンをクリックする**

5 **「ファイルの場所」に「C:¥NT40¥SLIDEPAD」フォルダを指定する**

6 「Apoint.inf」を選択してから「開く」ボタンをクリックする

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「NX PAD」をクリックし、「OK」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。
「デバイスのインストールの確認」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

9 「名前」欄に「NX PAD」が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」画面が表示されます。

10 「はい」ボタンをクリックする

本機が再起動します。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウの左上の各タブを選択すると、NXパッドの設定を行うことができます。
それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

内蔵ハードディスク

ハードディスクとは、Windowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。
特に、データの読み書き中(アクセスランプの点灯中)には、少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので、ご注意ください。
ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。
特に、自分で作成した大切なデータなどは、再セットアップしても元どおりにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやMOなどの、ハードディスク以外の媒体に定期的にバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。

ハードディスクの購入時の状態

本機は、購入時の状態では、次のようにハードディスクが領域確保されています。

	Cドライブ	Dドライブ
Windows Meモデル	FAT32ファイルシステム(約4Gバイト)	FAT32ファイルシステム(残りの領域)
Windows 98モデル	FAT16ファイルシステム(約2Gバイト)	FAT32ファイルシステム(残りの領域)
Windows 2000 Professionalモデル	FAT32ファイルシステム(約4Gバイト)	NTFSファイルシステム(残りの領域)
Windows NTモデル	FAT16ファイルシステム(約4Gバイト)	NTFSファイルシステム(残りの領域)

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、外付けのハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

■Windows Me／Windows 98の場合

◎ 領域の確保

1 Windows Meの場合、「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」で「MS-DOSプロンプト」をクリックする
Windows 98の場合、「スタート」ボタン→「プログラム」で「MS-DOSプロンプト」をクリックする

「C：¥WINDOWS＞」が表示されます。

2 ハードディスクの容量と領域の情報を確認する

① FDISK【Enter】と入力する
② 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y/N）」と表示されたら「Y」を選んで【Enter】を押す
③ 「FDISKオプション」の画面が表示されたら「4. 領域情報を表示」を選ぶ
④ 表示された画面で、ハードディスクの容量を確認する
⑤ 【Esc】を押す
⑥ 【Esc】を押す

「C：¥WINDOWS＞」と表示されます。

3 手順2で確認したハードディスクの総容量に応じて、以下のように入力する

・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合
　FDISK /X【Enter】
・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合
　FDISK【Enter】

4 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y/N）」と表示されたら「Y」を選んで【Enter】を押す

「FDISKオプション」の画面が表示されます。
FAT32ファイルシステムで領域を作成します。より効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。

FAT32について詳しくは、「FAT32ファイルシステムの利用」(→p.48)をご覧ください。
Nを入力した場合は、FAT16ファイルシステムで領域を作成します。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱えます。

5 【1】を入力し、【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

6 【2】を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください.拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。

チェック!! **確保される領域は入力した領域サイズより大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとすると、2,052Mバイト等の値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,045Mバイト等、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。**

7 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました.」と表示されます。

8 【Esc】を押す

「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」と表示されます。

9 サイズを入力して【Enter】を押す

「論理MS-DOSドライブを作成しました.ドライブ名は変更または追加されました」と表示されます。

10 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順9を繰り返し、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示されます。

11 【Esc】を3回押す

「C:¥WINDOWS>」の表示に戻ります。

12 「EXIT」と入力し、【Enter】を押す

Windowsの画面に戻ります。

13 本機を再起動する

◎ フォーマット

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

チェック!! すでに使用されているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存されていたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 新たに領域を確保したドライブをクリックする

3 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
フォーマットの画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果の画面が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。

> スキャンディスクについては、次の「ハードディスクのメンテナンス」をご覧ください。

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」の画面をクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプの内容に従って、スキャンディスクを実行する
複数のドライブをフォーマットしたいときは、手順2～11の操作を繰り返してください。

■Windows 2000の場合

ここでは、ハードディスクの拡張パーティションの作成と論理ドライブの作成について説明します。プライマリパーティションの作成方法などについては、「ディスクの管理」のヘルプをご覧ください。

◎ 領域の確保とフォーマット

1 **「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」アイコンをダブルクリックする**

「管理ツール」ウィンドウが表示されます。

2 **「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックする**

「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。

3 **画面左側にある「ツリー」の中の「ディスクの管理」をクリックする**

表示された画面で、ハードディスクの容量や領域、ファイルシステムを確認してください。

4 **画面右下に表示されている「未割り当て」を選んで右クリックする**

ハードディスクに未割り当ての部分がない場合は表示されません。すでに使用しているドライブのパーティションの削除などについては、「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。

5 **表示されたメニューから、「パーティションの作成」をクリックする**

「パーティションの作成ウィザード」ウィンドウが表示されます。

6 **「次へ」ボタンをクリックする**

7 「拡張パーティション」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

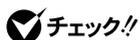
拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

8 作成する拡張パーティションのサイズを入力して「次へ」ボタンをクリックする

指定されたサイズのパーティションが作成されます。

9 「完了」ボタンをクリックする

ハードディスクの未割り当て領域がなくなるまで手順4〜9をくりかえし、すべての領域を割り当ててください。割り当てられた領域は、「ディスクの管理」ウィンドウでは「空き領域」と表示されます。続いてフォーマットを行います。

10 画面右下に表示されている「空き領域」を選んで右クリックする

チェック!! **すでに使用しているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存していたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。**

11 表示されたメニューから、「論理ドライブの作成」をクリックする

「パーティションの作成ウィザード」が表示されます。

12 「次へ」ボタンをクリックする

13 「次へ」ボタンをクリックする

論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

14 作成する論理ドライブのサイズを入力し、「次へ」ボタンをクリックする

15 表示されたドライブ文字の割り当てを確認して「次へ」ボタンをクリックする

「パーティションのフォーマット」が表示されます。

16 フォーマットの設定を確認して「次へ」ボタンをクリックする

必要であれば、フォーマットの設定を変更してください。フォーマットがはじまります。

17 **「完了」ボタンをクリックする**

これで、フォーマットが完了しました。複数のドライブをフォーマットしたい場合は、手順10〜17をくりかえしてください。

チェック!!
- 新たにパーティションの作成を行った後、「コンピュータの管理」ウィンドウを閉じると「ワトソン博士」のエラーメッセージが表示される場合がありますが、新たなパーティションは使用できます。
- 「パーティションの作成ウィザード」の項目を入力し、「完了」をクリックすると、新しいパーティションの作成後、「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というようなメッセージが表示される場合があります。この場合は、以下の手順でパーティションの初期化を行ってください。

①新たに作成したパーティションを右クリックし、「フォーマット」をクリックする
②項目を設定し、「OK」ボタンをクリックする
③「OK」ボタンをクリックする

■Windows NT 4.0の場合

◎ 領域の確保とフォーマット

ディスクアドミニストレータによって、ハードディスクのパーティションと拡張パーティションの論理ドライブの作成、ボリュームのフォーマット、ボリュームラベル付けを行います。

チェック!! プライマリパーティションの作成方法やドライブ文字の割り当てなどについては、ディスクアドミニストレータのヘルプをご覧ください。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「ディスクアドミニストレータ」をクリックする**

ディスクアドミニストレータが起動します。

2 **ディスクの空き領域をクリックする**

3 **「パーティション」メニュー→「拡張パーティションの作成」をクリックする**

拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

4 **作成する拡張パーティションのサイズを入力し、「OK」ボタンをクリックする**

指定されたサイズのパーティションが作成されます。

チェック!! **確保される領域は入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとすると、2,052Mバイト等の値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。**

5 作成する拡張パーティションの空き領域をクリックする

6 「パーティション」メニュー→「作成」をクリックする

論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

7 作成する論理ドライブのサイズを入力し、「OK」ボタンをクリックする

ドライブ文字が割り当てられ、「未フォーマット」と表示されます。

8 「パーティション」メニュー→「今すぐ変更を反映」をクリックする

「ディスク構成を変更しました。変更結果を保存しますか？」というメッセージが表示されます。

9 「はい」ボタンをクリックする

新しいシステム修復ディスクを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

10 「OK」ボタンをクリックする

11 新しく作成したパーティションをクリックする

12 「ツール」メニュー→「フォーマット」をクリックする

「フォーマット」ダイアログボックスが表示されます。

13 ファイルシステムを選択しボリュームラベルを入力したら、「開始」ボタンをクリックする

ディスクのすべてのデータが消去されることを警告するメッセージが表示されます。

14 「OK」ボタンをクリックする

「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されます。

15 「OK」ボタンをクリックする

16 「閉じる」ボタンをクリックする

FAT32ファイルシステムの利用

◎ FATとは

FAT(File Allocation Table)ファイルシステムとは、MS-DOSやWindowsにおいて、ディスクのどの場所にどのようなファイルがあるかを記録・管理するシステムのことです。
Windows Me、Windows 98では次の2つのFATファイルシステムをサポートしています。

・FAT32
FAT16を拡張したファイルシステムです。FAT32では理論上2Tバイト(2,048Gバイト)までの容量を扱うことができます。またFAT16よりも効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。

参照 FAT32に関する情報→「Windows」フォルダのGENERAL.TXT

・FAT16
MS-DOSや従来のWindowsで使われている基本的なファイルシステムです。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱うことができます。

◎ FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- FAT32はWindows Me、またはWindows 98モデルにインストールされているWindows Me、Windows 98で使うことができます。
- FAT32はWindows NT 4.0では利用できません。
- 別売のソフトウェアによっては正しく動作しないことがあります。
- スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。

◎ FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。
また、Windows 98では「ドライブコンバータ(FAT32)」を利用することで、FAT16のドライブをFAT32に変換することもできます。「ドライブコンバータ(FAT32)」について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

◆「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

1 Windows Meの場合、「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする
Windows 98の場合、「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする

「MS-DOSプロンプト」の画面が表示されます。

2 ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合はFDISK /x、8,193Mバイト以上のときはFDISKと入力し【Enter】を押す

ハードディスクの容量が512Mバイト以上のときは、大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 【Y】を押して【Enter】を押す

4 領域を作成する

512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。

5 「FDISK」を終了し、本機を再起動する

6 作成したドライブをフォーマットする

ハードディスクのメンテナンス

■Windows Me／Windows 98の場合

Windowsには、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。

◎ スキャンディスク

ハードディスクの表面やハードディスクに保存されているデータに、障害がないかどうかを調べるためのWindowsのツールです。もし障害があった場合は、可能な範囲で修復することができます。
スキャンディスクを実行するには、次の手順で操作してください。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」で「スキャンディスク」をクリックする**

「スキャンディスク」ウィンドウが表示されます。

2 **「エラーチェックをするドライブ」の一覧から、チェックするドライブをクリックする**

ここではハードディスクドライブを選びます。

3 **「開始」ボタンをクリックする**

チェックが始まります。

> チェックには数分から数十分かかることがあります。チェックが終了すると、「結果レポート」が表示されます。

◎ デフラグ

ハードディスクは長い間使用していると断片化がおこります。断片化とは、データがハードディスクにばらばらに保存されることで、データの読み書きのスピードの低下につながります。デフラグを実行すると、ばらばらに記録されたデータが最適化されます。
デフラグを実行するには、次の手順で操作してください。

用語 デフラグ

「フラグメンテーション(断片化)を解消する」の意味の省略語。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」で「デフラグ」をクリックする**

2 **表示された「ドライブの選択」ウィンドウのリストからデフラグするハードディスクを選ぶ**

お使いのモデルにより画面が異なる場合があります。

3 「OK」ボタンをクリックする

ディスクの最適化がはじまります。

「ディスクの最適化」が終了したら、画面の指示に従い、デフラグを終了してください。

チェック!!
- **デフラグの実行中は、絶対に電源を切ったり、再起動したり、スタンバイ状態（サスペンド）や休止状態にしないでください。**
- **デフラグは数時間かかる場合があります。**

■Windows 2000／Windows NT 4.0の場合

◎ ハードディスクのエラーをチェックする

Windowsには、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。また、軽い障害であれば、このメンテナンスソフトを使って修復することができます。定期的にチェックを実行して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。
メンテナンスソフトを実行するには次の手順で操作してください。

1 「マイコンピュータ」をダブルクリックする

2 チェックするハードディスクのアイコンをクリックする

3 「ファイル」メニュー→「プロパティ」を選択して、「ツール」タブをクリックする

4 「チェックする」ボタンをクリックする

5 チェックディスクのオプションを選択したら、「開始」ボタンをクリックする

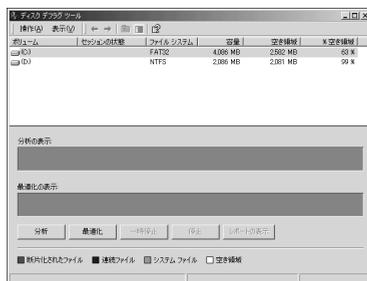
◎ ハードディスクを最適化する（Windows 2000のみ）

ハードディスクは長い間使用していると断片化がおこります。断片化とは、データがハードディスクにばらばらに保存されることで、データの読み書きのスピードの低下につながります。デフラグを実行すると、ばらばらに記録されたデータが最適化されます。
デフラグを実行するには、次の手順で操作してください。

用語 デフラグ

「フラグメンテーション(断片化)を解消する」の意味の省略語。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」で「ディスク デフラグ」をクリックする

2 表示された「ディスク デフラグ ツール」ウィンドウのリストからデフラグするハードディスクを選ぶ

3 「最適化」ボタンをクリックする

ディスクの最適化がはじまります。

> 「分析」ボタンをクリックすると、デフラグを実行する必要があるかどうかを確認することができます。

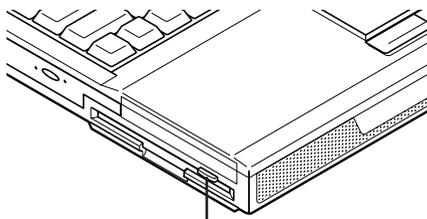
「ディスクの最適化」が終了したら、画面の指示に従い、デフラグを終了してください。

チェック!!

- **デフラグの実行中は、絶対に電源を切ったり、再起動したり、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。**
- **デフラグは数時間かかる場合があります。**
- **デフラグを実行した後、デフラグ終了時に「エラーが発生したため、mmc.exeを終了します。プログラムをもう一度開始する必要があります。エラーログを作成しています。」というようなメッセージが表示される場合がありますが、デフラグは正常に終了しています。**

フロッピーディスクドライブ

本機には3.5インチフロッピーディスクドライブが内蔵されています。

各部の名称と役割

使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

■Windows Me／Windows 98の場合

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フロッピーディスク（2DD）	640KB	×	×	×
	720KB	○	○	○
フロッピーディスク（2HD）	1.2MB	△	×	×
	1.44MB	○	○	○

○：使用可能

×：使用不可

**△：Windows 98ではフロッピーディスクの読み書きは可能です。
Windows Meで1.2MBのフロッピーディスクの読み書きを行うには、3モード対応フロッピーディスクドライバが必要です。添付の「アプリケーションCD-ROM」の中に入っているsetup.txtをご覧になり、セットアップを行ってください。**

EドライブにCD-ROMをセットした場合
E:¥WIN98¥3MODEFD2¥setup.txt

■Windows 2000／Windows NT 4.0の場合

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フロッピーディスク（2DD）	640Kバイト	×	×	×
	720Kバイト	○	○	○
フロッピーディスク（2HD）	1.2Mバイト※	○	○	○
	1.44Mバイト	○	○	○

○：使用可能
×：使用不可
※：Windows 2000の場合3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要

参照 **3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップ→「Windows 2000でフロッピーディスクドライブを使用するときの注意」（p.55）**

使用上の注意

- 本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- 「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くかかる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- Windows MeまたはWindows 98を使用している場合、MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」のFDドライブアイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
- Windows MeまたはWindows 98を使用している場合、2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットしたときは、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

◎ Windows 2000でフロッピーディスクドライブを使用するときの注意

Windows 2000で1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書きやフォーマットをする場合、3モードFDドライバのセットアップが必要です。セットアップは、Administrator権限のあるユーザでログオンして行ってください。

ここではCD-ROMドライブを例に説明しています。CD-R/RWドライブやCD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

◆ 3モードFDドライバのセットアップ

1 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

2 **「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする**

3 **「フロッピーディスクコントローラ」の「標準フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリックする**

4 **「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする**

5 **「デバイス ドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする**

6 **「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

7 **「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

8 **CD-ROMドライブに「アプリケーションCD-ROM」をセットし、「製造元のファイルのコピー元」に「E:¥WIN2K¥3MODE」と入力して「OK」ボタンをクリックする**

チェック!! ここでは、CD-ROMドライブをEドライブとして説明しています。実際と異なる場合は、ドライブ名を読み替えてください。

9 「次のデバイスのドライバが検索されました」と表示されたら、「別のドライバを1つインストールする」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

10 リストの一覧から次のドライバを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

NEC PC98-NX 3-mode Floppy controller(Type J)

11 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

12 「閉じる」ボタンをクリックする

13 本機を再起動する

14 再起動後、「コントロールパネル」を開き「システム」アイコンをダブルクリックする

15 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする

16 「フロッピーディスクドライブ」の「フロッピーディスクドライブ」をダブルクリックする

17 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

18 「デバイス ドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする

19 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

20 「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

21 「製造元のファイルのコピー元」に「E:¥WIN2K¥3MODE」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

22 **「次のデバイスのドライバが検索されました」と表示されたら、「別のドライバを1つインストールする」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

23 **リストの一覧から次のドライバを選択し、「次へ」ボタンをクリックする**
NEC PC98-NX 3-mode floppy disk drive

24 **「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする**

25 **「閉じる」ボタンをクリックする**

26 **再起動を促すメッセージが表示されたら、CD-ROMドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出し、「はい」ボタンをクリックする**
本機が再起動します。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方

◎ フロッピーディスクのセットのしかた

1 **カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む**
フロッピーディスクがセットされるとフロッピーディスクイジェクトボタンが少し飛び出します。

◎ フロッピーディスクの取り出し方

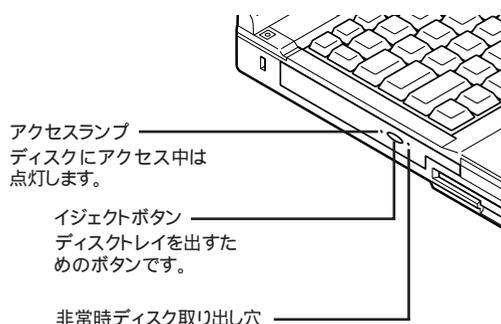
チェック!! **フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ(□)が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。**

1 **フロッピーディスクイジェクトボタンを押す**
フロッピーディスクが少し飛び出します。

2 **フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す**

CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

ここでの説明は、CD-ROMモデル、CD-R/RWモデル、CD-R/RW with DVD-ROMモデルのものです。

各部の名称と役割

CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

◎ CD-ROMドライブの場合

CD-ROMドライブでは、CD-ROMやCD-Rの読み込み、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどの再生ができます。

◎ CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合

CD-R/RWドライブやCD-R/RW with DVD-ROMドライブでは、CD-ROMなどの読み込みや、音楽CD、ビデオCD、フォトCDの再生のほかに、CD-Rへの書き込みやCD-RWの書き換えを行うことができます。また、CD-R/RW with DVD-ROMドライブでは上記のほかにDVD-ROMの読み込みやDVD VIDEOディスクを再生することもできます。

チェック!! **Windows NT 4.0では、DVD VIDEOディスクの再生はできません。**

◆CD-RやCD-RWへの書き込み

使用できるCD-RおよびCD-RWは、ISO9660に準拠したディスクです。書き込みできる容量は、使用するアプリケーションによって異なりますので、詳しくはアプリケーションのヘルプをご覧ください。

CD-RまたはCD-RWに書き込みするときは、「Easy CD Creator」または「DirectCD」というアプリケーションを使用します。これらのアプリケーションは、購入時にはインストールされていませんので、添付の「Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROM」でインストールを行ってください。

それぞれの機能や使用方法については、「Easy CD Creatorを使う」(→p.63)または「DirectCDを使う」(→p.65)をご覧ください。

◆CD-RやCD-RWへ書き込むときの注意

- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピー作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項にしたがってください。
- Easy CD Creatorなど、Track at once(トラック アット ワンス)方式やDisk at once(ディスク アット ワンス)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、CD-R、CD-RWへのデータ書き込み中に、他のアプリケーションを使用したり、自動的に省電力機能が働いたり、一定時間が経過してスクリーンセーバーやメールの自動受信プログラムなどが常駐していると、書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する場合があります。書き込みエラーの発生を抑えるため、データ書き込みの際は他の動作プログラムを閉じ、省電力機能や常駐するプログラムを無効(オフ)にすることをおすすめします。
- バッテリの残量がなくなると、書き込みエラーの原因になります。バッテリのみで本機を使用している場合は、書き込みを行う前にACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。

・本機に振動や衝撃をあたえないでください。書き込みエラーの原因となります。

ディスクにデータを書き込むために、パソコンはCD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブにデータを転送しています。転送されてきたデータはバッファ(データの一時的な蓄積場所)に貯められてから、ディスクに書き込まれますが、途中で割り込んでくる操作(たとえばスクリーンセーバーの起動など)があると、バッファへのデータの転送に遅れが生じてバッファが空になってしまい、ディスクへの書き込みに失敗してしまうことがあります。このような現象を「バッファアンダーラン」と呼びます。

DirectCDなど、Packet Write(パケット ライト)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、書き込みエラー(バッファアンダーラン)は起こりません。

・書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き込みの失敗によるCD-Rの補償はできませんので注意してください。
・DirectCDを使って、データの書き込みや削除をくりかえすと、CD-Rの空き容量が減っていきます。
・フォーマット形式などによっては、他のCD-ROMドライブなどでは使用できない場合があります。
・市販されているCD-RおよびCD-RWの一部に規格外のものがあります。規格外のCD-RおよびCD-RWでは正常に読み込めない場合があります。
・データを書き込んだCD-RWを他のパソコンで読む場合、マルチリード対応のCD-ROMドライブを使用してください。マルチリード対応CD-ROMドライブの確認は、各メーカーにお問い合わせください。

マルチリード対応のCD-ROMドライブとは、CD-RWを読み出せるようにしたCD-ROMドライブのことです。CD-RWはCD-ROMに比べて光の反射率が低いため、マルチリードに対応していないCD-ROMドライブでは読み出すことができません。

使用上の注意

- CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- アクセスランプが点灯しているときは、ディスクを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- ラベルが貼ってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じることがあります。これは故障の原因となるため、ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。

ディスクのセットのしかたと取り出し方

ここではCD-ROMドライブを例に説明しています。CD-R/RWドライブやCD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

◎ ディスクのセットのしかた

チェック!! Windows 98、Windows NT 4.0で「CDプレーヤー」を使用する場合、CD-ROMドライブにディスクをセットしていない状態では、「CDプレーヤー」の「取り出し」ボタンを押してもCD-ROMドライブのトレイは出てきません。トレイを出すためには、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押すか、または、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして対象となるCD-ROMドライブのアイコンを右クリックし、「取り出し」メニューを選択してください。

1 CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し飛び出します。

2 手でディスクトレイを静かに引き出す

3 ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込む

4 CD-ROMドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

◎ ディスクの取り出し方

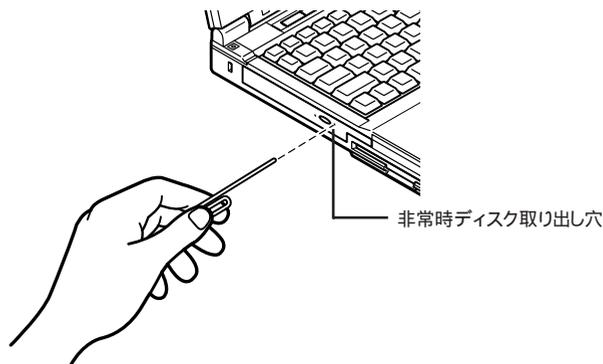
1 **CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押す**

ディスクトレイが少し飛び出します。

2 **手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す**

3 **CD-ROMドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す**

◎ 非常時のディスクの取り出し方

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

チェック!! **CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。**

Easy CD Creatorを使う

Easy CD CreatorはCD-R/RWモデルまたはCD-R/RW with DVD-ROMモデルにのみ添付のアプリケーションです。購入時にはインストールされていませんので、添付の「Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROM」でインストールを行ってください。

Windows 2000、Windows NT 4.0でEasy CD Creatorを使用する場合は、必ず「Administrator」権限でログオンしてください。

Easy CD Creatorは、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができるアプリケーションです。データを書き込む以外にも、音楽CDを作成したり、CD全体のバックアップなどの機能があります。ここでは、基本的なデータを書き込む操作について説明します。そのほかの機能や使い方について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

Easy CD Creatorで書き込んだCD-RWは、マルチリード対応のCD-ROMドライブで読み出すことができます。

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

◎ データを書き込む

ここでは、CD-RWを使ったデータの書き込みについて説明します。
はじめに、CD-RWを用意しておいてください。
なお、CD-Rの場合でも同様の手順で利用できます。その際は、「CD-RW」を「CD-R」に読み替えてください。

1 **CD-RWをCD-R/RWドライブにセットする**

2 **表示された画面のメニューの中から「データ」をクリックし、「データCD」をクリックする**

3 画面の上段で、書き込みたいデータがあるフォルダを選び、データのファイル名を表示させる

4 書き込みたいデータのファイル名を選んで、画面の下段にドラッグ&ドロップする

書き込むデータが画面の下段に表示されます。このとき、まだ書き込みは開始していません。

画面は多少異なる場合があります。

ファイル名を選んだ後、（追加）ボタンを押しても同様の操作ができます。下段に表示されたデータの中で書き込みを取りやめたいものがあれば、そのファイル名を選んで（削除）ボタンをクリックしてください。書き込みたいデータがほかにもある場合は、手順3～4をくりかえしてください。

5 （CDの作成）ボタンをクリックする

6 「CD作成セットアップ」画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックする

書き込みを開始します。
「コンパティビリティの警告」画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。

7 書き込み終了後、「OK」ボタンをクリックする

8 画面右上の ☒ ボタンをクリックし、Easy CD Creatorを終了する

「CDレイアウトの変更を無題に保存します。」というメッセージが表示されます。
書き込みが正常に終了した場合は保存の必要がないので、「いいえ」をクリックしてください。書き込みに失敗した場合や同じデータを別のCD-RWに書き込む場合は、「はい」をクリックして保存してください。

DirectCDを使う

DirectCDはCD-R/RWモデルまたはCD-R/RW with DVD-ROMモデルにのみ添付のアプリケーションです。購入時にはインストールされていませんので、添付の「Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROM」でインストールを行ってください。

Windows 2000、Windows NT 4.0でDirectCDを使用する場合は、必ず「Administrator」権限でログオンしてください。

DirectCDを使うと、フロッピーディスクやハードディスクと同じような感覚で、CD-RやCD-RWにデータを保存したり移動したりすることができます。簡単にデータを保存することができますので、データのバックアップなどに適しています。
ここでは、DirectCDを使ってCD-RまたはCD-RWにデータを書き込むときの基本的な操作を説明しています。
そのほかの機能や使い方について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

◎ 準備をする

DirectCDで使用するCD-RまたはCD-R/RWは、フォーマットされている必要があります。データを書き込む前に、次の手順でフォーマットしてください。すでにフォーマットされたCD-RまたはCD-RWを使用する場合は、この手順は必要ありません。次の「DirectCDで書き込む」(→p.67)の手順でデータの書き込みを行ってください。

1 CD-RまたはCD-RWをCD-R/RWドライブにセットする

フォーマット済みのCD-RまたはCD-RWをセットした場合、「CDの準備ができました」と表示されます。次の「DirectCDで書き込む」(→p.67)の手順2に進んで、データの書き込みを行ってください。

2 表示された画面のメニューの中から「データ」をクリックし、「DIRECTCD」をクリックする

3 「次へ」ボタンをクリックする

レコーダ情報の画面が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリックする

CDのフォーマットの画面が表示されます。

5 「次へ」ボタンをクリックする

CD名を付ける画面が表示されます。

6 「CD名」欄にCD名を入力して、「完了」ボタンをクリックする

CD名を付けておくと、あとから何のデータが入っているCDかを検索したいときに便利です。特に付ける必要がない場合は、何も入力しないで「完了」ボタンをクリックしてください。

7 処理時間を確認する画面が表示された場合は、処理時間を確認して「OK」ボタンをクリックする

フォーマットがはじまりますので、そのまましばらくお待ちください。
フォーマットが終了すると「CDの準備ができました」と表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする

CD-R/RWドライブのウィンドウが自動的に開いた場合は、×ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

これで、CD-RまたはCD-RWをDirectCDで使用するための準備ができました。このまま続けてデータの書き込みを行う場合は、次の「DirectCDで書き込む」の手順3に進んでください。

◎ DirectCDで書き込む

1 DirectCDでフォーマットしたCD-RまたはCD-RWをCD-R/RWドライブにセットしていない場合はセットする

「CDの準備ができました」と表示されます。

2 「OK」ボタンをクリックする

3 CD-RまたはCD-RWにデータを書き込む

フロッピーディスクやハードディスクと同じように、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」を使ってデータを書き込むことができます。

◎ CD-RまたはCD-RWを取り出す

DirectCDを使用しているときは、ディスクによって取り出し方が異なります。

◆CD-Rを取り出す

CD-Rを取り出すときは、DirectCDで書き込んだCD-Rをほかのパソコンの CD-ROMドライブで読み出すことができるようにするかどうかを選ぶ必要があります。

1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す

「CDの取り出し」の画面が表示されます。

> インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 CD-Rに、ほかのパソコンのCD-ROMドライブでも読み出せるように処理を行うかどうかを選ぶ

次もDirectCDで使用する場合は、「次回、このCDへはDirectCDで読み書きを行います。」がⓞになっていることを確認してください。ほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出したい場合は、「Windows 95/98、Windows NT 4.0(SP3以上)、およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」の○をⓞにします。また、必要であれば「再び書き込みができないように、CDを書き込み禁止にする」を☑にしてください。

「Windows 95/98、Windows NT 4.0(SP3以上)、およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」を選んで取り出した後、再度DirectCDで書き込みを行いたい場合は、を右クリックして「書き込み可能にする」を選び、設定を行ってください。

3 「完了」ボタンをクリックする

「CDは取り出されました。」と表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。自動的にディスクトレイが少し飛び出します。

4 表示されているメッセージを確認して、「OK」ボタンをクリックする

チェック!! 書き込んだCD-Rを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-Rを読み出すことはできません。

5 CD-R/RWドライブからCD-Rを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

◆CD-RWを取り出す

1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す

しばらくすると、「CDは取り出されました。」と表示され、ディスクトレイが少し飛び出します。

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 **表示されているメッセージを確認して「OK」ボタンをクリックする**

チェック!! 書き込んだCD-RWを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-RWを読み出すことはできませんので注意してください。

3 **CD-R/RWドライブからCD-RWを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す**

液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイの表示を調整する方法や、表示できる解像度と表示色について説明しています。

画面表示を調整する

◎ 表示を調整する

本機では、キーボードを使って輝度や画面の伸縮の調整を行います。輝度は8段階で調整することができます。

機　　能	キー操作	説　　明
輝度を上げる　▲☼	【Fn】＋【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します。
輝度を下げる　▼☼	【Fn】＋【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します。
画面の伸縮※	【Fn】＋【F10】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する／しないを切り替えます。

※：購入時には拡大表示に設定されています。

◎ 表示するディスプレイを切り替える

本機は、液晶ディスプレイだけでなく、別売のCRTディスプレイやプロジェクタなどに画面を表示することもできます。

参照 **別売のディスプレイやプロジェクタについて→PART2の「外部ディスプレイ」(p.233)**

別売のCRTディスプレイなどを接続した場合、キーボードの【Fn】を使って、次のように表示するディスプレイを切り替えることができます。

機　　能	キー操作	説　　明
ディスプレイ切り替え　▁/▢	【Fn】＋【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります。

※：テレビが接続されているときのみ切り替わります。

チェック!! Windows NT 4.0を起動したとき、液晶ディスプレイに何も表示されない場合は、【Fn】＋【F3】を押して、液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

表示できる解像度と表示色

解像度

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度（ドット）	表示色	本機の液晶ディスプレイのみに表示	別売のディスプレイのみに表示	本機の液晶ディスプレイと別売のディスプレイの同時表示※1	TVのみ
640×480	26万色中256色	●	◎	●	◎
	65,536色	●	◎	●	◎
	1,677万色※2	●	◎	●	◎
800×600	26万色中256色	○	◎	○	◎
	65,536色※3	○	◎	○	◎
	1,677万色※2	○	◎	○	◎
1,024×768	26万色中256色	◎※5	◎	◎※5	◎
	65,536色※4	◎※5	◎	◎※5	◎
	1,677万色※2	◎※5	◎	◎※5	◎
1,280×1,024	26万色中256色	△	◎	△	△
	65,536色	△	◎	△	△
	1,677万色※2	△	◎	△	△
1,600×1,200	26万色中256色	△	◎	△	△
	65,536色	△	◎	△	△

●：【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大／縮小切り替え可能（縮小画面の場合、画面のまわりが黒く表示される）
○：14.1型モデルおよび13.3型モデルでは、画面のまわりが黒く表示される（【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大表示可能）
◎：フルスクリーン表示可能
△：バーチャルスクリーンで表示可能（Windows 2000モデル、Windows NTモデルを除く）
※1：別売のCRT未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される
※2：本機の液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのディザリング機能により実現
※3：12.1型モデルの購入時の設定
※4：14.1型モデル、13.3型モデルの購入時の設定
※5：14.1型モデルおよび13.3型モデルではフルスクリーン表示、12.1型モデルではバーチャルスクリーン表示（Windows 2000モデル、Windows NTモデルを除く）

320×200ドット、320×240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、本機では画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定します。

■Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 画面の領域または色を変更する

画面の領域の変更をする場合

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

チェック!! 設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

色の変更をする場合

「色」または「画面の色」で▼をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

> High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする

このあとは、画面の指示に従って操作してください。

■Windows NT 4.0の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「ディスプレイの設定」タブをクリックする

3 デスクトップの領域または色を変更する

デスクトップの領域の変更をする場合

「デスクトップ領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

色の変更をする場合

「カラーパレット」で▼をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

4 設定が終了したら「OK」ボタンをクリックする

このあとは画面の指示に従って操作してください。

バーチャルスクリーン(Windows 2000を除く)

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

◎ バーチャルスクリーンモードの設定方法

バーチャルスクリーンモードを使用する場合には、次の設定が必要です。

◆Windows Meの場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。

4 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

5 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

6 「すべてのハードウェアを表示」を選択する

7 「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄の「Super VGA 1600×1200」をクリックする

8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする
これで設定が完了しました。

この後は、画面の指示に従って操作してください。上記の設定をした後は、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。
640×480ドット/800×600ドット/1,024×768ドット/1,280×1,024ドット/1,600×1,200ドット

◆Windows 98の場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする**
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする**

3 **「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする**
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。

4 **「次へ」ボタンをクリックする**

5 **検索方法で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

6 **「すべてのハードウェアを表示」を選択する**

7 **「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄の「Super VGA 1600×1200」をクリックする**

8 **「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする**

9 **「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする**

10 **「OK」ボタンをクリックする**
これで設定が完了しました。

この後は、画面の指示に従って操作してください。上記の設定をした後は、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。
640×480ドット/800×600ドット/1,024×768ドット/1,280×1,024ドット/1,600×1,200ドット

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ機能はWindows MeモデルおよびWindows 98モデルのみの機能です。
デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広くなります。

> デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのとは別の機能です。

チェック!! 画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

参照 別売のCRTディスプレイなどを接続するには→「外部ディスプレイ」(p.233)

◎ デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン／オフ、プライマリ／セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる(→p.234)

2 本機の電源を入れる

3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

4 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。

6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。

チェック!! 表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

7 「モニタ」「パネル」の下のボタンをクリックする

「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。

チェック!! すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする

◎ デュアルディスプレイ機能を使う

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックする

モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。

4 「はい」ボタンをクリックする

5 「適用」ボタンをクリックする

これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

◎ デュアルディスプレイ機能を解除する

1 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1～2を行う

2 「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする

3 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする

4 「適用」ボタンをクリックする

これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

コントロールパネルで画面表示を設定するときの注意

Windows 2000を使用している場合、「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」で設定を行うときは次のことに注意してください。

・「ATI画面」タブ※で「モニタ」または「パネル」の下にある青いボタンをクリックして「セカンダリ」に設定しても正常に表示されません。両方とも「プライマリ」にして使用してください。

※：「ATI画面」タブは、「画面のプロパティ」の「設定」タブで「詳細」ボタンをクリックし、表示された画面で「ATI画面」タブをクリックすると表示されます。

バッテリ

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付のバッテリパックだけで駆動することができます。

バッテリで本機を使うときの注意

- **バッテリが充分に充電されているときは、特に必要でないかぎり、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。**
- **充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリ残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリ残量に誤差が生じることがあります。**
- **ハードディスクやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリ残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。**

◎ バッテリパックを長持ちさせるには

次のような点に気を付けると、バッテリパックを長持ちさせることができます。

- バッテリの残量をできるだけなくしてから充電する
- 充電はフル充電（バッテリ充電ランプが消灯）になるまで中断しない
- 定期的にバッテリリフレッシュを実行する（→p.85）
- 本機を1カ月以上使わないときは、バッテリパックを取り外して、涼しいところに保管する

◎ バッテリの上手な使い方

- バッテリだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 **省電力機能について→このPARTの「省電力機能」（p.90, 101, 115, 126）**

- バッテリは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2～3カ月に一度は充電することをおすすめします。

◎ バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなったときは

バッテリ残量が少なくなると、電源ランプ( )が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

・ACコンセントから電源を供給できる場合

いったん使用中のソフトウェアを終了して本機の電源を切り、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリ充電ランプ( )が点灯し、バッテリの充電がはじまります。また、バッテリを充電しながら本機を使用することもできます。

・ACコンセントが使えない場合

使用中のソフトウェアを終了して、本機の電源を切ってください。

上記の操作を行わずにそのままにしておくと、Windows Me、Windows 98、Windows 2000の場合は、「コントロールパネル」の「電源の管理」(Windows Me、Windows 98の場合)または「電源オプション」(Windows 2000の場合)で設定してある状態になります。
Windows NT 4.0の場合は、再度バッテリ残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると電源が切れますので注意してください。

◆ バッテリが少なくなったときの動作の設定をする

バッテリ残量が少なくなったりバッテリ残量がなくなったときに、本機をどのような動作や状態にするかを設定することができます。設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」アイコン(Windows Me、Windows 98の場合)または「電源オプション」アイコン(Windows 2000の場合)をダブルクリックすると表示される画面の「アラーム」タブで行うことができます。

充電のしかた

チェック!!

- **バッテリの充電中は、バッテリパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。**
- **購入直後や長時間放置したバッテリでは、バッテリ駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリ残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。**

◎ バッテリの充電のしかた

本機にバッテリパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリの充電が始まります。
本機の電源を入れて使用していても充電されます。

> 充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18〜28°Cでの充電をおすすめします。

参照 **バッテリの充電時間について→PART4の「機能一覧」(→p.304，306)**

◎ 充電状態を表示ランプで確認する

バッテリの充電状態を、バッテリ充電ランプ( )で確認することができます(→p.85)。

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリ充電中
	点滅	バッテリのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※：バッテリを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリリフレッシュを行ってください(→p.85)。

バッテリ残量の確認

チェック!! フル充電されている状態では、バッテリ残量表示に多少の誤差が生じる場合があります。

■Windows Me／Windows 98の場合

バッテリ残量は、次の3つの方法で確認することができます。

・インジケータ領域(タスクトレイ)にある の上にマウスポインタを合わせる

この画面はモデルによって異なることがあります。
また、アイコンはバッテリの残量により異なります。

・インジケータ領域(タスクトレイ)の をダブルクリックして、表示された「電源メーター」ウィンドウを見る

この画面はWindows 98のものです。画面はモデルによって異なることがあります。

・「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る

この画面はWindows 98のものです。画面はモデルによって異なることがあります。

ACコンセントから電源を供給しているときは、 は に変わります。

■Windows 2000の場合

バッテリ残量は、次の3つの方法で確認することができます。

・インジケータ領域(タスクトレイ)にある[バッテリアイコン]の上にマウスポインタを合わせる

この画面はモデルによって異なることがあります。
また、アイコンはバッテリの残量により異なります。

・インジケータ領域(タスクトレイ)の[バッテリアイコン]をダブルクリックして、表示された「バッテリ メーター」ウィンドウを見る

・「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る

■Windows NT 4.0の場合

バッテリ残量は、次の3つの方法で確認することができます。

・インジケータ領域(タスクトレイ)にある[バッテリアイコン]の上にマウスポインタを合わせる

この画面はモデルによって異なることがあります。
また、アイコンはバッテリの残量により異なります。

・インジケータ領域(タスクトレイ)の[バッテリアイコン]をダブルクリックして、表示された「PowerProfiler」ウィンドウを見る

・「スタート」ボタン→「プログラム」で「PowerProfiler」を開き、「バッテリ」タブをクリックして、表示された「電源のプロパティ」ウィンドウを見る

ACコンセントから電源を供給しているときは、[アイコン]は[アイコン]に変わります。

バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュは、一時的に低下したバッテリの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリリフレッシュを実行してください。

- **バッテリでの駆動時間が短くなった**
  バッテリを完全に使い切らない状態で充電を繰り返していると、バッテリの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これを「バッテリのメモリ効果」と呼びます。
- **購入直後や長期間、バッテリを使用しなかったため、バッテリの性能が一時的に低下した**
- **バッテリの残量表示に誤差が生じている**
  バッテリの充電が完了し、バッテリ充電ランプ( )が消えてしばらくしても、バッテリの残量表示が95%以上にならない場合は、バッテリの残量表示に誤差が生じていると考えられます。

◎ バッテリリフレッシュの実行

1. **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**
2. **バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本体に取り付ける(→p.89)**
3. **パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する**
4. **バッテリ充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリパックを本体から外して、再度取り付ける**
5. **バッテリをフル充電(バッテリ充電ランプが消灯した状態)まで充電する**
6. **本機の電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける**
   BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

チェック!! **BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り、【F2】を押しながら電源を入れ直してください。**

7 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す**

8 **【↑】または【↓】で「バッテリリフレッシュ(Refresh Battery)」を選び、【Enter】を押す**

9 **「バッテリリフレッシュを行いますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す**

次のような画面が表示されます。

```
Continue Battery Refresh
Cancel Battery Refresh
```

10 **【↑】または【↓】で「Continue Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す**

次のような画面が表示され、バッテリリフレッシュが始まります。

```
Battery Refresh Now(55% LEFT)……Don't close Display……Press ESC Key to Cancel
```

チェック!!

- **バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶ディスプレイを閉じると、ピピピと警告音がなります。**
- **バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、標準バッテリ使用時フル充電状態で約160分です。**

バッテリリフレッシュが完了し、バッテリ内の電力がなくなると自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

◆ バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

1 【Esc】を押す

次のようなメッセージが表示されます。

```
Continue Battery Refresh
Cancel Battery Refresh
```

2 【↑】または【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す

本機が再起動します。

バッテリリフレッシュ中に本機の電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリリフレッシュを続ける場合はACアダプタを外し、「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は、「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリリフレッシュが中断し、本機が再起動します。

バッテリパックの交換

◎ 交換の目安

フル充電(バッテリを充電してバッテリ充電ランプが消灯した状態)で使用できる時間が短くなったら、バッテリリフレッシュ(→p.85)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリパックを購入して交換してください。

本機に取り付けられる交換用バッテリパックは次の2種類です。

- **PC-VP-WP12　バッテリパック(リチウムイオン)**
- **PC-VP-WP13　バッテリパック(ニッケル水素)**

リチウムイオンバッテリパックを取り付けると、ニッケル水素バッテリパックを取り付けた場合よりも、バッテリ駆動時間が20%程度長くなります。

チェック!!

- **特に必要でない限り、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。**
- **バッテリは消耗品です。放充電をくりかえすと、充電能力が低下します。**

◎ バッテリパックの交換のしかた

⚠警告

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。 落雷による感電のおそれがあります。

● 使用を終えたバッテリパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠注意

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チェック!!

・バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。 接触不良の原因となります。

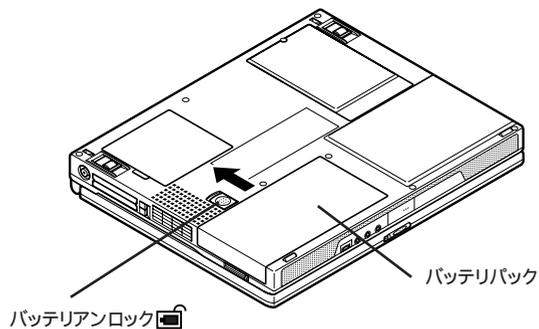
・電源が入っているときやスタンバイ状態（サスペンド）のときにバッテリパックを交換すると、作業中のデータが失われます。 電源ランプ（⏻）が点滅しているときには、一度スタンバイ状態（サスペンド）から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。

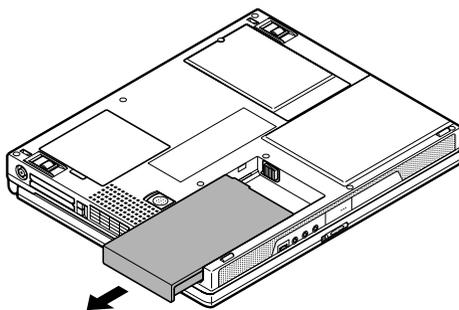
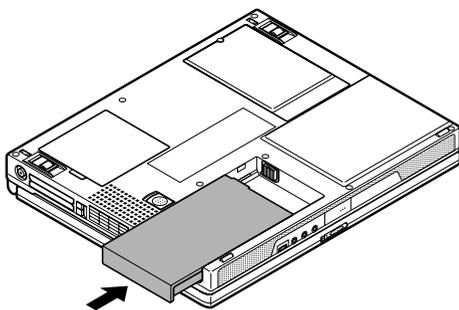
1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

4 バッテリパックの横にあるバッテリアンロック（ ）を矢印の方向にスライドさせる

スライドさせたままの状態で、そのまま次の手順へ進んでください。

5 バッテリパックを矢印の方向にスライドさせる

バッテリパックが外れます。

6 新しいバッテリパックを矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせる

省電力機能(Windows Meの場合)

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

◎ 本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」「休止状態(ハイバネーション)」「Intel® SpeedStep™テクノロジ」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

◆ スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

参照 **スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態(サスペンド)」(p.93)**

◆ 休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。
データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照 **休止状態にする→「休止状態(ハイバネーション)」(p.96)**

チェック!! BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。

◆ **Intel® SpeedStep™テクノロジ(VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのみ)**
電源の種類によって、動作性能を切り替えることができます。
BIOSセットアップメニューで設定する方法と、Windowsのコントロールパネルで設定する方法の2種類があります。

参照 **Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする→「Intel® SpeedStep™テクノロジ」(p.99)**

省電力機能使用上の注意

◎ スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- プリンタへ出力中
- 赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
- 通信用アプリケーションを実行中
- 電話回線を使って通信中
- 音声または動画を再生中
- ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクなどにアクセス中
- システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- Windowsの起動/終了処理中
- スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカードやUSB対応機器を使用中

◎ スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- バッテリのみで使用している場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ駆動時にバッテリ残量が少なくなってきたとき、本機をどのような動作にさせるかなどを「コントロールパネル」の「電源の管理」で設定することもできます。

・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
・スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
・SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
・「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」で、ディスプレイの省電力機能を使用する場合は、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。スクリーンセーバー機能を使用しないと、「MS-DOSプロンプト」使用時、省電力機能は利用できません。

◎ スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
・CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブにフォトCDを入れたままスタンバイ状態または休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
・タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作、および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。

・SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。

参照 **パスワード設定時の復帰→このPARTの「セキュリティ機能」の「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.142)**

スタンバイ状態(サスペンド)

◎ スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。
スタンバイ状態になると、電源ランプ(⏻)が緑色に点滅します。

- **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする**
- **バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする**
- **液晶ディスプレイを閉じる**

ほかにも、設定を行うことにより、電源スイッチを押してスタンバイ状態にすることもできます。

- **電源スイッチを押す**
  電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。

「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブで、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」が☑になっていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の左の☑をクリックして□にしてください。

◎ スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

・電源スイッチを押す

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

> 液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰することができます。また、タスクスケジューラを使って時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

◎ スタンバイ状態の設定をする

◆「電源設定」で設定をする

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」では、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。

また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「LaVie/VersaPro」のモードに設定されています。モードは「常にオン」「ホーム／オフィスデスク」「ポータブル／ラップトップ」「LaVie/VersaPro」の4つがあります。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する

- **モニタの電源を切る**

  入力が何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。

- **ハード　ディスクの電源を切る**

  指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。

- **システム　スタンバイ**

  指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。

- **システム休止状態**

  指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

画面の下段の「**の電源の設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◆ 新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「モニタの電源を切る」「ハード ディスクの電源を切る」「システムスタンバイ」「システム休止状態」のそれぞれの時間を設定する

4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする

これで、新しいモードが登録されました。

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

休止状態(ハイバネーション)

◎ 休止状態にする

購入時の状態では次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。休止状態になると、電源ランプ(⏻)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

- **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「休止状態」を選び、「OK」ボタンをクリックする**
- **バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする**

ほかにも、設定を行うことにより、次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。

- **液晶ディスプレイを閉じる**
- **電源スイッチを押す**

上記の方法で休止状態にできるようにするためには、次の「休止状態を利用するための準備」の手順を行ってください。

◎ 休止状態を利用するための準備

◆ 電源スイッチを押して休止状態にする

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「休止状態」タブをクリックする

3 「休止状態をサポートする」が☑になっていることを確認する

4 「適用」ボタンをクリックする

5 「詳細設定」タブをクリックする

6 「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ

7 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◆ 液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1〜5を行う

2 「電源ボタン」の欄の「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ

3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

ATAカードをセットした状態で休止状態にすると、時間がかかる場合があります。

「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブで、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」が☑になっていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の左の☑をクリックして□にしてください。

◎ 休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

・電源スイッチを押す

「Returning to Windows ...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

チェック!! タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、ポインティングデバイスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

◎ タイマ

「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「電源設定」タブで、「システム スタンバイ」または「システム休止状態」の設定をします。

「システム スタンバイ」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどがない場合に、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。
「システム休止状態」を設定しておくと、設定した時間を経過してもポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスがない場合に、自動的に休止状態にすることができます。

◎ リモートパワーオン機能(内蔵LAN機能による電源操作)

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応したパソコンの電源を操作する機能です。

参照 リモートパワーオン機能について→「LAN(ローカルエリアネットワーク)」の「本機の運用管理」(p.194)

◎ リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。ただし、この機能で本機の電源を入れることはできません。

Intel® SpeedStep™テクノロジ

ここでは、VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのIntel® SpeedStep™テクノロジについて説明しています。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジを使用できるようにするには、以下の手順でセットアップを行う必要があります。

1 **デスクトップ上の(SpeedStep)をダブルクリックする**

2 **「ようこそ」画面で「次へ」ボタンをクリックする**

3 **「ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする**

4 **「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「完了」ボタンをクリックする**

本機が自動的に再起動します。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする

◆ BIOSセットアップメニューで設定する

BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」の「Intel(R) SpeedStep(TM)テクノロジ」で設定できます。

モード	機能
自動※	AC電源で駆動中にこのパソコンを使用する場合、最高性能で動作します。
バッテリ最適化	常にバッテリ最適性能で動作します。
使用しない	本機能が、無効になります。

※: 購入時の設定

参照 BIOSセットアップメニュー→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(→p.276)

◆コントロールパネルの「電源の管理」で設定する

1 **「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする**

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 **「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブをクリックする**

インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックして起動することもできます。

本機をバッテリのみで使用するときと、AC電源で使用するときの設定を行います。

- **バッテリモードの場合**

「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定されています。この項目は変更できません。

- **AC電源の場合**

「バッテリに合わせたパフォーマンス」、または「最大パフォーマンス」のどちらかを選択できます。をクリックして選んでください。

・「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更」がになっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。
・「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認」がになっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。
・「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブでの設定内容は、Windowsの終了時にBIOSセットアップメニューに反映されます。

省電力機能(Windows 98の場合)

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

◎ 本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」「休止状態(ハイバネーション)」「Intel® SpeedStep™テクノロジ」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

◆ スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

参照 **スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態(サスペンド)」(p.104)**

◆ 休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。
データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照 **休止状態にする→「休止状態(ハイバネーション)」(p.108)**

チェック!! **BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。**

◆ **Intel® SpeedStep™テクノロジ(VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのみ)**

電源の種類によって、動作性能を切り替えることができます。
BIOSセットアップメニューで設定する方法と、Windowsのコントロールパネルで設定する方法の2種類があります。

参照 **Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする→「Intel® SpeedStep™テクノロジ」(p.113)**

省電力機能使用上の注意

◎ スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

・プリンタへ出力中
・赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
・通信用アプリケーションを実行中
・電話回線を使って通信中
・音声または動画を再生中
・ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクなどにアクセス中
・システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
・Windowsの起動/終了処理中
・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカードやUSB対応機器を使用中

◎ スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

・スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
・バッテリのみで使用している場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ駆動時にバッテリ残量が少なくなってきたとき、本機をどのような動作にさせるかなどを「コントロールパネル」の「電源の管理」で設定することもできます。

- スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」で、ディスプレイの省電力機能を使用する場合は、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。スクリーンセーバー機能を使用しないと、「MS-DOSプロンプト」使用時、省電力機能は利用できません。

◎ スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブにフォトCDを入れたままスタンバイ状態または休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
- スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
- タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作、および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。

・SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。

参照 **パスワード設定時の復帰→このPARTの「セキュリティ機能」の「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.142)**

スタンバイ状態(サスペンド)

◎ スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。
スタンバイ状態になると、電源ランプ(⏻)が緑色に点滅します。

- **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする**
- **バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする**
- **液晶ディスプレイを閉じる**

ほかにも、設定を行うことにより、電源スイッチを押してスタンバイ状態にすることもできます。

- **電源スイッチを押す**

  電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。

「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークが入っていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークをはずしてください。

◎ スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

・電源スイッチを押す
スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

> 液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰することができます。また、タスクスケジューラを使って時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

◎ スタンバイ状態の設定をする

◆「電源設定」で設定をする
「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」では、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。
また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「常にオン」のモードに設定されています。モードは「常にオン」「ホーム／オフィスデスク」「ポータブル／ラップトップ」の3つがあります。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する

- **システム スタンバイ**
  指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
- **モニタの電源を切る**
  入力が何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
- **ハード ディスクの電源を切る**
  指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。

> 画面の下段の「**の電源の設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

「システムスタンバイ」の設定時間を「モニタの電源を切る」の設定時間よりも後にした場合、「システムスタンバイ」はモニタの電源を切る」が実行されてからの時間になります。下記のような設定がされている場合、実際に「システムスタンバイ」が実行されるのは、「モニタの電源を切る」の20分後である35分後となります。

「モニタの電源を切る」→20分後
「システムスタンバイ」　→15分後

入力がなくなった状態から「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合は、下記のように設定してください。

例1:
「システムスタンバイ」 →15分後
「モニタの電源を切る」→5分後
例2:
「システムスタンバイ」 →20分後
「モニタの電源を切る」→なし

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◆ 新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「システム スタンバイ」「モニタの電源を切る」「ハード ディスクの電源を切る」のそれぞれの時間を設定する

4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする

これで、新しいモードが登録されました。

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

休止状態(ハイバネーション)

◎ 休止状態にする

購入時の状態では休止状態の機能は利用できませんが、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ(⏻)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

・電源スイッチを押す

「Suspend to Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

・液晶ディスプレイを閉じる

上記の方法で休止状態にできるようにするためには、次の「休止状態を利用するための準備」の手順を行ってください。

◎ 休止状態を利用するための準備

◆ 電源スイッチを押して休止状態にする

1 **「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする**

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 **「休止状態」タブをクリックする**

3 **「休止状態をサポートする」が☑になっていることを確認する**

4 **「適用」ボタンをクリックする**

5 **「詳細」タブをクリックする**

6 **「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ**

7 **「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする**

◆液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1〜5を行う

2 「電源ボタン」の欄の「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ

3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

> ATAカードをセットした状態で休止状態にすると、時間がかかる場合があります。

> 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークが入っていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークをはずしてください。

◎ 休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

・電源スイッチを押す
「Resuming from Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

◎ 休止状態の設定の解除と再設定

休止状態中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存しています。このファイルのことを「ハイバネーション用ファイル」と呼び、工場出荷時には、すでに作成された状態になっています。このハイバネーション用ファイルをいったん削除することを「休止状態の設定の解除」と呼び、メモリの取り付け／取り外しを行ったり、Cドライブの圧縮／圧縮解除を行ったときには、この「休止状態の設定の解除」を行う必要があります。
設定を解除したあと、再び休止状態を利用したいときは、「休止状態の再設定」でハイバネーション用ファイルを作成する必要があります。

◆ 休止状態の設定を解除する

休止状態の設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使います。

チェック!! **「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。**

1 **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ**

2 **「OK」ボタンをクリックする**

MS-DOSモードで再起動します。

3 **次のように入力する**

HIBEROFF【Enter】

4 **次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)を押して本機の電源を切る**

```
ハイバネーション用ファイルを削除しました.
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください.
```

メッセージが表示されない場合には、次のように入力します。

CD C:¥necutils¥hdprep【Enter】
HIBEROFF【Enter】

すでに休止状態の機能を使うためのファイルが削除されている状態で「ハイバネーション設定ユーティリティ」を実行すると、「ハイバネーション用ファイルは存在しません.」と表示されます。

5 **5秒以上待ってから、本機の電源を入れる**

これで休止状態の機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、休止状態の設定を解除することができました。

◆ 休止状態を再設定する

休止状態の設定を解除したときや、休止状態のためのファイルを削除してしまったときは、休止状態の再設定を行ってください。

チェック!! 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ

2 「OK」ボタンをクリックする

MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する

HIBERON【Enter】

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示されることがあります(お使いの機器のメモリ容量によって異なります)。
ハードディスクの空き容量が不足しているというメッセージが表示された場合は、不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保したあと、手順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、本機に搭載されているメモリ容量+8Mバイトです。

4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)を押して本機の電源を切る

ハイバネーションファイルを作成しました.
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください.

メッセージが表示されない場合には、次のように入力します。

CD C:¥necutils¥hdprep【Enter】
HIBERON【Enter】

すでに休止状態の機能を使うためのファイルがある状態で実行すると、「ハイバネーションファイルはすでに存在します」と表示されます。

5 5秒以上待ってから、本機の電源を入れる

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

チェック!! タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、ポインティングデバイスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

◎ タイマ

「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「電源設定」タブで、「システム スタンバイ」の設定をします。

「システム スタンバイ」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどがない場合に、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。

◎ リモートパワーオン機能(内蔵LAN機能による電源操作)

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応したパソコンの電源を操作する機能です。

参照 リモートパワーオン機能について→「LAN(ローカルエリアネットワーク)」の「本機の運用管理」(p.194)

◎ リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。ただし、この機能で本機の電源を入れることはできません。

Intel® SpeedStep™テクノロジ

ここでは、VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのIntel® SpeedStep™テクノロジについて説明しています。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジを使用できるようにするには、以下の手順でセットアップを行う必要があります。

1 デスクトップ上の(SpeedStep)をダブルクリックする

2 「ようこそ」画面で「次へ」ボタンをクリックする

3 「ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする

4 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「完了」ボタンをクリックする

本機が自動的に再起動します。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする

◆ BIOSセットアップメニューで設定する

BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」の「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」で設定できます。

モード	機能
自動※	AC電源で駆動中にこのパソコンを使用する場合、最高性能で動作します。
バッテリ最適化	常にバッテリ最適性能で動作します。
使用しない	本機能が、無効になります。

※：購入時の設定

参照 BIOSセットアップメニュー→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(→p.276)

◆ コントロールパネルの「電源の管理」で設定する

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブをクリックする

インジケータ領域（タスクトレイ）のをダブルクリックして起動することもできます。

本機をバッテリのみで使用するときと、AC電源で使用するときの設定を行います。

- **バッテリモードの場合**

  「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定されています。この項目は変更できません。

- **AC電源の場合**

  「バッテリに合わせたパフォーマンス」、または「最大パフォーマンス」のどちらかを選択できます。をクリックして選んでください。

・「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更」がになっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。
・「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認」がになっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。
・「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブでの設定内容は、Windowsの終了時にBIOSセットアップメニューに反映されます。

省電力機能（Windows 2000の場合）

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

◎ 本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態（サスペンド）」「休止状態（ハイバネーション）」「Intel® SpeedStep™テクノロジ」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。本機での省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。

◆ スタンバイ状態（サスペンド）

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰（レジューム）」と呼びます。

参照 **スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態（サスペンド）」（p.118）**

◆ 休止状態（ハイバネーション）

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰（レジューム）」と呼びます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照 **休止状態にする→「休止状態（ハイバネーション）」（p.121）**

チェック!! **BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。**

◆ **Intel® SpeedStep™テクノロジ(VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのみ)**

電源の種類によって、動作性能を切り替えることができます。
BIOSセットアップメニューで設定する方法と、Windowsのコントロールパネルで設定する方法の2種類があります。

参照 **Intel® SpeedStep™テクノロジを設定する→「Intel® SpeedStep™テクノロジ」(p.123)**

省電力機能使用上の注意

◎ スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

・プリンタへ出力中
・通信用アプリケーションを実行中
・電話回線を使って通信中
・音声または動画を再生中
・ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクなどにアクセス中
・「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中
・Windowsの起動/終了処理中
・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカードやUSB対応機器を使用中

◎ スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

・スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
・バッテリのみで使用している場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ駆動時にバッテリ残量が少なくなってきたとき、本機をどのような動作にさせるかなどを「コントロールパネル」の「電源オプション」で設定することもできます。

- スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。

◎ スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブにフォトCDを入れたままスタンバイ状態または休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
- スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
- タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。
- SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- スタンバイ状態から復帰後、モデムについての「デバイスの取り外しの警告」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。

  警告が発生したデバイスはそのまま使用することができます。

・フロッピーディスクやCD-ROMがセットされている状態で、休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合には、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にするようにしてください。
フロッピーディスクを使用している場合は、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。

参照 **パスワード設定時の復帰→このPARTの「セキュリティ機能」の「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.142)**

スタンバイ状態(サスペンド)

◎ スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(⏻)が緑色に点滅します。

- **「スタート」ボタン→「シャットダウン」で▼をクリックして「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする**
- **バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする**
- **液晶ディスプレイを閉じる**

ほかにも、設定を行うことにより、電源スイッチを押してスタンバイ状態にすることもできます。

- **電源スイッチを押す**
  電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源オプションのプロパティ」の「詳細」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

◎ スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

- **電源スイッチを押す**

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

> ログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰することができます。また、タスクスケジューラを使って、時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

◎ スタンバイ状態の設定をする

◆「電源設定」で設定をする

「コントロールパネル」の「電源オプション」の「電源設定」では、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。
また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「ポータブル/ラップトップ」のモードに設定されています。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する

・**モニタの電源を切る**
入力が何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。

・**ハード ディスクの電源を切る**
指定した時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。

・**システム スタンバイ**
指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。

・**システム休止状態**
指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

> 画面の下段の「**の電源の設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◆新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする
「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「モニタの電源を切る」「ハード ディスクの電源を切る」「システム スタンバイ」「システム休止状態」のそれぞれの時間を設定する

4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

休止状態(ハイバネーション)

◎ 休止状態にする

購入時の状態では次の方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ(⏻)が消灯し、本機の電源が切れます。

- **「スタート」ボタン→「シャットダウン」で ▼ をクリックして「休止状態」を選び「OK」ボタンをクリックする**

「休止中...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

ほかにも、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることもできます。

- **電源スイッチを押す**
- **液晶ディスプレイを閉じる**

上記の方法で休止状態にするには、次の「休止状態を利用するための準備」の手順を行ってください。

◎ 休止状態を利用するための準備

◆ 電源スイッチを押して休止状態にする

1 「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

2 「休止状態」タブをクリックする

3 「休止状態をサポートする」が☑になっていることを確認する

4 「適用」ボタンをクリックする

5 「詳細」タブをクリックする

6 「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ

7 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◆ 液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1〜5を行う

2 「電源ボタン」の欄の「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ

3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◎ 休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

・電源スイッチを押す

「Windows を再開しています...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

> ログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

チェック!! タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、ポインティングデバイスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

◎ タイマ

「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源オプションのプロパティ」の「電源設定」タブで、「システムスタンバイ」または「システム休止状態」の設定をします。

「システム スタンバイ」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどがない場合に、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。
「システム休止状態」を設定しておくと、設定した時間を経過してもポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスがない場合に、自動的に休止状態にすることができます。

◎ リモートパワーオン機能(内蔵LAN機能による電源操作)

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応したパソコンの電源を操作する機能です。

参照 **リモートパワーオン機能について→「LAN(ローカルエリアネットワーク)」の「本機の運用管理」(p.194)**

◎ リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。ただし、この機能で本機の電源を入れることはできません。

Intel® SpeedStep™テクノロジ

ここでは、VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのIntel® SpeedStep™テクノロジについて説明しています。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジを使用できるようにするには、以下の手順でセットアップを行う必要があります。

チェック!! **Intel® SpeedStep™ テクノロジをセットアップする場合は、本機をAdministrator権限を持つユーザでログオンしてください。**

1 **デスクトップ上の(SpeedStep)をダブルクリックする**

2 **「ようこそ」画面で「次へ」ボタンをクリックする**

3 **「ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする**

4 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「完了」ボタンをクリックする

本機が自動的に再起動します。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする

◆ BIOSセットアップメニューで設定する

BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」の「Intel(R) SpeedStep(TM)テクノロジ」で設定できます。

モード	機能
自動※	AC電源で駆動中にこのパソコンを使用する場合、最高性能で動作します。
バッテリ最適化	常にバッテリ最適性能で動作します。
使用しない	本機能が、無効になります。

※:購入時の設定

参照 BIOSセットアップメニュー→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(→p.276)

◆ コントロールパネルの「電源オプション」で設定する

1 「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

2 「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブをクリックする

インジケータ領域(タスクトレイ)の をダブルクリックして起動することもできます。

本機をバッテリのみで使用するときと、AC電源で使用するときの設定を行います。

- **バッテリモードの場合**

  「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定されています。この項目は変更できません。

- **AC電源の場合**

  「バッテリに合わせたパフォーマンス」、または「最大パフォーマンス」のどちらかを選択できます。▼をクリックして選んでください。

・「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更」が☑になっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。
・「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認」が☑になっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。
・「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブでの設定内容は、Windowsの終了時にBIOSセットアップメニューに反映されます。

省電力機能(Windows NT 4.0の場合)

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

◎ 本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイモード」、「サスペンド」、「パワーマネージメント」「Intel® SpeedStep™テクノロジ」の機能があります。Windows NT 4.0では、これらの省電力機能の設定をBIOSセットアップメニュー、もしくはPowerProfilerで行います。省電力の機能をBIOSセットアップメニューとPowerProfilerの両方で設定した場合は、PowerProfilerの設定が優先されます。

参照
・PowerProfilerの設定→「PowerProfiler」(p.133)
・省電力の設定→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(p.276)

◆ スタンバイモード

液晶ディスプレイのバックライトをオフにするなど、電力消費の多い部分を節電する機能です。キーボードやポインティングデバイスを使用するとすぐに元の状態に戻るので、作業中に少しだけ席を外す場合などに手軽に利用できます。

参照 **スタンバイモードを利用する→「スタンバイモード」(p.127)**

◆ サスペンド

作業中のデータを一時的にメモリに保存して、消費電力を抑える機能です。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「レジューム」と呼びます。

参照 **サスペンドを利用する→「サスペンド」(p.128)**

◆ **パワーマネージメント**

バッテリ駆動時などに、無駄な電力の消費を抑える機能です。BIOSセットアップメニューで設定します。

参照 **パワーマネージメントを利用する→「パワーマネージメント」(p.131)**

◆ **Intel® SpeedStep™テクノロジ(VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのみ)**

電源の種類によって、動作性能を切り替えることができます。
BIOSセットアップメニューで設定する方法と、Intel® SpeedStep™ Technolgy Appletで設定する方法の2種類があります。

参照 **Intel® SpeedStep™テクノロジの設定する→「Intel® SpeedStep™テクノロジ」(p.131)**

チェック!! **Windows NT 4.0でのハイバネーションはサポートしておりません。**

スタンバイモード

◎ スタンバイモードにする

- **【Fn】+【F4】を押す**
- **自動**

一定の時間何も操作しないと、自動的にスタンバイモードになります。

スタンバイモードになると、画面の表示が消えます。

◎ 元の状態に戻す

- **キーボードやポインティングデバイスを使う**

PowerProfilerのパワーマネージメントの設定によっては、この機能が使えない場合があります。PowerProfilerの「標準」タブの「パワーマネージメント」が次のように設定されていることを確認してください。

電源の状態	PowerProfilerの設定
AC電源使用時	「通常」
バッテリ使用時	「通常」または「バッテリのみ」

サスペンド

◎ サスペンドにする前に

◆ サスペンドを利用できないとき

次のようなときにはサスペンドにしないでください。本機が正常に動かなくなったり、サスペンドから正しくレジュームできなくなることがあります。

・プリンタへ出力中
・赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
・通信用アプリケーションを実行中
・電話回線を使って通信中
・音声または動画を再生中
・CD-ROMやフロッピーディスクなどの媒体やハードディスクにアクセス中
・システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
・Windows NT 4.0の起動/終了処理中
・サスペンドに対応していないアプリケーションを使用中
・サスペンドに対応していないPCカードを使用中

◆ サスペンド状態のときの注意

本機がサスペンド状態のときは、次のことに注意してください。

・サスペンド状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、サスペンド状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、サスペンド状態を使用してください。
・サスペンドへの移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
・サスペンド状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、正しくレジュームできなくなることがあります。
・サスペンド状態のときにバッテリの残量がなくなると、データが消えてしまいます。バッテリのみで本機を使用している場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。

◎ サスペンドにする

次のいずれかの方法で、本機をサスペンドにすることができます。

- **Windows NT 4.0の「スタート」メニュー→「サスペンド」をクリックする**

サスペンドになると、電源ランプ(⏻)が緑色に点滅します。

> Windows NT 4.0の「スタート」メニューに「サスペンド」が表示されていない場合は、PowerProfilerで「スタートメニューへ[サスペンド]コマンドを表示」を ☑ にしてください。

ほかにも、設定を行うことにより、次のような方法でサスペンドにできます。

> 次の設定を行うときは、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」→「スリープ種別(Suspend Option)」を「サスペンド(Suspend)」に設定しておいてください。工場出荷時、本機は「サスペンド(Suspend)」に設定してありますので、設定を変更していない場合は、特に設定する必要はありません。

サスペンドにする方法	設定方法
液晶ディスプレイを閉じる	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」→「LCDパネル連動スリープ(LCD Suspend)」を「使用する(Enabled)」に設定

> PowerProfilerで設定しておくと、このほかの方法でサスペンドすることもできます。

参照 **PowerProfilerの設定→「PowerProfiler」(p.133)**

◎ サスペンドからレジュームするときの注意

本機をサスペンドからレジュームするときには、次のことに注意してください。

- サスペンドにしてからすぐにレジュームしたいときは、本機に負担がかからないよう、サスペンド状態になってから約5秒以上たってから操作してください。
- サスペンド状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け/取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常にレジュームできなくなることがあります。
- CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブにフォトCDを入れたままサスペンドにした場合、レジュームに時間がかかることがあります。

◎ レジュームする

レジュームは次の方法で行うことができます。

・電源スイッチを押す

・ディスプレイを開く

レジュームすると、元の状態(サスペンドに入る前)の画面が表示されます。

次の設定を行うことにより、時刻を指定して自動でレジュームさせることもできます。

レジュームする方法	設定方法
時刻指定によるレジューム	① BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」→「時刻指定によるレジューム(Wake Up Alarm)」を「使用する(Enabled)」に設定 ②「レジューム時刻(Resume Alarm Time)」で時刻を設定

> LAN内蔵モデルで、バッテリで駆動中にサスペンドする場合は、「リモート電源制御(Remote Power On)」の設定を「使用しない(Disabled)」に設定しておくと、サスペンド保持時間を延ばすことができます。

ほかにも、PowerProfilerで設定しておくと、上記以外の方法でレジュームすることもできます。

参照 **PowerProfilerで設定する→「PowerProfiler」(p.133)**

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

◎ タイマ

BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」→「省電力レベルの設定(Power Savings Level)」を「オフ(off)」以外に設定しておくと、設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどがない場合に、自動的にサスペンドやハイバネーション状態にすることができます。

参照 **BIOSセットアップメニューの設定→「PART3 BIOSセットアップメニュー」(p.276)**

◎ リモートパワーオン機能（内蔵LAN機能による電源操作）

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応したパソコンの電源を操作する機能です。

参照 **リモートパワーオン機能について→「LAN（ローカルエリアネットワーク）」の「本機の運用管理」（p.194）**

パワーマネージメント

モードの種類と切り替え方

パワーマネージメントには、次の各モードがあります。
設定されているモードがどのモードかは、PowerProfilerを起動すると確認できます。また、モードの切り替えもPowerProfilerを使って行うことができます。

モード	機　能
パフォーマンス優先	節電をしながら高性能で使いたいときに選びます。節電効果はやや低めです。
省電力優先	性能を控えることにより節電効果を高めたいときに選びます。
ユーザー設定	節電する機能を自分で選ぶことができるモードです。どの機能を使うかは、PowerProfilerで設定します。

Intel® SpeedStep™テクノロジ

ここでは、VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのIntel® SpeedStep™テクノロジの説明をしています。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジを使用できるようにするには、以下の手順でセットアップを行う必要があります。

チェック!! Intel® SpeedStep™テクノロジをセットアップする場合は、本機をAdministrator権限を持つユーザでログオンしてください。

1 デスクトップ上の（SpeedStep）をダブルクリックする

2 「ようこそ」画面で「次へ」ボタンをクリックする

3 「ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする

4 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「完了」ボタンをクリックする

本機が自動的に再起動します。

◎ Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする

◆ BIOSセットアップメニューで設定する

BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」で設定できます。

モード	機能
自動※	AC電源で駆動中にこのパソコンを使用する場合、最高性能で動作します。
バッテリ最適化	常にバッテリ最適性能で動作します。
使用しない	本機能が、無効になります。

※: 購入時の設定

参照 BIOSセットアップメニュー→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(→p.276)

◆ Intel® SpeedStep™ Technology Appletで設定する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Intel SpeedStep technology Applet」をクリックする

「Intel® SpeedStep™ テクノロジ」が起動します。

インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックして起動することもできます。

本機をバッテリのみで使用するときと、AC電源で使用するときの設定を行います。

- **バッテリモードの場合**

  「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定されています。この項目は変更できません。

- **AC電源の場合**

  「バッテリに合わせたパフォーマンス」、または「最大パフォーマンス」のどちらかを選択できます。をクリックして選んでください。

・「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更」が☑になっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。
・「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認」が☑になっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。
・「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」での設定内容は、Windows NT 4.0終了時にBIOSセットアップメニューに反映されます。

PowerProfiler

PowerProfilerを使って、サスペンド、レジューム、バッテリ管理、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

◎ PowerProfilerを操作する

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「PowerProfiler」をクリックする**

「PowerProfiler」が起動します。

2 **「標準」タブをクリックする**

3 「パワーマネージメント」の種類を選択する

「通常」

パワーマネージメント機能は、バッテリまたはACアダプタなど電源の種類にかかわらず有効です。パワーマネージメントタイマーおよびI/Oポートのオン／オフ設定は、このオプションが選択されている場合のみ有効です。

「バッテリーのみ」

パワーマネージメント機能は、システム電源がバッテリの場合のみ有効です。電源がACアダプタの場合でこのオプションが選択されているときは、パワーマネージメント機能は無効です。

「オフ」

パワーマネージメントタイマーおよびI/Oポートのオン／オフ設定は、すべて無効です。

4 「省電力」と「サスペンド」の設定をする

5 「詳細」タブをクリックする

レジュームに関する設定項目が表示されます。

6 レジュームの設定をする

7 「バッテリ」タブをクリックする

バッテリに関する設定項目が表示されます。

8 バッテリの設定をする

9 設定が終了したら、「更新」ボタン、「OK」ボタンの順番にクリックする

チェック!! **設定をした後は、必ず「更新」ボタンをクリックしてください。**

◎ 省電力の設定一覧

チェック!! **本機のPowerProfilerとBIOSセットアップメニューには、それぞれ省電力に関する同等機能があります。省電力に関しては、PowerProfilerでの設定が優先されますので、BIOSセットアップメニューでは「省電力レベルの設定(Power Savings Level)」を「オフ(Off)」に設定しておくことをおすすめします。**

参照 **省電力の設定→PART3の「BIOSセットアップメニュー」(p.276)**

◆タイマ/デバイス コントロール

このグループには、ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールの設定が含まれています。

チェック!! **「COM LPT」ボタンをクリックすると、シリアル/パラレルポートの電源をオン/オフする設定がありますが、実際に電源制御をすることはできません。**

> ディスプレイタイムアウト/ハードディスクタイムアウトは、PowerProfilerの設定とBIOSセットアップメニューの設定のうち、設定時間の早い方が有効になります。

・省電力優先プロファイル

チェック!! **このプロファイルは、ユーザーが変更することはできません。**

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、あらかじめ構成された設定をロードします。このプロファイルではデバイスがアイドル状態になってから電源を切るまでの時間が短く設定されているため、パフォーマンス優先プロファイルよりバッテリ電力を節約できます。

・パフォーマンス優先プロファイル

チェック!! **このプロファイルは、ユーザーが変更することはできません。**

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、あらかじめ構成された設定をロードします。このプロファイルではデバイスがアイドル状態になってから電源を切るまでの時間が省電力優先プロファイルより長く設定されます。したがって、マシンをより高いパフォーマンスで使用できますが、バッテリはより早く放電します。

・ユーザー設定プロファイル

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、ユーザー設定値をロードします。ユーザー設定値を登録するには、設定値を「ユーザー設定への保存」を使って保存します。

・ユーザー設定プロファイルの保存

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールの現在の設定を、ユーザー設定プロファイルに保存します。

◎ サスペンドの設定一覧

◆ サスペンド

「標準」タブの「サスペンドコントロール」の「サスペンド」ボタンをクリックすると、直ちにシステムをサスペンドします。

◆「スタート」メニューへ[サスペンド]コマンドを表示

「標準」タブの「サスペンドコントロール」の「スタートメニューへ[サスペンド]コマンドを表示」をチェックします。
Windows NT 4.0の「スタート」メニューに「サスペンド」コマンドを追加します。

◎ レジュームの設定

◆ 電話が鳴ったらレジューム

本機では使用できません。

◆ 自動レジューム

「詳細」タブの「レジューム オプション」の「アラームが鳴ったらレジューム」をチェックします。「時刻」と「日付」に指定された時刻になると、サスペンド状態のシステムがレジュームします。

> 淡色表示されている場合は、この機能はシステムでサポートされていません。

◆ アラームでレジュームした場合にアプリケーションを起動

「詳細」タブの「レジュームオプション」の「アラームでレジュームした場合にアプリケーションを起動」をチェックします。システムがアラーム レジュームイベントによって起動したときに、このオプションの下に表示されたボックスで指定されたアプリケーションを、自動的に起動します。

> 淡色表示されている場合は、この機能はシステムでサポートされていません。

◎ バッテリの設定

◆ アラームアクション

このグループには、ユーザへの警告、またはローバッテリ時のシステムのサスペンドを行う場合のオプションが含まれます。

> このグループのオプションは、「バッテリの選択」で「すべてのバッテリ」が設定されている場合のみ変更できます。「すべてのバッテリ」以外が設定されている場合は、オプションは淡色表示されていて使用できません。

・ローバッテリアラームの通知

ローバッテリが検出されると、警告メッセージが表示され、ビープ音が鳴ります。ローバッテリレベルは、「バッテリ状態／アラームレベルの設定」グループの「ローバッテリアラームスライダ」で指定します。

・緊急ローバッテリアラームの通知

バッテリ電力の極度の不足を検出した場合、警告メッセージが表示され、ビープ音が鳴ります。緊急ローバッテリ時かどうかを判断するレベルは、「バッテリ状態／アラームレベルの設定」グループの「緊急ローバッテリアラームスライダ」で指定します。

・緊急ローバッテリ時にシステムをサスペンド

「緊急ローバッテリアラームの通知」が設定されている場合のみ有効です。

バッテリの電力が極度に不足した場合に、システムをサスペンドします。緊急ローバッテリ時かどうかを判断するレベルは、「バッテリ状態／アラームレベルの設定」グループの「緊急ローバッテリアラームスライダ」で指定します。

◆ バッテリメーターをタスクバーへ表示

「バッテリ」タブの「バッテリメータをタスクバーへ表示」をチェックすると、Windows NT 4.0のタスクバーに現在のバッテリ充電状態を示すアイコンを表示します。

・アイコンをダブルクリックすると、バッテリページが表示されます。

・アイコンを右クリックすると、詳細アクションのポップアップメニューが表示されます。

・アイコンをポイントすると、バッテリの残りの容量が表示されます。

◆ バッテリ状態／アラームレベルの設定

このグループには、バッテリの残りの容量の表示とローバッテリアラームレベルの設定を行うためのオプションが含まれています。

・ローバッテリアラームスライダ

・緊急ローバッテリアラームスライダ

◆ バッテリーの選択

本機では使用できません。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。

- **パスワード**
- **指紋認証機能(内蔵指紋センサモデルのみ)**
- **ハードディスクのパスワード**
- **暗証番号ボタン(暗証番号機能モデルのみ)**
- **スマートカード/指紋認証ユニット(別売)**

チェック!! **セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。**

パスワード

パスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- 本機の起動
- BIOSセットアップメニューの起動と設定変更
- スリープ状態からの復帰

チェック!! **ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。**

◎ パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

◆ スーパバイザパスワード

スーパバイザパスワードは、おもに本機の管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、本機の使用者を制限するために設定します。
パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、スーパバイザパスワード入力のタイミングを、起動時やスリープからの復帰時に設定しておくこともできます。

◆ ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに本機の使用者のためのパスワードで、スーパバイザパスワードで本機を管理している管理者が、本機の使用者の使用できる機能を制限するためのものです。

◎ パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知するようにします。このように設定しておくと、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、本機を起動することもできません。

◎ パスワードを設定／変更する

スーパバイザパスワード、またはユーザパスワードの設定／変更は、BIOSセットアップメニューで行います。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したスーパバイザパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動できなくなります。

1 **BIOSセットアップメニューを起動する（→p.276）**

2 **「セキュリティセットアップ（System Security Setup）」を選んで、【Enter】を押す**

3 **「スーパバイザパスワードの設定（Assign Supervisor Password）」または「ユーザパスワードの設定（Assign User Password）」を選んで、【Enter】を押す**

パスワード設定の画面が表示されます。

チェック!! スーパバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 パスワードを入力する

チェック!! ニューメリックロックキーランプ(1)が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字／小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

5 【Enter】を押す

6 手順4で入力したパスワードを、もう一度入力する

7 【Enter】を押す

8 「何かキーを押して下さい」と表示されるので、いずれかのキーを押す

9 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

チェック!! 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

◎ パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

パスワードの入力タイミング	設定方法
本機の起動時	BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」→「起動時のパスワード(Boot Password Required)」を「はい(Yes)」に設定
スリープからの復帰時	BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」→「レジューム時のパスワード(Resume Password Required)」を「はい(Yes)」に設定

「起動時のパスワード(Boot Password Required)」を「はい(Yes)」に設定していないと、「レジューム時のパスワード(Resume Password Required)」の設定の変更はできません。

◎ パスワードを入力する

◆ パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」の「起動時のパスワード(Boot Password Required)」が「はい(Yes)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 本機の電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

2 設定されているパスワードを入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

チェック!!
- **誤ったパスワードを入力すると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチを押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。**
- **パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。**

◆ パスワードを設定しているときの復帰のしかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」の「レジューム時のパスワード(Resume Password Required)」が「はい(Yes)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 電源スイッチを押す

キャップスロックキーランプ(Ⓐ)とスクロールロックキーランプ(⇅)が交互に点灯します。このとき、画面には何も表示されません。

> ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、データが復帰されてデータの内容が表示されます。

チェック!!
- **スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。**
- **誤ったパスワードが入力されると復帰できません。**
- **パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。**

◎ キーボードロック

パスワードが設定されているときにキーボードロックを設定すると、パスワードを入力しないかぎりキーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

◆ キーボードロックを設定する

1 【Ctrl】+【Alt】+【Back Space】を押す

キャップスロックキーランプ(A)とスクロールロックキーランプ(⇅)が交互に点灯します。

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

◆ キーボードロックを解除する

キーボードロックは次の手順で解除してください。

1 設定されているパスワードをキーボードから入力する

このとき、画面にはパスワード入力画面は表示されません。

2 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されるとランプは消灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力は可能になります。

チェック!!

- **スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。**
- **誤ったパスワードが入力されると復帰できません。**
- **パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。**

◎ パスワードを忘れてしまったときは

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 **解除処置について→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「PART4　トラブル解決Q&A」**

指紋認証機能

ここでは、内蔵指紋センサモデルの指紋認証機能について説明しています。指紋認証機能とはパスワードの入力のかわりに、内蔵指紋センサを使って指紋による認証を行うシステムです。
本機では付属のユーティリティで、指紋認証によるBIOSLOCK機能や、Windowsへのログオン、スクリーンセーバのロック解除、各種アプリケーションのパスワード代替などを設定することができます。

参照 **指紋認証機能の詳細について→『内蔵指紋センサ　ユーザーズ・ガイド』**

スマートカード／指紋認証ユニット

別売のセキュリティ関連拡張機器を利用して個人認証を行うことにより、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機ではスマートカードによる個人認証、および指紋による個人認証に対応しています。

チェック!!

- **本機起動時の認証（BIOSロック）として、「スマートカード」「指紋認証ユニット」「パスワード」をそれぞれ同時に使用することはできません。スタンバイ状態からの復帰に認証が有効になるのは、「パスワード」を選択した場合のみです。**
- **内蔵指紋センサモデルでは、PCカード用指紋認証ユニット（PK-FP001）を使用することはできません。**

参照 **スマートカード／指紋認証について→スマートカード発行ツール(PK-SM002V2など)に添付のマニュアル、またはPCカード用指紋認証ユニット(PK-FP001)に添付のマニュアル**

ハードディスクのパスワード

◎ ハードディスクのパスワードとは

ハードディスクにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクの不正使用を防止することができます。パワーオンパスワードを併用することにより、ハードディスク盗難などによるハードディスクのデータへの不正アクセスを防ぐことが可能です。ハードディスクパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。

チェック!!

- **ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、NECフィールディングの各支店、営業所などに持ち込んでもロックは解除できません。お客様ご自身で作成されたデータは二度と使用できなくなり、またハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないように十分に注意してください。**
- **ハードディスクのパスワードは、他のセキュリティ機能と併用してください。ハードディスクのパスワードだけでは、十分に本機の不正使用を防止することができません。**

◎ パスワードの種類

本機で設定可能なハードディスクのパスワードには、「マスタパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

◆ マスタパスワード

マスタパスワードは、ロック解除専用のパスワードです。ハードディスクのパスワードを最初に設定するときに入力します。

◆ユーザパスワード

ユーザパスワードは、ハードディスク認証を行うために設定します。ユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクの不正使用を防止できます。

チェック!! **マスタパスワードを設定しないとユーザパスワードを設定することはできません。**

◎ パスワードを設定／変更する

マスタパスワードの設定、ユーザパスワードの設定／変更は、BIOSセットアップメニューで行います。

チェック!! マスタパスワードは、忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまうと、パスワードの変更およびハードディスクのロックの解除ができなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.276)

BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで【Enter】を押す

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、【Enter】を押す

- 初回設定時はマスタパスワード入力画面が表示されます。→手順5へ
- マスタパスワードがすでに設定済みで、ユーザパスワードが設定されていない場合は、新しいユーザパスワードの入力画面が表示されます。→手順7へ
- 上記以外の場合は、パスワード入力画面が表示されます。→手順4へ

4 マスタパスワードまたはユーザパスワードを入力し【Enter】を押す

- ユーザパスワードを入力した場合は、新しいユーザパスワード入力画面が表示されます。→手順7へ
- マスタパスワードを入力した場合は、新しいマスタパスワード入力画面が表示されます。→手順5へ

5 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

6 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す

ユーザパスワード入力画面が表示されます。

7 新しいユーザパスワードを入力し【Enter】を押す

8 手順7で入力したユーザパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す

9 「何かキーを押してください」と表示されるので、いずれかのキーを押す

10 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを設定しただけではセキュリティは有効になりません。パスワードを有効にするためには、次の「ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする」をご覧ください。

チェック!!
- **設定したユーザパスワードは忘れないようにしてください。ユーザパスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。**
- **パスワード変更時には、すでに設定されたパスワードの入力画面が表示されます。その場合は、設定したユーザパスワードまたはマスタパスワードを入力してください。**

◎ ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする

マスタパスワードとユーザパスワードを設定してもハードディスクのセキュリティは有効になりません。ハードディスクのセキュリティを有効にするには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」で「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」を「使用する(Enabled)」に設定してください。「使用しない(Disabled)」に設定すると、ハードディスクのセキュリティを無効にできます。

ハードディスクのセキュリティを有効にしても、起動時に設定したマスタパスワードやユーザパスワード入力の必要はありません。

チェック!! **本機でセキュリティを有効にしたハードディスクは、他機では使用できません。他機で使用する場合は「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」を「使用しない(Disabled)」に設定してください。**

ハードディスクのセキュリティを無効(使用しない)にしても、本機にハードディスクパスワードが設定されています。ハードディスクパスワードを無効にするには、次の「ハードディスクのパスワードを無効にする」をご覧ください。

◎ ハードディスクのパスワードを無効にする

ハードディスクのパスワードを無効にする場合は、次の手順でハードディスクのパスワードを無効にしてください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する（→p.276）

BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティセットアップ（System Security Setup）」を選んで【Enter】を押す

3 「HDDパスワードの設定（Assign HDD Password）」を選んで【Enter】を押す

パスワードの入力画面が表示されます。

4 ユーザパスワードまたはマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

・ユーザパスワードを入力した場合は、新しいユーザパスワード入力画面が表示されます。→手順7へ

・マスタパスワードを入力した場合は、新しいマスタパスワード入力画面が表示されます。→手順5へ

5 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

6 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す

ユーザパスワード入力画面が表示されます。

7 何も入力せず【Enter】を押す

これでユーザパスワードの消去ができました。

以上でハードディスクのパスワードが無効になります。

◎ ハードディスクのロックを無効にする

本機の起動時にハードディスクがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクのロックを無効にしてください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する（→p.276）

BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで【Enter】を押す

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、【Enter】を押す

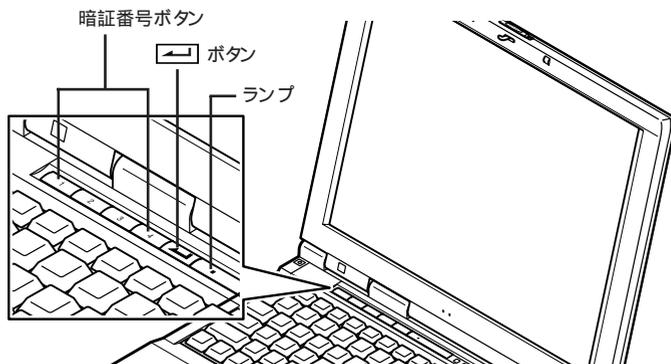
マスタパスワードの入力画面が表示されます。

4 マスタパスワードを入力する

5 【Enter】を押す

以上でハードディスクのロックが無効になります。手順5の後にパスワードの設定/変更の手順にしたがってユーザパスワードの設定を行うか、または【Esc】を押してキャンセルしてください。

暗証番号ボタン

この機能は、暗証番号機能モデルのみの機能です。
暗証番号ボタンとは、本体の暗証番号ボタンを押すことによってパスワード認証を行うもので、セキュリティを強化する機能の一つです。暗証番号ボタンを使ってパスワードを設定しておくと、正しいパスワードを入力しないかぎり本機を起動できなくなります。およそ800,000通り以上のパスワードが考えられますので、より強力なセキュリティを実現できます。

◎ パスワードを設定する

暗証番号ボタンのパスワード設定や変更は、暗証番号設定ユーティリティで行います。
暗証番号設定ユーティリティを使う場合は、本機に添付の「暗証番号設定ユーティリティ インストールディスク」をご覧になり、セットアップを行ってください。

チェック!! **暗証番号ボタンの機能や暗証番号設定ユーティリティの使い方については、本機に添付の「暗証番号設定ユーティリティ インストールディスク」をご覧ください。**

◆ セキュリティモード

暗証番号ボタンのパスワードを設定したあとは、電源スイッチを押すと、本機がセキュリティモードに移行してランプが点灯するようになります。セキュリティモードになると、登録したパスワードを入力しないかぎり本機を起動することはできなくなります。

チェック!! **暗証番号ボタンのパスワードを設定してあると、電源スイッチを使ってスタンバイ状態から復帰するときにもセキュリティモードになりますので、設定したパスワードを入力してセキュリティモードを解除してください。**

◎ パスワードを忘れてしまったときは

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 **解除処置について→『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART4 トラブル解決Q&A」**

◎ セキュリティモードを解除する

1 電源スイッチを押す

ランプが点灯します。

2 登録したパスワードを暗証番号ボタンを使って押し、最後にキーボード左上にある [↵] ボタンを押す

正しいパスワードが入力されるとランプが消灯し、本機が起動します。

チェック!!
- **[↵] ボタンは、キーボード左上にある暗証番号ボタンの隣にあるボタンのことです。キーボードの【Enter】とは異なります。**
- **間違ったパスワードを入力するとビープ音がなります。間違ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴り続けます。**

・パスワードはランプが点灯してから1分以内に入力してください。1分を過ぎるとパスワードを受け付けなくなります。パスワードを受け付けなくなったら、もう一度電源スイッチを押してください。

その他のセキュリティ機能を使う

◎ 起動セクタへのウィルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常にパソコンを起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。
「起動セクタへのウィルス感染防止(Boot Sector Virus Protection)」の設定は、BIOSセットアップメニューで行います。

参照 **ハードディスクの起動セクタを保護する→PART3の「標準セットアップ」(p.279)**

◎ 盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。

参照 **盗難防止用ロック→このPARTの「各部の名称」(p.17)**

本機の盗難防止用ロックは、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。製品についてのお問い合わせは、以下のとおりです(2000年12月現在)。
日本ポラデジタル株式会社　第3営業部
〒104-0032　東京都中央区八丁堀1丁目5番2号　はごろもビル5F
Tel:03-3537-1070　Fax:03-3537-1071

赤外線通信機能

赤外線通信とは、パソコンとパソコンの間をケーブルで接続せずに赤外線でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA規格に準拠した、通信速度4Mbpsまでの赤外線通信ができます。

赤外線通信を行う前に

本機は出荷時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていません。本機で赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。お使いのパソコンにインストールされているOSによって手順が異なりますので、それぞれの手順に従って設定を行ってください。

チェック!!
- **内蔵指紋センサモデルでは、BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」で「セキュリティモード(Security mode)」の設定を、「指紋(Finger Print)」以外にしてから、以下の手順を行ってください。**
- **内蔵指紋センサモデルでは、以下の設定を行うと、指紋認証の機能は利用できなくなります。赤外線通信機能と指紋認証機能を同時に利用することはできません。赤外線機能を利用した後で指紋認証の機能を利用する場合は、以下の設定を購入時の状態に戻してください。**

■Windows Me／Windows 98の場合

チェック!! **ワイヤレスモデルの場合、以下の設定を行うと、PIAFSの機能は利用できなくなります。**

1 **BIOSセットアップメニューを起動する(→p.276)**

2 **「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」の「赤外線ポート(IR Serial Port)」を選ぶ**

3 **「自動(Auto)」を選択する**

内蔵指紋センサモデル、ワイヤレスモデルの場合は、手順4へ進みます。その他のモデルの場合は、手順5へ進みます。

4 **「赤外線ポート切り替え(IR Port Switch)」が「IR」に設定されていることを確認する**

「その他」に設定されている場合は、「IR」に切り替えてください。

5 **BIOSセットアップメニューを終了する**

赤外線デバイスが検出され、ファイルのコピーが始まります。
バージョンの競合を確認する画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

6 **「システム設定の変更」画面が表示されたら「はい」ボタンをクリックする**

本機が再起動します。
これで、赤外線通信をするための準備ができました。

◎ 赤外線モニタ

Windows 98には、赤外線通信の設定や監視を行う「赤外線モニタ」というプログラムがあります。「赤外線モニタ」の使い方については、「コントロールパネル」を開いて「赤外線モニタ」のアイコンをダブルクリックし、「赤外線モニタ」のヘルプをご覧ください。

■Windows 2000の場合

チェック!!

- **以下の設定を行うと、PIAFSの機能は利用できなくなります。ワイヤレスモデルでは赤外線通信機能とPIAFSの機能を同時に利用することはできません。PIAFSの機能を利用するときは以下の設定を出荷時の設定に戻してください。**
- **内蔵指紋センサモデルでは、以下の設定を行うと、指紋認証の機能は利用できなくなります。赤外線通信機能と指紋認証機能を同時に利用することはできません。赤外線機能を利用した後で指紋認証の機能を利用する場合は、以下の設定を購入時の状態に戻してください。**

1 **BIOSセットアップメニューを起動する(→p.276)**

2 **「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」の「赤外線ポート(IR Serial Port)」を選ぶ**

3 **「自動(Auto)」を選択する**

内蔵指紋センサモデル、ワイヤレスモデルの場合は、手順4へ進みます。その他のモデルの場合は、手順5へ進みます。

4 「赤外線ポート切り替え(IR Port Switch)」が「IR」に設定されていることを確認する

「その他」に設定されている場合は、「IR」に切り替えてください。

5 BIOSセットアップメニューを終了する

バージョンの競合を確認する画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

6 「システム設定の変更」画面が表示されたら「はい」ボタンをクリックする

本機が再起動します。
これで、赤外線通信をするための準備ができました。

■Windows NT 4.0の場合

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.276)

2 「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」の「赤外線ポート(IR Serial Port)」を選ぶ

3 「自動(Auto)」を選択する

内蔵指紋センサモデル、ワイヤレスモデルの場合は、手順4へ進みます。その他のモデルの場合は、手順5へ進みます。

4 「赤外線ポート切り替え(IR Port Switch)」が「IR」に設定されていることを確認する

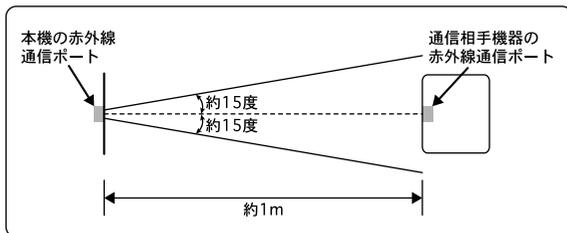
「その他」に設定されている場合は、「IR」に切り替えてください。

5 BIOSセットアップメニューを終了する

6 「Intellisync」の「Intellisyncエージェント」を起動し、設定を行う

機器の配置について

◎ 機器を配置する

赤外線通信を行うときは、本機の赤外線通信ポートと通信相手機器の赤外線通信ポートが向き合うように配置します。
赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。

・互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
・互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする

◎ 機器を配置するときの注意

・赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしない
・通信相手機器と本機との間に赤外光を遮るような物を置かない
・互いの機器どうしを接触させない
・通信相手の赤外線が本機の赤外線通信ポートまで届かないときや通信相手機器の通信可能距離が本機よりも短い（本機の場合は約1m以内）ときは、通信相手の機器が本機の通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面で向き合わせて、できる限り近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

◎ こんなときは通信可能距離が短くなってしまうことがあります

・直射日光や蛍光灯の直下
・機器どうしが正しく向き合っていない
・他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
・本機の赤外線通信ポートの指向性（約15度程度）の範囲を越えているとき

◎ こんなときはうまく通信できないことがあります

・異なる機器と接続した場合(相手の機器の性能に依存するため)
・通信相手機器がIrDA規格に準拠していない場合

異なる機器との通信には、両装置間の通信に対応したソフトが必要です。

赤外線通信をする

赤外線通信を行うには、次の方法があります。
・「Intellisync」を使用する(Windows 98／Windows NT 4.0のみ)
・「ケーブル接続」を使用する(Windows Me／Windows 98のみ)
・「赤外線転送」を使用する(Windows 98のみ)
・「ワイヤレスリンク」を使用する(Windows Me／Windows 2000のみ)

◎ Intellisync

Intellisyncは、赤外線や通信ケーブルを使ってファイルの転送を行うアプリケーションです。
「Intellisync」の「接続設定マネージャ」を起動して設定を行ってください。

参照 **Intellisyncの使い方→『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「Intellisync」**

◎ ケーブル接続

「ケーブル接続」とは、赤外線や通信ケーブルで他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。
詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」でヘルプをご覧ください。

チェック!! **「ケーブル接続」で赤外線を使うときは、「使用するポート」として仮想赤外線COMポートを指定してください。仮想赤外線COMポートは、「赤外線モニタ」の「オプション」タブで「アプリケーションでサポートしているポート」の部分に表示されています。**

◎ 赤外線転送

「赤外線転送」とは、Windows 98が起動している2台のパソコン間で、ファイルの転送を行う機能です。
「赤外線転送」を使ったファイルの転送には、次の3つの方法があります。

◆エクスプローラを使う

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする

2 送信するファイルを表示させる

3 送信するファイルを選択し、右クリックする

4 「送る」→「赤外線の受信側」をクリックする

◆ドラッグ&ドロップを使う

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする

3 送信するファイルを表示させる

4 送信するファイルを選択し、「マイコンピュータ」ウィンドウの「赤外線の受信側」へドラッグ&ドロップする

◆マイコンピュータを使う

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 「範囲内にある利用可能なデバイス」から送信相手のパソコンを選ぶ

3 「ファイルの送信」ボタンをクリックし、送信するファイルを選ぶ

チェック!! 赤外線転送、ケーブル接続、Intellisyncは、同時に使用することはできません。

◎ ワイヤレスリンク

「ワイヤレスリンク」とは、赤外線通信が可能な2台のパソコン間でファイルの転送を行う機能です。
ワイヤレスリンクを使ったファイルの転送には次の方法があります。

◆「ワイヤレスリンク」ダイアログボックスを使う

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にある か、またはデスクトップに表示される「ワイヤレスリンク」アイコンをダブルクリックする
「ワイヤレスリンク」ダイアログボックスが表示されます。

2 送信するファイルを選び、「送信」ボタンをクリックする

◆「送る」コマンドを使う

1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで、送信するファイルを表示させる

2 送信するファイルを右クリックする

3 表示されたメニューから「送る」→「赤外線受信者」または「赤外線の受信者側」をクリックする

◆ドラッグ&ドロップを使う

1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで送信するファイルを表示させる

2 送信するファイルをデスクトップの「ワイヤレスリンク」アイコンへドラッグ&ドロップする

チェック!! インジケータ領域(タスクトレイ)やデスクトップにアイコンが表示されていない場合は、赤外線通信を行う相手の機器が通信範囲内に正しく配置されているか確認してください。

ワイヤレスリンクの使い方について詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」をクリックすると表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。

サウンド機能

ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを表示させる

■Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合

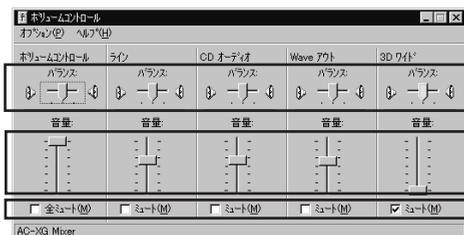
1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする**

「音量の調整」または「Volume Control」の画面が表示されます。

■Windows NT 4.0の場合

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「マルチメディア」→「ボリュームコントロール」をクリックする**

「ボリュームコントロール」の画面が表示されます。

ボリュームコントロール
オプション(P)　ヘルプ(H)
ボリュームコントロール　ライン　CD オーディオ　Wave アウト　3D ワイド
バランス
音量
全ミュート(M)　ミュート(M)
AC-XG Mixer

各音源で、左右のスピーカのバランスを調節できる

つまみを上下すると、音量調節ができる

をチェックすると消音状態になる

チェック!! **ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(→p.72)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。**
なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

◆Windows Me/Windows 98の場合

1 メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする

「プロパティ」ウィンドウが開きます。

2 「音量の調整」から「再生」「録音」のどちらかを選択する

表示項目が切り替わります。
「音量の調整」欄で選択できる項目は、モデルによって異なります。

◆Windows 2000／Windows NT 4.0の場合

1 **メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする**

「プロパティ」ウィンドウが開きます。

2 **「音量の調整」から「再生」「録音」のどちらかを選択する**

表示項目が切り替わります。

「音量の調整」欄で選択できる項目は、モデルによって異なります。

◎ 設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は次のようになります。
項目はモデルによって多少異なる場合があります。

◆Windows Me／Windows 98／Windows 2000の場合

項目	音量調整の種類		説明
	再生	録音	
Volume Control	○		スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
WAVE	○		WAVEなどのPCM音源の音量を調整します。
3D Wide	○		3Dエンハンスメントの効果を調整します。3Dエンハンスメントはステレオ音声に対して効果がかかります。
ZP Port	○		本機では使用できません。
Auxiliary	○	○	本機では使用できません。
Video	○	○	本機では使用できません。
CD Audio	○	○	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブで再生した音楽CDを再生、または録音するときの音量を調整します。
Line	○	○	Line Inに接続している機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
Microphone	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
Telephony	○	○	本機では使用できません。
PC Beep	○		本機では使用できません。
MIDI	○		MIDIの音量を調整します。
Mono + Mic		○	Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときの音量を調整します。ステレオ音声をミックスしモノラルにした音声が録音されます。
Stereo Out		○	Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときの音量を調整します。ステレオのまま録音されます。

◆Windows NT 4.0の場合

項目名	音量調整の種類		機能
	再生	録音	
Volume Control	○		スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
Telephony	○	○	本機では使用できません。
Microphone	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
Line	○	○	Line Inに接続している機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
CD Audio	○	○	CDオーディオを再生、または録音するときの音量を調整します。
Wave Out	○		WAVEなどのPCM音源の音量を調整します。
3D Wide	○		3Dエンハンスメントの効果を調整します。3Dエンハンスメントはステレオ音声に対して効果がかかります。
Mono Out	○		本機では使用できません。
Stereo Out		○	Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときの音量を調整します。ステレオのまま録音されます。

トーン調整で調整する

1 ボリュームコントロール画面に「Microphone」または「マイクロフォン」項目が表示されていることを確認し、メニューバーの「オプション」→「トーン調整」をクリックする

ボリュームコントロール画面の「Microphone」または「マイクロフォン」項目に「トーン」ボタンが追加表示されます。

2 「トーン」ボタンをクリックする

トーン調整画面が表示されます。

チェック!! 本機では「そのほかの調整」のみ調整可能です。

内蔵モデム

**ここでは、FAXモデム内蔵モデルについての説明をしています。
内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。**

電話回線との接続

◎ 接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。

- **モジュラージャック式**

  本機に付属のモジュラーケーブルで接続できます。

- **3ピンプラグ式コンセント**

  市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

- **直結配線方式**

  モジュラー式コンセントに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

チェック!! **内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。**

◎ 電話回線を接続する

⚠警告

● **雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。**

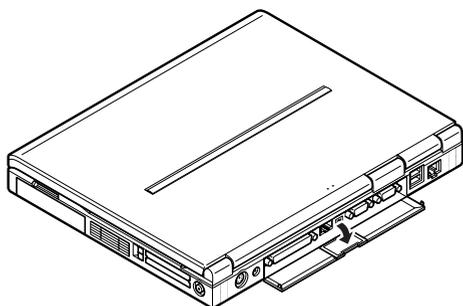
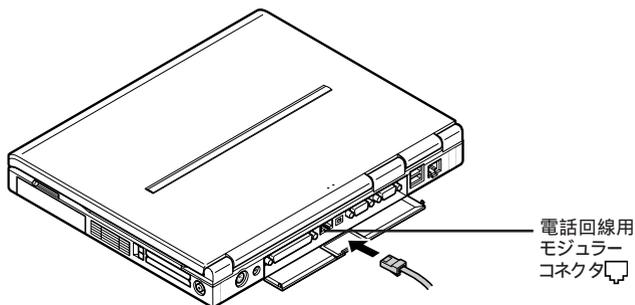
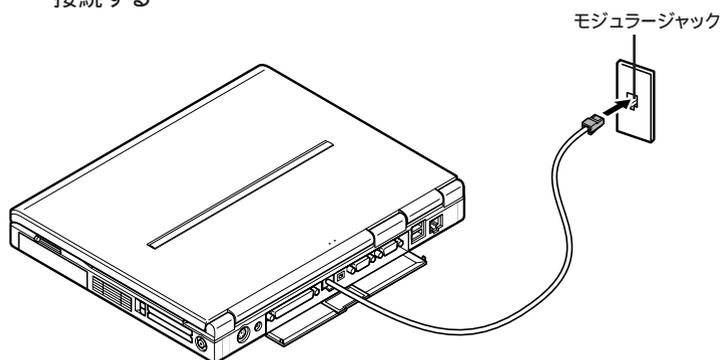
⚠注意

● **モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。**

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コード のプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す

4 本体背面のカバーを開く

5 付属のモジュラーケーブルの一方を本機のモジュラーコネクタに接続する

6 モジュラーケーブルのもう一方を壁などのモジュラージャックに接続する

1つの電話回線のモジュラージャックを本機以外の機器(電話機など)と共用で使用する場合は、使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定のしかた

■Windows Me／Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

◆「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

0を除いた市外局番を入力し、「閉じる」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

◆「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合

使用する場所の0を除いた市外局番を入力する。携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は、「000」を入力する。

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する。

プッシュ回線を使用するときは「トーン」、ダイヤル回線のときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

この画面はモデルによって異なります。

■Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする

「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。
はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」ウィンドウが表示されます。このような場合は、次の「「所在地情報」ウィンドウが表示された場合」で設定を行ってください。

◆「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

「市外局番/エリア コード」欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。
必要な項目を確認して、設定してください。

> 携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする

新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」ウィンドウで設定を行ってください。

3 「所在地の編集」ウィンドウで設定を行う

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

■Windows NT 4.0の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

◆「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

0を除いた市外局番を入力し、「閉じる」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は、市外局番の欄に「000」を入力します。

◆「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合

この画面はモデルによって異なります。

通信機能使用上の注意

- 内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- 加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ダイヤルアップネットワーク接続の場合、Internet Explorerを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。
  回線を切断する必要がある場合は、インジケータ領域（タスクトレイ）の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。
- コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルはご購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- 本機に内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

Windows Me／Windows 98の場合：

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000／Windows NT 4.0の場合：

C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

・回線を使って通信中はスタンバイ状態、休止状態にしないでください。
・分岐アダプタを使って本機と電話機などの両方を電話回線に接続している場合、本機で回線を使っているときは、電話機などの受話器をはずさないでください。本機の通信が妨害され、切断されることがあります。
・接続する電話機などの種類によっては、動作しない機種があります。
・接続する電話機などの種類によっては、内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合があります。内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合は、以下のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
  - 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ
  - 内蔵FAXモデムで通信を行うときは、電話機などを取りはずす
・Windows 2000でモデムドライバを削除する場合は、次の「モデムドライバの削除のしかた」の手順で行ってください（モデム／LAN同時搭載のモデルのみ）。

◆ モデムドライバの削除のしかた

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする

2 次のように入力して、「OK」ボタンをクリックする

C:¥WIN2K¥XCMODEM¥XMREMOVE.EXE

チェック!! デバイスマネージャのドライバの削除で、モデムドライバの削除を行わないでください。デバイスマネージャでモデムドライバの削除を行うと、モデムが使用していたシリアルポート番号が解放されません。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。
パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。

チェック!!

- **インターネット設定切替ツールは、購入時にはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、『活用ガイド　ソフトウェア編』の「PART2　添付アプリケーションの追加と削除」をご覧ください。**
- **インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報が必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。**
- **LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。**

◎ インターネット設定切替ツールを起動する

インターネット設定切替ツールは、本機の起動時にアイコン化してタスクトレイに常駐します。

1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする

次の画面が表示されます。

この画面には、ダイヤルアップの接続情報が3つまで表示されます。使用したいダイヤルアップの接続情報が表示されていない場合は、«または»をクリックして表示させてください。

はじめてインターネット設定切替ツールを起動したときは、インターネット設定切替ツールのウィザードが表示されます。ウィザードにしたがって設定を行ってください。

◆ インターネット設定切替ツールを終了するときは

1 インジケータ領域(タスクトレイ)のを右クリックし、表示されたメニューから「インターネット設定切替ツールの終了」をクリックする

◎ インターネット設定切替ツールを使うための設定をする

◆ ダイヤルアップ接続の情報を登録する

外出先でインターネットを使うときなどは、あらかじめインターネット設定切替ツールに新しいダイヤルアップ接続の情報を登録しておきます。

1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする

「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「ボタン設定」タブをクリックする

3 「ダイヤルアップ」を◉にする

4 「追加」ボタンをクリックする

5 新しく登録する接続名を入力して、「次へ」ボタンをクリックする

ここでは例として「出張先」という名前で登録します。

6 プロバイダに接続するための電話番号、国番号を入力し、「次へ」ボタンをクリックする

「新しいダイヤルアップ　ネットワーク接続が次の名前で作成されました。」と表示されます。

7 **接続名を確認して、「完了」ボタンをクリックする**

8 **「OK」ボタンをクリックする**

新しいダイヤルアップ情報「出張先」が登録されます。

◆ダイヤルアップ接続の情報を修正する

登録した情報を修正したいときは、次の手順で行います。

1 **登録されているダイヤルアップ接続から、変更するものをクリックする**

2 **「修正」ボタンをクリックする**

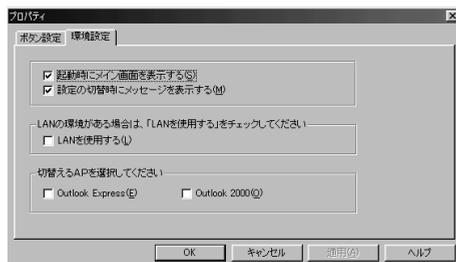
3 **表示された画面でダイヤルアップ接続の内容を変更する**

◆LAN接続へ切り替えるための設定を行う

インターネット設定切替ツールで、LAN接続への切り替えを利用したい場合は、次の手順で設定を行っておいてください。

1 **「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする**

「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「環境設定」タブをクリックする

3 「LANを使用する」を☑にし、「OK」ボタンをクリックする

これでインターネット設定切替ツールでLAN接続への切り替えができるようになります。

◆接続環境を反映するメールソフトを選ぶ

インターネット設定切替ツールで接続環境を切り替えたときに、切り替えた接続環境の情報をどのメールソフトに反映するかを選んでおきます。
接続環境を変更すると、メールソフトでも新たにその接続環境を設定しておく必要があるのですが、ここで選んだメールソフトは、メールソフト側で設定変更することなく使えるようになります。

> インターネットエクスプローラは、接続環境の切り替えを自動的に認識しますので、ここで設定する必要はありません。

1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする

「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「環境設定」タブをクリックする

3 「切り替えるAPを選択してください」欄で、接続環境を反映するメールソフトを☑にする

4 「OK」ボタンをクリックする

これで通信環境を切り替えるための設定ができました。

インターネット設定切替ツールで、より詳細な設定を行いたい場合は、「詳細設定」(→p.177)をご覧ください。

◎ 接続環境を切り替える

1 「インターネット設定切替ツール」を起動する

2 切り替える接続環境名をクリックする

インジケータ領域(タスクトレイ)のを右クリックし、表示されたメニューから切り替える接続環境名をクリックして切り替えることもできます。

これでインターネットへの接続環境が切り替わります。

◎ 詳細設定

接続環境の詳細設定は「プロパティ」ウィンドウで行います。

① 接続先の選択

設定を行いたい接続の種類(ダイヤルアップまたはLAN接続)をクリックしてにします。

② 接続名表示欄

登録されているダイヤルアップ接続名が表示されています。接続名の左をにすると、メイン画面やインジケータ領域(タスクトレイ)からのメニューにダイヤルアップ接続環境名として表示されるようになります。

③「更新」ボタン

登録してあるダイヤルアップの接続情報を自動更新することができます。インターネット設定切替ツールで接続環境を設定したあとで、インターネット設定切替ツールを使用せずに直接ダイヤルアップ接続の設定を追加や削除した場合は、このボタンをクリックしてください。現在のダイヤルアップ接続の情報が取り込まれ、インターネット設定切替ツールの環境設定に反映されます。

④「修正」ボタン

登録してあるダイヤルアップ接続の情報を変更することができます。

⑤ 所在地

「所在地を変更しない」を選んだ場合、接続環境を切り替えても所在地情報は変更されません。「所在地情報名」を選んだ場合は、接続環境を切り替えると、システム上の所在地情報に反映されます。

⑥ アカウントの選択

使用するメールソフトのどのアカウントに接続情報を反映するかを選ぶことができます。この項目を使用するには、メールソフトで複数のアカウントを作成しておく必要があります。

ワイヤレス通信機能

ここでは、ワイヤレスモデルについての説明をしています。
本機に内蔵しているワイヤレス通信機能を使うと、別売のワイヤレスモデムステーションやワイヤレスターミナルアダプタとの間でワイヤレスに通信を行うことができます。

ワイヤレス通信機能を使う

ワイヤレス通信は、親機と子機との間のデータ通信を無線(ワイヤレス)で行います。電話回線とケーブル接続している親機をターミナルとして、その親機から電波が届く範囲内であれば、子機はどこへ移動しても通信機能を利用できます。本機には、この子機としての機能が搭載されています。

◎ ワイヤレス通信機能を使用するには

本機でワイヤレス通信を利用するためには、親機となる別売のワイヤレス機器が必要です。親機として利用できる機器には、次のようなものがあります。

・ワイヤレスモデムステーション(AtermWM56)
・ワイヤレスターミナルアダプタステーション(AtermIW50/D)
・ワイヤレスTAセンターステーション(Aterm IWX70)

本機でのワイヤレス通信で、上記の機器を親機として設定すると、親機と子機の間で最大64kbpsの高速データ通信が可能になります。

> ワイヤレス通信機能を使用するには、親機との無線の増設登録(有料)が必要です。ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などにご相談ください。

⚠警告

●航空機内や病院内などのPHS端末の使用を禁止された区域では、本機やワイヤレス通信機器の電源を切ってください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因となるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカを装着されている方は、本機やワイヤレス通信機器をペースメーカ装着部から22cm以上離して使用してください。電波により影響を受けるおそれがあります。

◎ 電話回線に接続する

別売のワイヤレス通信機器（親機）に添付のマニュアルをご覧になって接続してください。

◎ ワイヤレス通信機器（親機）と通信可能な圏内にあるかを確認する

BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ（Peripheral Setup）」→「PIAFS使用時のランプ切り替え（Lamp Switch when PIAFS is used）」を「圏内（Area）」に設定すると、本機がワイヤレス通信機器と通信可能な圏内にあるかをメール着信ランプ（✉）で確認することができます。

ランプ	状態
緑点灯	通信圏内
消灯	通信圏外

ワイヤレス通信機器を使用するときの注意

・ワイヤレス通信機能が使用できない場合、BIOSセットアップメニューが次のように設定されているかを確認してください。もし、設定内容が異なっている場合は、次のように設定を変更し、ワイヤレス通信機能を使用できるようにしてください。

設定項目	設定内容
「周辺機器セットアップ」の「赤外線ポート（IR Serial Port）」	自動（Auto）
「周辺機器セットアップ」の「赤外線ポート切り替え（IR Port Switch）」	その他（Other）

・本機とワイヤレス通信機器（親機）は、電波を用いて通信を行います。周囲の電波状況により、ワイヤレス通信機器の電波を受信できなかったり、正常に通信ができない場合がありますので、次の点に注意してください。
  - 本機とワイヤレス通信機器の通信距離は、見通し距離で約100m以内ですが、周囲の環境や建物の構造によっては通信距離が短くなります。

- 本機とワイヤレス通信機器は、他の機器(電気機器、AV機器、OA機器、デジタルコードレス電話機、無線を使用するターミナルアダプタなど)を使用している環境では影響を受けやすいため、まれにワイヤレス通信機器の電波を受信できなかったり、通信ができない場合があります(メール着信ランプ(✉)が消灯状態になります)。その場合は、数分待ってから通信を行ってください。それでも通信ができない場合は、他の機器から距離を離してください。
- 本機とワイヤレス通信機器の近くでは、無線を使用する機器(デジタルコードレス電話機、FAX、ターミナルアダプタ、ホームアンテナなど)を同時に4台以上使用しないでください。

・ワイヤレス通信機器と本機の距離が近すぎると、通話にノイズが入ったり、データ通信でエラーが発生する場合があります。
・本機では、ワイヤレス通信機能と赤外線通信機能を同時に使用することはできません。工場出荷時には、ワイヤレス通信機器が使用できるように設定されています。赤外線通信を使用したい場合は、BIOSセットアップメニューでの設定が必要です。「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」の「赤外線ポート(IR Serial Port)」を「自動(Auto)」、「赤外線ポート切り替え(IR Port Switch)」を「IR」に設定してください。この場合ワイヤレス通信機能は使用できなくなります。再度ワイヤレス通信機能を使用したい場合は、「赤外線ポート切り替え(IR Port Switch)」を「自動(Auto)」、「赤外線ポート切り替え(IR Port Switch)」を「その他(Others)」に切り替えてください。

参照 ワイヤレス通信機能と赤外線通信機能を切り替える→PART3の「周辺機器セットアップ」(p.288)

・アナログ回線の状態が悪い場合は、通信の途中で切断されることがあります。
・お使いの構内交換機によっては、外線発信番号のダイヤル間隔に対応できない場合があります。この場合は、外線発信番号の必要がない回線を使用してください。
・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合は、ATコマンドが必要です。

参照 ATコマンドについて→下記のREADMEファイル

Windows Me／Windows 98の場合:
C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM
Windows 2000／Windows NT 4.0の場合:
C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

ワイヤレス通信機能を活用する

親機(ワイヤレス通信機器)や、子機(ワイヤレス通信機能を搭載したパソコン)を新たに追加することで、さらにワイヤレス通信機能を活用することができます。

◎ 親機に子機を追加登録する

別売の親機には、子機を複数台登録することができます。また、親機に別売の子機としての機能を持つパソコンを追加登録すると、親機を介して子機どうしでワイヤレスにデータの転送が可能になります。

> 親機に子機を追加登録するには、「無線の増設登録(有料)」が必要です。ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに相談してください。

参照 **親機に子機を追加登録する→ワイヤレス通信機器のマニュアル**

◎ 親機を増やす

複数の電話回線を利用できる環境にあるときは、親機を増やすことができます。本機を子機として複数の親機に登録することができます。

利用できる親機には、次の機器があります。

- Aterm WM56
- Aterm IW50/D
- Aterm IWX70

> 本機を別売の親機に追加登録するには、「無線の増設登録(有料)」が必要です。ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに相談してください。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、本機の通信設定を簡単に切り替えることができます。

参照 **インターネット設定切替ツールの使い方→このPARTの「内蔵モデム」の「インターネットへの通信環境を切り替える」(p.173)**

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話またはPHSを接続することで、屋外でも手軽にインターネットや電子メールを利用できます。

チェック!! **携帯電話／PHS接続機能は、Windows Me、Windows 98、Windows 2000で使用できます。**

携帯電話またはPHSとの接続

本機に携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。
携帯電話やPHSを接続するためのUSBケーブルが添付されてるモデルをお使いの場合は、添付のケーブルを使って接続してください。

携帯電話やPHSと接続するためのUSBケーブルが添付されていないモデルをお使いの場合、本機と携帯電話やPHSを接続するためには、別売のケーブルが必要になります。以下の中からいずれかのケーブルを購入してください。

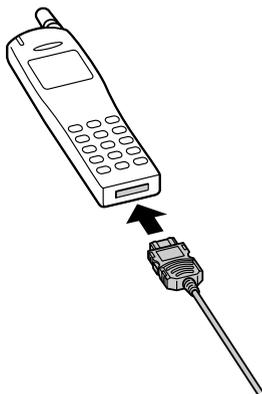
- 携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
- cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)
- PHS(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
- PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)

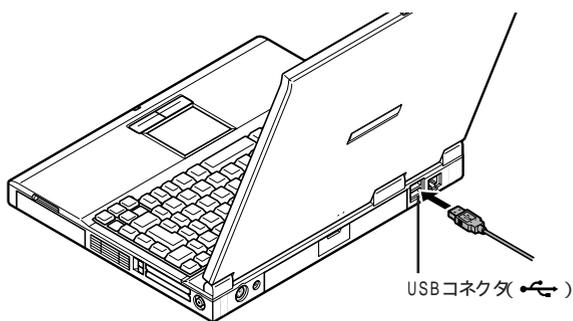
お使いの携帯電話やPHSによって必要なケーブルが異なりますので、ケーブルを購入する際には、お使いの携帯電話やPHSに合ったケーブルを確認してください。

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。
http://121ware.com/

◎ 携帯電話またはPHSを接続する

1 接続ケーブルのラベルが貼ってあるほうのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する

プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。

2 本機のUSBコネクタ(⭠)に、接続ケーブルのプラグを接続する

プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」でWindows Meモデル、Windows 2000モデルをお使いの場合は「SunComm MultiMobile3 USB」、Windows 98モデルをお使いの場合は「SunComm MultiMobile3」を選んでください。

チェック!! お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定

ダイヤルの設定を確認または変更したいときは、次の手順で行います。

■Windows Me／Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

◆「所在地情報」ウィンドウが開いた場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

◆「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが開いた場合

■Windows 2000の場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする**

「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。
はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」ウィンドウが表示されます。このような場合は、次の「「所在地情報」ウィンドウが表示された場合」をご覧になり設定を行ってください。

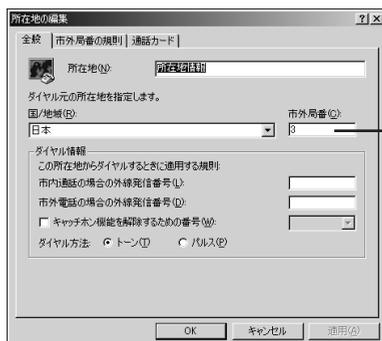
◆「所在地情報」ウィンドウが開いた場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「電話とモデムのオプション」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする

新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」ウィンドウで設定を行ってください。

3 「所在地の編集」ウィンドウで設定を行う

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

携帯電話／PHS接続機能使用上のご注意

ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

・Windows Me／Windows 98の場合:
　C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM
・Windows 2000/Windows NT 4.0の場合:
　C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

いろいろなデータ通信を行う

本機の携帯電話／PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

◎ cdmaOneでデータ通信を行う

cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Async」に設定して、USBコネクタに接続するとcdmaOneでデータ通信が利用できます。
また、cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Packet」に設定してUSBコネクタに接続すると、cdmaOneでPacket通信が利用できます。
「Async」モードおよび「Packet」モードの切り替えは、cdmaOneの取扱説明書をご覧ください。

チェック!! cdmaOneを使用する場合には、cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)が必要です。

◎ NTTドコモのDoPaサービスでデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのDoPaサービス(パケット通信サービス)を利用できます。

チェック!! NTTドコモの携帯電話を使用する場合には、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です。

1 **NTTドコモのDoPaサービスが利用可能な携帯電話を、接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続する**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する**

チェック!!
- DoPaによる通信をする場合には、DoPa対応のアクセスポイントに接続する必要があります。
- DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合には、「##02」を追加する必要はありません。

◎ NTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kの通信が利用できます。

チェック!! NTTドコモのドッチーモを使用する場合には、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です。

1 **ドッチーモを、接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続する**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する**

チェック!!
- ドッチーモでPIAFS32K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSを本機に接続している場合は、「##3」を追加する必要はありません。

◎ NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kの通信が利用できます。

チェック!!
- NTTドコモのPHSを使用する場合には、PHS(NTTドコモ／アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)が必要です。
- NTTドコモのドッチーモを使用する場合には、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です。

1 **NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモを、接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続する**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する**

チェック!!
- ドッチーモでPIAFS64K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- PIAFS64K通信モードで、PIAFS32K専用のアクセスポイントへ誤って接続した場合、いったん接続した後で切断されることがあります。PIAFS64Kで通信を行う場合は、必ずPIAFS64K対応のアクセスポイントに接続してください。

◎ DDIポケットの電話機(32K対応)でPIAFS32Kのデータ通信を行う

チェック!! DDIポケットの電話機を利用する場合は、PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)が必要です。

1 **DDIポケットの電話機(32K対応)を接続ケーブルを使って本機のUSBコネクタに接続する**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する**

チェック!! DDIポケットの電話機を使ってPIAFS32Kデータ通信を行う場合には、PIAFSに対応したアクセスポイントに接続する必要があります。

◎ DDIポケットのH"(エッジ)でPIAFS64Kのデータ通信を行う

チェック!! DDIポケットのH"を利用する場合は、PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)が必要です。

1 H"(電話機)を接続ケーブルを使って本機のUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する

チェック!!
- 電話番号の最後に「##4」を追加せずに発信すると32Kbpsでの接続になります。
- 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができない場合がありますが、32Kbpsでのデータ通信は可能です。
- 回線の混雑具合により、32Kbpsで接続される場合があります。

LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでは、LAN内蔵モデルについての説明をしています。

LANへの接続

本機の内蔵LANボードは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のHUBやケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

◎ LANの設置

初めて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

◎ 接続方法

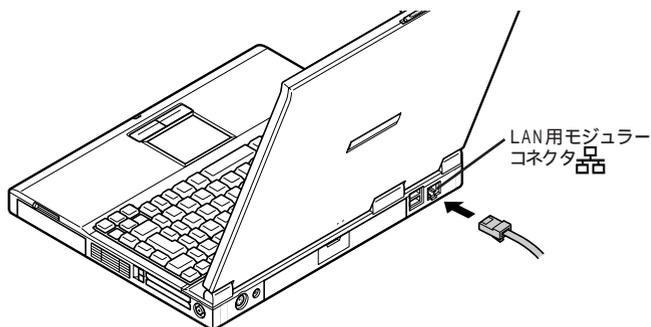
既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。
本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用するときには、必ずカテゴリ5(CAT5)のケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用するときには、カテゴリ3または5のケーブルを使用してください。

チェック!! **本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。**

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **リンクケーブルの一端を、本機のLAN用モジュラーコネクタ（品）に、奥までしっかり差し込む**

4 **リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク（100BASE-TXハブなど）に接続する**

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続作業をすることで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、本機を再起動してネットワークの接続をやり直してください。

・LAN回線を接続してネットワーク通信をするときには、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。

・スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合は、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。

・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

◎ ユニバーサル管理アドレス

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

MS-DOSプロンプトに、次のコマンドを入力してください。

◆Windows Me/Windows 98の場合

Winipcfg.exe【Enter】

(ただし、TCP/IPプロトコルが必要です。)

◆Windows 2000/Windows NT 4.0の場合

NET CONFIG WORKSTATION 【Enter】

(「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の(　)内に表示されます。)

本機の運用管理

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、資源管理および遠隔操作・保守を行うための機能があります。システム管理者が効率よくパソコンをマネジメントするために、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

・一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更・削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする。

・機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)。

・アプリケーションのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)、ソフトウェア構成情報を管理する。

・ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する。
・システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のようなマネジメント(運用管理)機能を備えています。

◎ クライアントモニタリング

「Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)」

①資源管理

本機のメモリ容量、ハードディスク容量などのハードウェア構成およびインストールされているアプリケーションについての情報を知ることができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

②状態監視

障害監視機能が異常を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメニューにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

◎ リモートコントロール

離れたところにあるシステム管理者のマシンから本機を操作して、次の操作を行うことができます。
・本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ
・ファイル転送
・アプリケーションのインストール
・アプリケーションの実行などの操作(アプリケーションによってはできないものがあります)

チェック!! この操作を行うには、システム管理者のマシンに次のアプリケーション(別売)が必要です。

・「DMITOOL Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EX コンプリート版付)」

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「pcAnywhere 9.2 EX」

「DMITOOL Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EX コンプリート版付)」に関しての最新情報は、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェアドット コム)」で提供しています。
http://121ware.com/

◎ ネットワークブート

管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

チェック!! **この機能を使用するには、別途同一LAN上の管理者パソコンで、別売のESMPRO/ClientManager Ver3.1以上のRemote Install Managerが設定されている必要があります。**

- OSのセットアップ
- BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- BIOS設定変更

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、本機起動時に「NEC」ロゴが表示されているときに【F12】を押すとネットワークブートが可能になります。

チェック!!
- **お使いの機種によってはこの機能を利用できない場合があります。**
- **【F12】を押し続けても、ネットワークブートができないことがあります。この場合は再度【F12】を押しながら電源を入れてください。**

◎ リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)の設定

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能は次のとおりです。
- 電源の切れている状態から電源を入れる(パワーオン)
- スタンバイモードから元の状態に戻す(Windows NT 4.0のみ)
- スタンバイ状態(サスペンド)からの復帰
- 休止状態(ハイバネーション)からの復帰

本体およびLANボードがリモートパワーオンに対応しているパソコンでは、本体の電源が切れているときも、LANボードの一部は通電されています。
リモートパワーオン機能を利用するには、リモートパワーオンのパケットを発信するパソコンに、別売の「DMITOOL Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EX コンプリート版付)」が、パワーオンのパケットを受信するパソコンにはBIOSの設定(リモート電源制御)が必要です。

電源が切れている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)からリモートパワーオン機能を利用するためには、次の設定を行ってください。

> Windows Me、Windows 98の場合、リモートパワーオンには、従来からサポートされているMagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(例えば、ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)が追加されています。
> ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどは、コンピュータをネットワークに接続して使用していると、他のコンピュータから不定期に送られてくるため、本機をスタンバイ状態または休止状態にしておくと、これらが検出されたときに、不定期にスタンバイ状態または休止状態から復帰することがあります。

チェック!!

- **リモートパワーオン機能の設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリの消費量が大きくなります。バッテリ駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、リモートパワーオン機能の設定は行わずに出荷時の設定で使用してください。**
- **リモートパワーオン(休止状態または電源が切れている状態からの復帰)機能を使用する場合は、ACアダプタを接続した状態で本機を休止状態または電源が切れている状態にしてください。ACアダプタを接続しない状態で休止状態または電源が切れている状態にすると、リモートパワーオン(休止状態または電源が切れている状態からの復帰)機能は利用できません。また、本機を休止状態または電源が切れている状態にした後でACアダプタを外した場合、再度ACアダプタを接続してもリモートパワーオン(休止状態または電源が切れている状態からの復帰)機能は利用できません。**

◆Windows Me/Windows 98の場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

2 **「デバイスマネージャ」タブをクリックする**

3 **「ネットワークアダプタ」をダブルクリックする**

4 **表示されたLANアダプタをダブルクリックする**

5 「電源の管理」タブをクリックする

6 以下の設定を行う

・「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」を「オン」にします。
・「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を「オン」にします。

Windows 98で休止状態からのリモートパワーオン機能を使用する場合は、続けて以下の設定を行ってください。

7 BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「リモート電源制御(Remote Power On)」を「使用する(Enabled)」にする

◆Windows 2000の場合

1 「Administrator」でログオンする

2 Windows 2000 Service Pack1をインストールして再起動を行う

参照 Windows 2000 Service Pack1のインストール→添付のWindows 2000 Service Pack1のCD-ROM

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする

4 「C:¥WIN2K¥100BASE¥WUFD.EXE」と入力して「OK」ボタンをクリックする

5 「Wake On LAN機能の設定を行いました。設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリックし、再起動する

6 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

7 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする

8 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックする

9 表示されたLANアダプタをダブルクリックする

10 「電源の管理」タブをクリックする

11 以下の設定を行う

・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」を「オン」にします。
・「電力の節約のために、このコンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」を「オン」にします。

◆Windows NT 4.0の場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「PowerProfiler」をクリックする

2 「詳細」タブをクリックする

3 「電話が鳴ったらレジューム」を「オン」にする

4 BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「リモート電源制御(Remote Power On)」を「使用する(Enabled)」にする

チェック!! 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能を使用して電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して本機を起動し、もう一度正しい方法で電源を切ってください。

PART

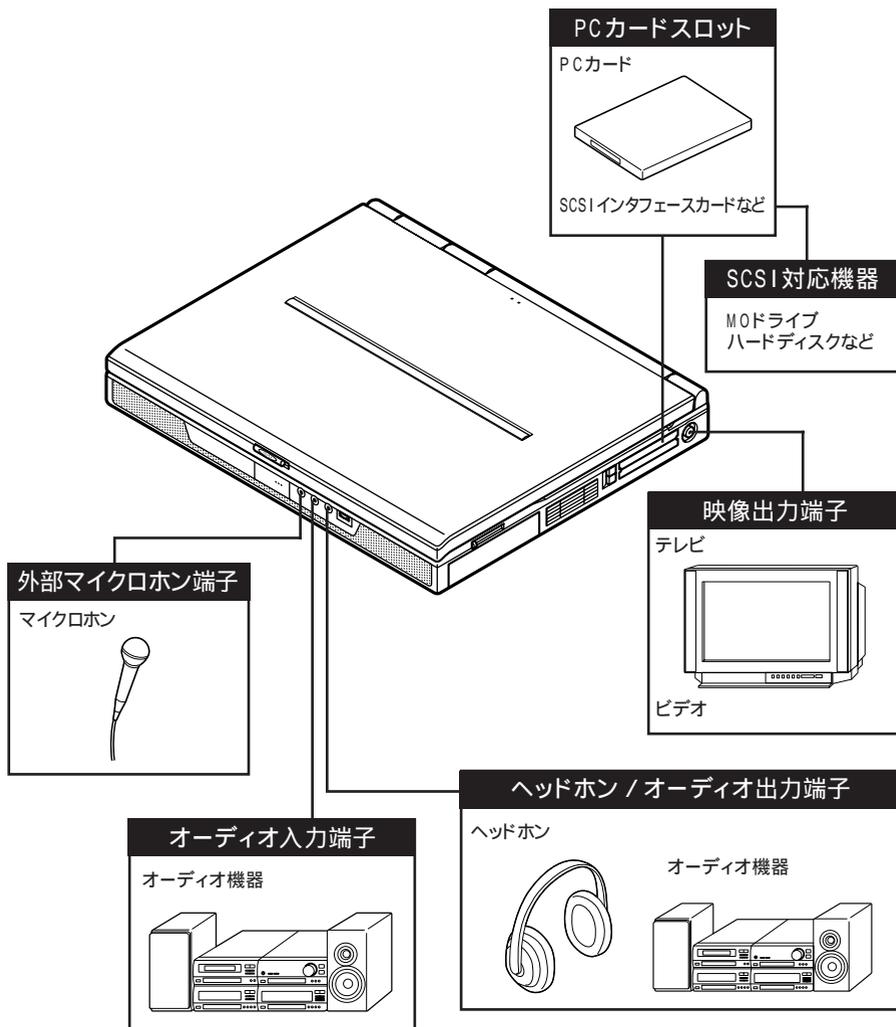
2

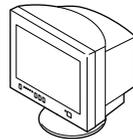
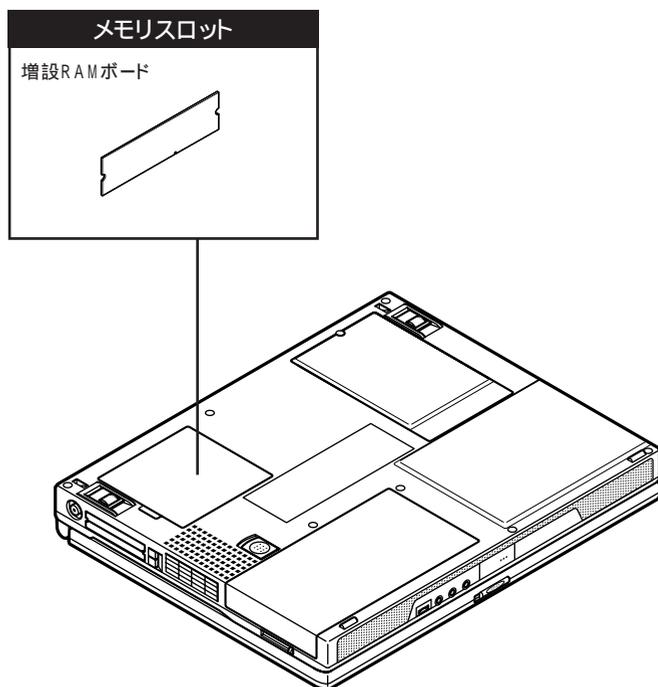
周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

本体前面／右側面

本体背面

マウス／テンキーボード用コネクタ
マウス
テンキーボード
外部CRT用コネクタ
外部ディスプレイ
パラレルコネクタ
プリンタ
USBコネクタ
USB機器
マウス、テンキーボード、携帯電話、PHS端末
など（携帯電話、PHS端末を接続する場合
は、接続電話／PHS接続ケーブルが必要）
IEEE1394コネクタ
（VA80J/WX、VA70J/WX、
VA70J/WS）
デジタルビデオカメラ
シリアルコネクタ
ターミナルアダプタ

本体底面

周辺機器の利用

プリンタやや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

周辺機器や外部のコンピュータと本機との間で信号(データ)をやり取りするための「窓口」となるのがポートです。やり取りする信号(データ)を船荷に例え、それらを積み降ろしする港(ポート)に例えてこの名前が付いています。WindowsのCOM1ポートは本機のシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

周辺機器利用上の注意

⚠警告

●**雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。**

⚠注意

●**周辺機器の取り付け/取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。**

●**濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。**

◎ 周辺機器の取り付け/取り外し時の注意

・本機がスリープ状態またはサスペンド状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
本機がスリープ状態またはサスペンド状態のときは、本機を一度元の状態に戻し、データを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。

・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元／発売元などに上記の事項を確認してください。

・周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書に従って正しく行ってください。

・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえご用意ください。

◎ リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、以下の手順でリソースが競合しないように変更してください。

◆Windows Me／Windows 98の場合

1 起動しているアプリケーションをすべて終了する

2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 !や✕が表示されていて動作しない周辺機器を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、以下の設定を行う

・Windows Meの場合:
「自動設定」を□(オフ)にします。
・Windows 98の場合:
「自動設定を使う」を□(オフ)にします。

6 **競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする**

「競合するデバイス」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

7 **競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする**

「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

チェック!! **他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。**

> 選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/0の範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

8 **リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする**

9 **「変更不可の環境設定の作成」のダイアログが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする**

もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

10 **「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる**

11 **本機を再起動する**

◆**Windows 2000の場合**

1 **起動しているアプリケーションをすべて終了する**

2 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 **「ハードウェア」タブをクリックする**

4 「デバイスマネージャ」の欄の「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

5 [!]や[×]が表示されていて動作しない周辺機器を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックする

6 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定」を[ ](オフ)にする

7 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする

「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

8 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする

設定したリソースの値が他のデバイスと競合している場合、「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

チェック!! **他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この構成のリソースを変更できません。」と表示された場合は、その値への変更はできません。**

> 選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

9 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

10 「変更不可の構成を作成しています」のダイアログが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする

もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

11 右上の[×]をクリックし、「デバイスマネージャ」を閉じる

12 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる

13 本機を再起動する

◆Windows NT 4.0の場合

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「Windows NT診断プログラム」を開く**

2 **「リソース」タブをクリックし、「IRQ」ボタンをクリックする**

3 **現在使用しているIRQを確認して、リソースが競合しないようにする**

◎ 周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことです。

チェック!! デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルに従って、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

◆Windows Me/Windows 98/Windows 2000の場合

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

・**「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合**

機器を本機に接続してWindowsを起動すると、自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

本機にインストールされているWindows Me/Windows 98/Windows 2000には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

・「プラグ＆プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

機器を本機に接続した後、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

◆Windows NT 4.0の場合

ドライバの機能やセットアップ方法、問い合わせ先については、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
新しいコンポーネントを追加または変更した場合は、再度Service Pack 6aをインストールする必要があります。インストール方法など詳しくは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Service Pack 6」の「Service Pack 6について」をご覧ください。

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

◎ 周辺機器の電源を入れる／切る順序

本機に周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

◆電源を入れるとき

周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる

◆電源を切るとき

本機の電源を切る → 周辺機器の電源を切る

プリンタ

プリンタを使用するには、そのプリンタ機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

プリンタの接続

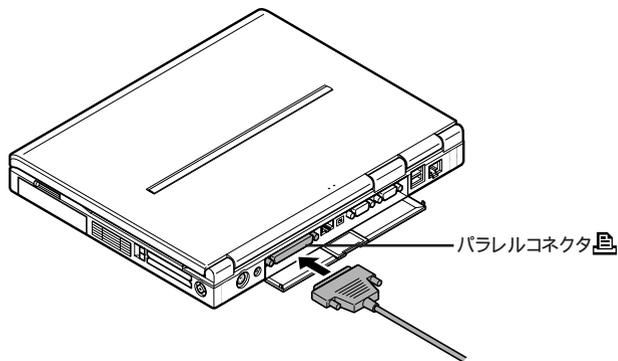
本機のパラレルコネクタにプリンタを接続するときは、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。
また、プリンタによっては、本機のUSBコネクタに接続できる機種もあります。

チェック!! **本機をWindows NT 4.0で使用している場合は、USBコネクタに機器を接続しても利用できません。**

参照 USB対応プリンタを使う→このPARTの「USBコネクタ」(p.268)

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 本機のパラレルコネクタ(🖶)にプリンタケーブルの小さいほうのプラグを向き(上下)に注意して差し込む

4 **プリンタケーブルの大きいほうのプラグをプリンタのコネクタに差し込む**

接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。

5 **プリンタの電源ケーブルと本機の電源コードをACコンセントに接続する**

プリンタの設定

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」ウィンドウで行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

■Windows Me／Windows 98の場合

◎ プラグ&プレイ機能対応のプリンタを設定する

プラグ&プレイ機能(→p.209)に対応したプリンタを設定する場合、プリンタを本機に接続したあと、プリンタ→本機の順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

◎ プラグ&プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

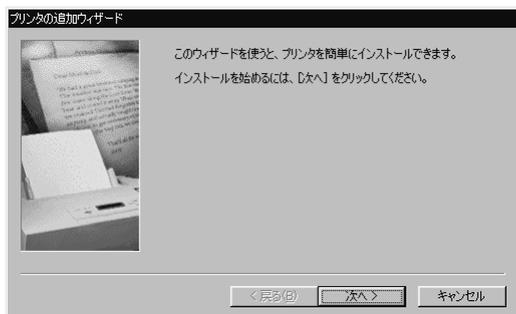
1 **プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する**

2 **「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする**

「プリンタ」画面が表示されます。

すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。

3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする

「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

画面はモデルによって異なります。

4 「次へ」ボタンをクリックする

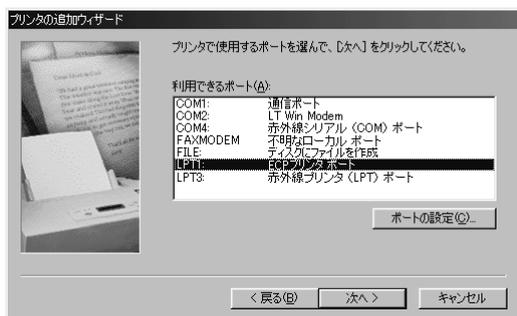
5 「プリンタはどこに接続されていますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする

「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

6 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ機種（または互換性のある機種）を選択する

画面はモデルによって異なります。

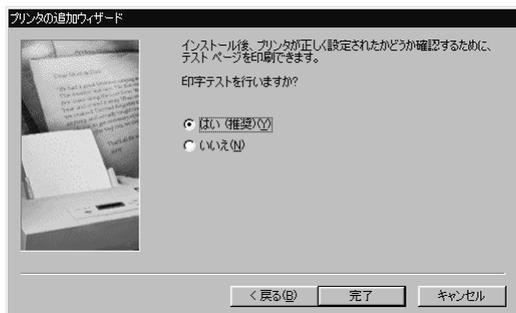
プリンタにインストールディスク（ドライバディスク）が添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧になり、インストールディスクの指定を行ってください。

7 **「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ**

画面はモデルによって異なります。

8 **「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける**

この欄には手順6で選択したプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。

9 「次へ」ボタンをクリックする

テスト印刷を行うかどうかを選択する画面が表示されます。
「はい(推奨)」を選択すると、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルに従って用紙などをセットしておいてください。

画面はモデルによって異なります。

10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする

もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。
「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。

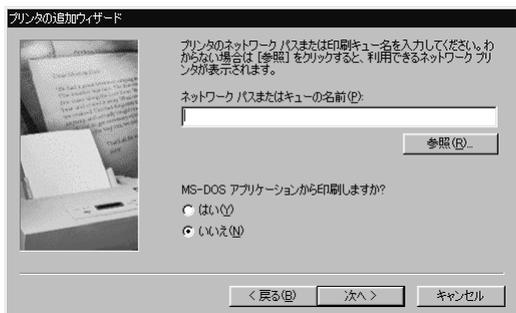
チェック!! NEC製プリンタMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズのPrintAgentは、スタンバイ機能に対応していない場合があります。その場合は「コントロールパネル」の「電源の管理」を開き、「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

◎ ネットワーク上の共有プリンタを使うには

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 **「プリンタの設定」の「Windows Me／Windows 98の場合」(→p.212)の手順1〜4を行う**

2 **「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする**

次のような画面が表示されます。

画面はモデルによって異なります。

3 **ネットワークパス名を入力する**

「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。

4 **「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示に従ってプリンタの設定を行う**

■Windows 2000の場合

◎ プラグ&プレイ機能対応のプリンタを設定する

プラグ&プレイ機能（→p.209）に対応したプリンタを設定する場合、プリンタを本機に接続したあと、プリンタ→本機の順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

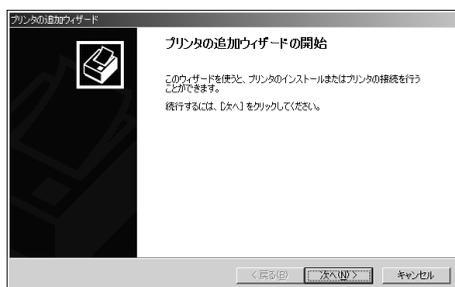
◎ プラグ&プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

1 **プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する**

2 **「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする**

「プリンタ」画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。

3 **「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする**

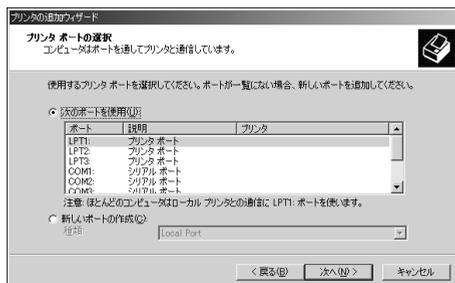
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリックする

5 「プリンタはどのようにコンピュータに接続していますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」を◉にして「次へ」ボタンをクリックする

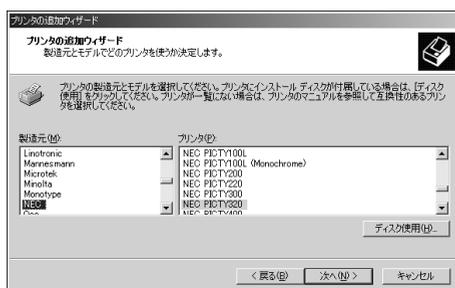
プリンタを使用できるポートのリストが表示されます。

プリンタの追加ウィザード
プリンタ ポートの選択
コンピュータはポートを通してプリンタと通信しています。
使用するプリンタ ポートを選択してください。ポートが一覧にない場合、新しいポートを追加してください。
次のポートを使用(U):

ポート	説明	プリンタ
LPT1:	プリンタ ポート	
LPT2:	プリンタ ポート	
LPT3:	プリンタ ポート	
COM1:	シリアル ポート	
COM2:	シリアル ポート	
COM3:	シリアル ポート	

注意: ほとんどのコンピュータはローカル プリンタとの通信に LPT1: ポートを使います。
新しいポートの作成(C):
種類: Local Port
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6 「LPT1」を選んで「次へ」ボタンをクリックする

「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

7 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ機種(または互換性のある機種)を選択して「次へ」ボタンをクリックする

プリンタにインストールディスク(ドライバディスク)が添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧になり、インストールディスクの指定を行ってください。

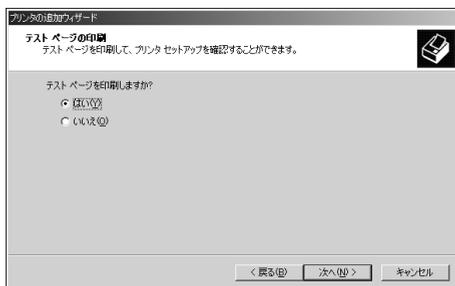
8 表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける

この欄には手順7で選択したプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。
このプリンタを通常使用するプリンタとして登録する場合は、下欄の「はい」をクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックする

プリンタをほかのネットワークユーザと共有するかどうかを選択する画面が表示されます。共有する場合は、「共有する」を◉にしてプリンタの共有名を付けます。

10 「次へ」ボタンをクリックする

テスト印刷を行うかどうかを選択する画面が表示されます。
「はい」を選択すると、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。テスト印刷をする場合は、あらかじめプリンタのマニュアルに従って用紙などをセットしておいてください。

11 設定が終了したら「次へ」ボタンをクリックする

もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

12 「完了」ボタンをクリックする

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。

「Windows 2000 CD-ROM」のラベルの付いたCD-ROMを要求するメッセージが表示された場合は、「C:¥i386」を指定してください。

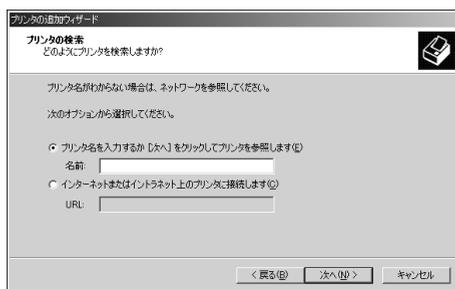
チェック!! NEC製プリンタMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズのPrintAgentは、スタンバイ機能に対応していない場合があります。その場合は「コントロールパネル」を開き、「電源オプション」の「システム スタンバイ」を「なし」に設定してください。

◎ ネットワーク上の共有プリンタを使うには

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 「プリンタの設定」の「Windows 2000の場合」(→p.217)の手順1〜4を行う

2 「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする

次のような画面が表示されます。

3 プリンタ名を入力する

「次へ」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。

4 「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示に従ってプリンタの設定を行う

■Windows NT 4.0の場合

1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する

2 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする

「プリンタ」画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。

3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする

「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

4 「このコンピュータ」を選択して、「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選択する

5 「次へ」ボタンをクリックすると、表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元、次に使用するプリンタ機種(または互換性のある機種)を選択する

Windows NT 4.0のドライバディスクがある場合は、「ディスク使用」をクリックしてドライバのインストールを行ってください。

6 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ」欄に使用するプリンタの名前を付けて「次へ」ボタンをクリックする

この欄には手順5で選択したプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。

7 このプリンタを共有しないプリンタとして登録する場合は、下欄の「次へ」ボタンをクリックする

8 「次へ」ボタンをクリックすると、テスト印刷を行うかどうかを選択する画面が表示される

「はい(推奨)」を選択すると、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルに従って用紙などをセットしておいてください。

9 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする

今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

手順5でインストールしなかった場合やインストールが必要な場合は、ここで「ディスクの挿入」画面が表示されますので、プリンタのマニュアルをご覧のうえ、指定されたディスクをセットしてください。設定がすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。

◎ ネットワーク上の共有プリンタを使うには

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。

設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 「プリンタの設定」の「Windows NT 4.0の場合」(→p.221)の手順1～3を行う

2 「ネットワークプリンタサーバ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックすると次の画面が表示される

3 「プリンタ」にネットワークパス名または使用するプリンタ名を入力する

「共有プリンタ」をクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選択することもできます。

4 「OK」ボタンをクリックし、あとは画面の指示に従ってプリンタの設定を行う

マウス

本機では、添付または別売のマウスを接続して使用することができます。ここでは、別売のマウスを使用するための手順を説明しています。

別売のマウスの設定方法

本機では、別売のUSBマウス、シリアルマウス、PS/2互換マウスを使用することができます。それぞれのマウスを使用するための設定方法については、次からの説明をご覧ください。
ここでは、Windows Me、Windows 98、Windows 2000を例として説明します。

チェック!! **マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合でもキーボードによる操作は可能ですので次の手順で本機を再起動してください。**

・キーボードでの再起動

①【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す
②カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し【Enter】を押す
③カーソル移動キーで「再起動」を選択し、【Enter】を押す

◎ USBマウスを使用する

本機にUSBマウスを接続して使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

チェック!!
- **購入時はNXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、PART1の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」(→p.33)をご覧ください。**
- **マウスドライバの変更を行うときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。**

◆Windows Me/Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする

3 「マウス」の左の[+]をクリックする

4 「NX PAD」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックする

「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

6 Windows Meの場合は、「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする Windows 98の場合、「次へ」ボタンをクリックする

7 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」または「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

8 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!! 「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」をクリックして「製造元」から「標準マウス」を選択し、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。

9 「次へ」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。

10 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

11 本機を再起動する

再起動後、USBマウスを接続してください。

参照 マウスドライバのインストール方法→各機器のマニュアル

◆Windows 2000の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする

3 「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の左の+をクリックする

4 「NX PAD」をダブルクリックする

「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイスドライバのアップグレードウィザード」画面が表示されます。

6 「次へ」ボタンをクリックする

7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

8 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!! 「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」をクリックして「製造元」から「標準マウス」を選択し、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。

9 「次へ」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。

「デバイスのインストールの確認」画面が表示された場合は「はい」ボタンをクリックしてください。

10 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

11 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」画面が表示されます。

12 「はい」ボタンをクリックする

本機が再起動します。

再起動後、USBマウスを接続してください。

参照 マウスドライバのインストール方法→各機器のマニュアル

◎ シリアルマウスを使用する

本機にシリアルマウスを接続して使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

チェック!! 接続するときは、必ず本機の電源を切ってから接続してください。

◆Windows Me／Windows 98の場合

1 シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する

2 「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする

「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

3 「次へ」ボタンをクリックする

4 「次へ」ボタンをクリックする

5 「デバイスは一覧にない」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

6 「はい(通常こちらを選択してください)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

7 「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検出します。」とメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!! ハードウェアの検出には数分かかる場合があります。

8 **ハードウェアの検出が完了したら「詳細」ボタンをクリックし、「シリアルマウス」が認識されたことを確認する**

9 **「完了」をクリックする**

チェック!! **シリアルマウスが動作しない場合は、本機を再起動してください。**

◆Windows 2000の場合

1 **シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する**

2 **「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加と削除」アイコンをダブルクリックする**

「ハードウェアの追加と削除ウィザード」が表示されます。

3 **「次へ」ボタンをクリックする**

4 **「次へ」ボタンをクリックする**

「新しいハードウェアの検出」が表示されます。

チェック!! **ハードウェアの検出には数分かかる場合があります。**

5 **検出されたシリアルマウスを選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

「ハードウェアの追加と削除ウィザードの完了」が表示されます。

6 **「完了」をクリックする**

チェック!! **シリアルマウスが動作しない場合は、本機を再起動してください。**

◎ PS/2互換マウスを使用する

本機にPS/2互換マウスを接続して使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 本機の電源を切る

2 マウス／テンキーボード用コネクタ（⌨／🖰）にPS/2互換マウスを接続する

マウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

NXパッドを使用する設定に戻す

チェック!! 購入時はNXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、PART1の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」（→p.33）をご覧ください。

◆Windows Me／Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする

3 「マウス」の左の⊞をクリックする

4 現在使用しているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする

現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

6 「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

7 **「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

8 **「モデル」の「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

9 **「次へ」ボタンをクリックする**

必要なファイルがコピーされます。

10 **「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました」と表示されたら、「完了」ボタンを押す**

11 **本機を再起動する**

再起動後、NXパッドが有効になります。再起動してもポインタが動かない場合は、キーボードを使用して本機をもう一度再起動してください。

◆Windows 2000の場合

1 **「Administrator」でログオンする**

2 **使用中のアプリケーションをすべて終了する**

3 **「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする**

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

4 **「ハードウェア」タブをクリックし、一覧に表示されているマウスドライバを選択してから「プロパティ」ボタンをクリックする**

5 **「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする**

6 **「次へ」ボタンをクリックする**

7 **「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」ボタンをクリックする**

8 **「ディスク使用」ボタンをクリックする**

9 「参照」ボタンをクリックする

10 「ファイルの場所」に「C:¥WIN2K¥SLIDEPAD」を指定する

11 「Apfiltr.inf」を選択し、「開く」ボタンをクリックする

12 「OK」ボタンをクリックする

13 「NX PAD」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする

14 「次へ」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。
「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

15 「完了」ボタンをクリックする

16 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」画面が表示されます。

17 「はい」ボタンをクリックして本機を再起動する

本機が再起動すると、設定が有効になります。

他社製のマウスドライバを使用するときの注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製のマウスドライバのインストール、アンインストールは以下の手順で行ってください。

チェック!! **マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。**

◎ 他社製のマウスドライバをインストールする

1 「USBマウスを使用する」(→p.224)の手順1〜11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

2 他社製のマウスドライバをインストールする

参照 マウスドライバのインストール→マウスのマニュアル

◎ 他社製のマウスドライバをアンインストールする

1 他社製のマウスドライバをアンインストールする

参照 マウスドライバのアンインストール→マウスのマニュアル

2 「USBマウスを使用する」(→p.224)の手順1〜11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

3 「NXパッドを使用する設定に戻す」(→p.229)の手順に従い、NXパッドを使用する設定に戻す

外部ディスプレイ

本機にCRTディスプレイやプロジェクタ、テレビなどを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイの接続

◎ CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度(ドット)	水平走査周波数(KHz)	垂直走査周波数(Hz)	表示色		
			256色	65,536色	1,677万色
640×480	31.5	60	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
	43.3	85	○	○	○
800×600	37.9	60	○	○	○
	46.9	75	○	○	○
	53.7	85	○	○	○
1,024×768	48.4	60	○	○	○
	56.5	70	○	○	○
	60.0	75	○	○	○
1,280×1,024	64.0	60	○	○	○
	80.0	75	○	○	○
	91.1	85	○	○	×
1,600×1,200	75.0	60	○	○	×
	93.8	75	○	○	×

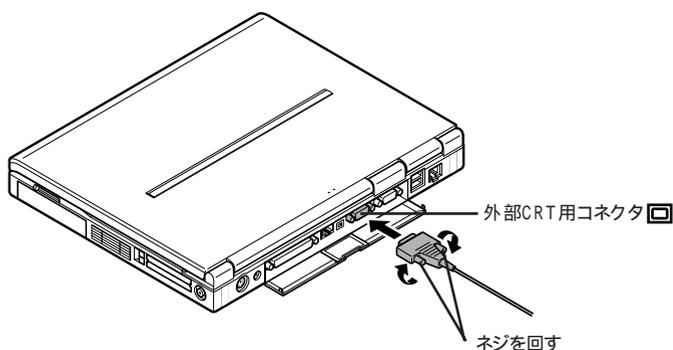
○：表示可能
×：表示不可能

チェック!! **お使いになるCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。**

◎ CRTディスプレイを接続する

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **ディスプレイ用ケーブルを本機の外部CRT用コネクタ(▭)に差し込み、ネジを回して固定する**

4 **CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む**

詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

5 **本機にACアダプタを接続する**

6 **CRTディスプレイの電源ケーブルのプラグをACコンセントに接続する**

CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。

プロジェクタの接続

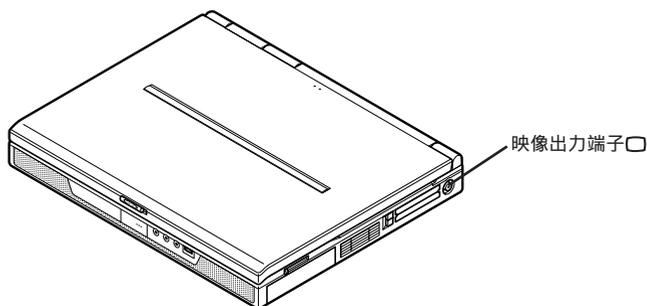
本機には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。

◎ 液晶プロジェクタと解像度について

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

テレビの接続

本機は、市販のビデオケーブルを使って、本機の映像出力端子（▢）とテレビやビデオなどの映像入力端子を持つ機器を接続し、パソコンの画面をテレビに出力することができます。

参照 テレビで表示できる解像度と表示色→PART1の「液晶ディスプレイ」(p.71)

外部ディスプレイの設定

◎ 表示ディスプレイの切り替え

キーボードの【Fn】を押しながら【F3】を押すと、キー操作で簡単に画面の出力先の切り替えを行うことができます(→p.70)。

参照 ホットキー機能について→PART1の「キーボード」(p.28)

チェック!! Windows 2000を使用している場合、キーボードの【Fn】を押しながら【F3】を押して画面の出力先を切り替えることができますが、この操作では設定が保持されないので、本機を再起動すると切り替える前の出力先に戻ります。設定を保持したいときは、BIOSセットアップメニューの「起動時デバイスセットアップ(Boot Device Setup)」で「起動時表示デバイス(Boot Display Device)」の設定を行ってください。
また、解像度や色数を変更した場合、またはスタンバイ状態や休止状態から復帰した場合にも画面の出力先が変わってしまうことがあります。このような場合は、再度【Fn】を押しながら【F3】を押して画面の出力先を切り替えてください。

◎ 表示するディスプレイを変更する

Windows Me、Windows 98を使用している場合、液晶ディスプレイ(LCD)、外部ディスプレイ(モニタ)、TVに表示を行うことができます。次の手順で変更してください。

1 **「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする**

2 **「画面のプロパティ」の「設定」タブの「詳細」ボタンをクリックする**

3 **「RAGE MOBILITY-M PCI(日本語)のプロパティ」の「画面」をクリックする**

4 **モニタ、パネル、テレビのボタンを押して設定し、それぞれの隣にあるボタンで表示するデバイスを決定する**
モニタ、パネル、テレビのボタンの隣のボタンが水色の場合に表示がされ、グレーの場合にそのデバイスに表示されなくなります。

5 **設定が終了したら「適用」ボタンをクリックし、表示が切り替わったことを確認したら、「OK」ボタンをクリックする**

◎ ディスプレイに合わせて本機を設定する

Windows Me／Windows 98／Windows 2000をお使いの場合で、別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

◆Windows Me／Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
Windows Meをお使いの方は手順4へ、Windows 98をお使いの方は手順5へ進んでください。

4 「ドライバの場所を指定する」を選択する

5 「次へ」ボタンをクリックする

6 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」または「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

7 「すべてのハードウェアを表示」を選択する

8 「デバイスドライバの更新ウィザード」の一覧から「製造元」と「モデル」を選択する

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

9 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

10 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする

11 **「OK」ボタンをクリックする**
これでディスプレイの設定が完了しました。

◆Windows 2000の場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする**
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする**

3 **「モニタ」タブをクリックし、「プラグアンドプレイモニタ」または「既定のモニタ」を選択する**

4 **「プロパティ」ボタンをクリックする**

5 **「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする**
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」が表示されます。

6 **「次へ」ボタンをクリックする**

7 **「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

8 **「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」を選択する**

9 **「製造元」と「モデル」を選択する**
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

10 **「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする**

11 **「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする**

12 **「OK」ボタンをクリックする**
これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカード

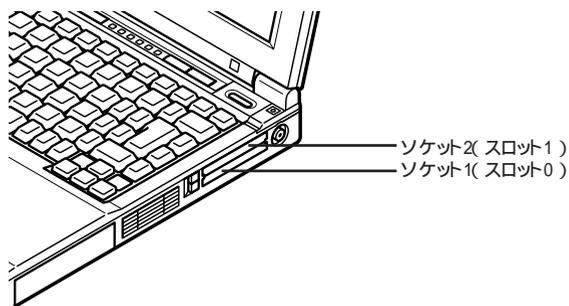
本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

PCカード

PCカードとは、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)とPCMCIAとの間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモリカードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカードもあります。

使用上の注意

◎ PCカードスロットについて

- TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
- CardBus対応のPCカードは、ソケット2(スロット1)またはソケット1(スロット0)の両方で同時に使うことができます。
- Windows NT 4.0でCardBus対応のPCカードを使用する場合、「CardBus対応PCカードの利用」(→p.252)をご覧ください。
- Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。

◎ PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- 高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- 濡らさないでください。
- 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- 本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

◎ PCカード使用時の注意

- Windows MeまたはWindows 98でご利用の場合、ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- Windows MeまたはWindows 98でマルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用するときは、上側のスロット(スロット1)にマルチファンクションカードを、下側のスロット(スロット0)にATAカードをセットしてください。
- Windows MeまたはWindows 98でCardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、本機を再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

⚠注意

●本機の使用中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

チェック!! ・PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。

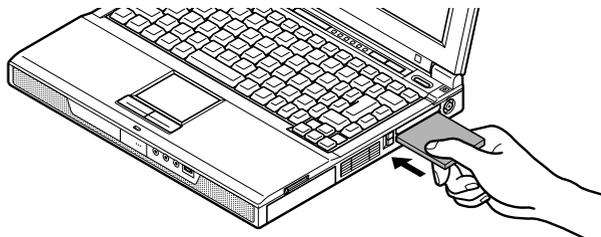
・本機がスリープ状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。

・アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

・Windows NT 4.0でご利用の場合、CardWizard for Windows NTをセットアップしていないときや、本機の電源が入っている状態でセット／取り出しできないPCカードを使用するときは、本機の電源を切ってからPCカードのセット／取り出しを行ってください。

◎ PCカードのセットのしかた

チェック!! Windows NT 4.0では、PCカードをセットする前に必ず電源を切っておいてください。

1 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む

◎ PCカードの取り出し方

◆Windows Me／Windows 2000の場合

1 **インジケータ領域(タスクトレイ)にあるPCカードのアイコンをダブルクリックする**

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 **取り外したいPCカードを選択し、「停止」ボタンをクリックする**

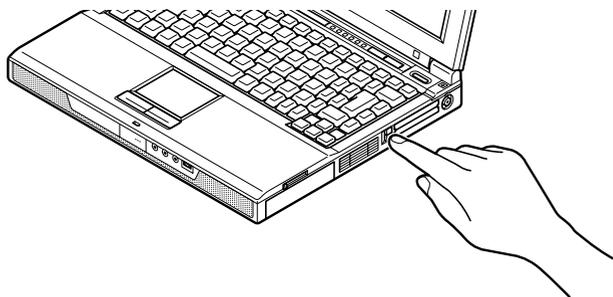
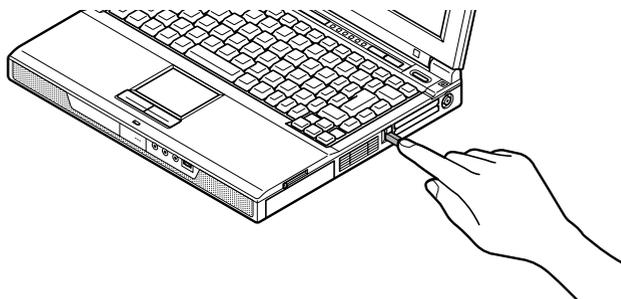
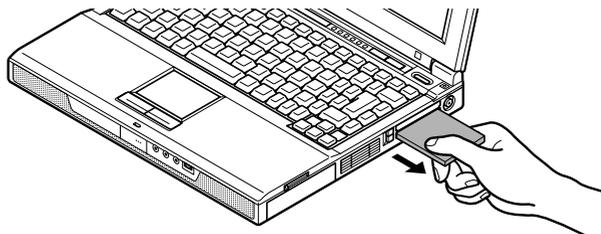
3 **「OK」ボタンをクリックする**

安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。

4 **「OK」ボタンをクリックする**

5 **「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる**

6 **PCカードイジェクトボタンを押す**

ボタンが手前にとび出します。

7 **もう一度PCカードイジェクトボタンを押す**

8 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「デバイスの取り外しの警告」または「予期しないPCカードの取り外し」の画面が表示される場合があります。

◆Windows 98の場合

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるPCカードのアイコンをダブルクリックする

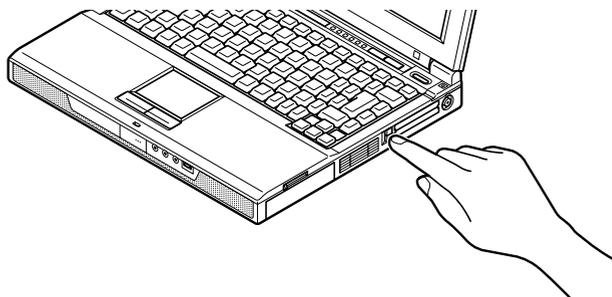
「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」が表示されます。

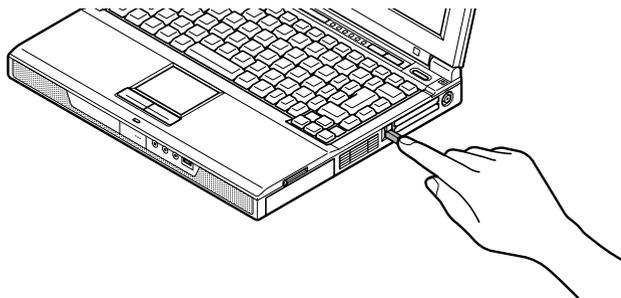
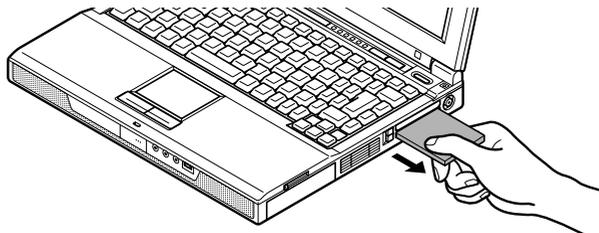
2 取り外したいPCカードをクリックする

3 「停止」ボタンをクリックする

しばらくすると、「このデバイスは安全に取りはずせます」と表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

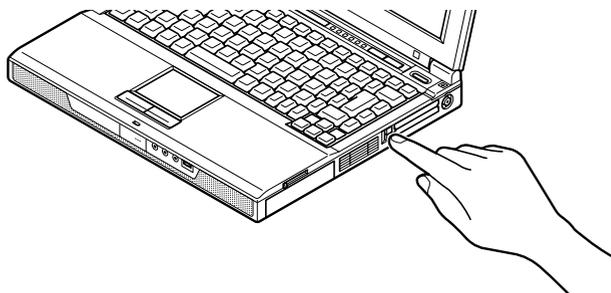
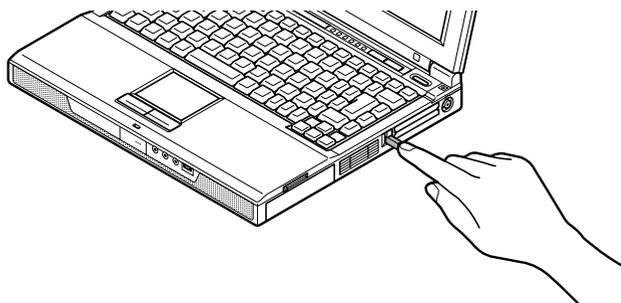
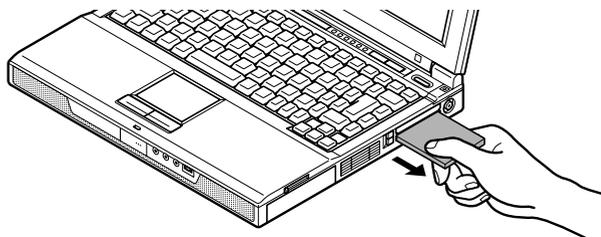
5 PCカードイジェクトボタンを押す

ボタンが手前にとび出します。

6 もう一度PCカードイジェクトボタンを押す

7 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取りはずし」ウィンドウが表示される場合があります。

◆Windows NT 4.0の場合

1 本機の電源を切る

2 PCカードイジェクトボタンを押す

ボタンが手前にとび出します。

3 もう一度PCカードイジェクトボタンを押す

4 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

PCカードの設定

PCカードを使用するときには、次のような設定が必要な場合があります。

■Windows Me/Windows 98/Windows 2000の場合

◎ 割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャネル」(→p.313)をご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

■Windows NT 4.0の場合

◎ FAXモデムカードの使用について

FAXモデムカードを使用する場合には、次の手順で設定してください。

チェック!! **CardWizard for WindowsNTをセットアップした場合には、この設定は必要ありません。**

1. FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されていることを確認する

1 **PCカードスロットにFAXモデムカードをセットする**

2 **Windows NT 4.0を起動する**

3 **「コントロールパネル」を開き、「PCカード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックする**

4 **「ソケットの状態」タブをクリックする**

5 **目的のFAXモデムカードをポイントする**

チェック!! **目的のFAXモデムカードの名前が表示されない場合は、PCカードが正しくセットできていない可能性があります。「PCカードのセットのしかたと取り出し方」(→p.235)をご覧になり、カードを正しくセットし直してください。**

6 **「プロパティ」ボタンをクリックする**

7 **「カード情報」タブをクリックする**

FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されている場合には、「デバイスマップ」の画面が表示され、使用するFAXモデムカードのCOM番号が表示されます。
このCOM番号はモデムのセットアップ(→p.247)やリソース(IRQ)の変更(→p.249)の操作でも使用しますので、覚えておいてください。

チェック!! **「利用不可」と表示された場合は、FAXモデムカードのリソース(IRQ)が他のデバイスと競合している可能性があります。「FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更する」(→p.249)をご覧になり、FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更してください。**

2. モデムのセットアップを行う

FAXモデムカードをダイヤルアップネットワーク等で使用する場合には、モデムのセットアップが必要です。

1 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする

初めてモデムをセットアップする場合には、自動的に「新しいモデムのインストール」ウィザードの画面が表示されます。
既にモデムがセットアップされている場合には、「モデムのプロパティ」が表示されます。「追加」ボタンをクリックすると「新しいモデムのインストール」ウィザードの画面が表示されます。

2 「次へ」ボタンをクリックする

自動的にモデムが検出され、使用するFAXモデムカードのCOM番号の部分に「標準モデム」と表示されます。

チェック!! **モデムが検出されなかった場合、FAXモデムカードに割り当てられているリソース(IRQ)が妥当でない可能性があります。「FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更する」(→p.249)をご覧になり、FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更してからモデムをセットアップしてください。**

3 使用するFAXモデムカードにWindows NT 4.0用の .infファイルが添付されている場合は、.infファイルをインストールする

① .infファイルの入ったフロッピーディスクを本機のフロッピーディスクドライブに入れる
②「変更」ボタンをクリックする
③「ディスク使用」ボタンをクリックする
④コピー元にフロッピーディスクドライブのドライブ名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
⑤使用するFAXモデムカードの名称をクリックし、「OK」ボタンをクリックする
⑥使用するFAXモデムカードのCOM番号上のモデム名が変更されたことを確認し、「次へ」ボタンをクリックする
⑦「所在地情報」画面が表示された場合、所在地情報を入力し、「次へ」ボタンをクリックする
⑧「完了」ボタンをクリックする

チェック!! Windows NT 4.0用の .infファイルがない場合には、Windows Me、Windows 98用の .infファイルで代用できることもあります。ただし、Windows Me、Windows 98用の .infファイルすべてがWindows NT 4.0で正しく動作するわけではありません。
手順3の①の手順のあと③に進むか、または FAXモデムカードの通信速度に合った「(標準のモデム　ドライバ)」に変更してください。

3. モデムのセットアップ状況を確認する

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「ハイパーターミナル」→「ハイパーターミナル」をクリックする**
「新しい接続」ウィザードが表示されます。

2 **「キャンセル」ボタンをクリックする**

3 **「ファイル」メニュー→「プロパティ」をクリックする**
「接続の設定」タブの画面が表示されます。

4 **「接続方法」リストから使用するモデム名をクリックする**

5 **「モデムの設定」ボタンをクリックする**

6 **「ポート」に正しいCOM番号が表示されているか確認し、よければ「OK」ボタンをクリックする**

7 **「OK」ボタンをクリックする**

8 **ハイパーターミナルのウィンドウ内に「AT」と入力する**
「AT」と表示されます。

9 **【Enter】を押す**

モデムのセットアップが正しく行われている場合には、「OK」のメッセージが表示されます。
ハイパーターミナルのウィンドウに「AT」と表示されず、「OK」のメッセージも表示されない場合は、Windows NT 4.0でFAXモデムカードが認識されていないか、モデムのセットアップが正常に終了していない可能性があります。
p.246をご覧になり、FAXモデムカードが正しくセットアップされているか確認してください。

◎ FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更する

FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されなかったり、正しく動作しない場合は、リソース(IRQ)が他のデバイスと競合している可能性があります。その場合は、次の手順でリソース(IRQ)を変更してください。

1 **本機で利用可能なリソース(IRQ)を確認する(→p.313)**

2 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「WindowsNT診断プログラム」をクリックする**

3 **「リソース」タブをクリックする**
現在のリソース(IRQ)の設定状況が表示されるので、空いているリソース(IRQ)を確認してください。

> Windows NT 4.0では、FAXモデムカードは本機内蔵のシリアルポートと同じ「Serial」というデバイス名で表示されます。IRQ4の「Serial」は本機内蔵のシリアルポート、IRQ4以外の「Serial」がFAXモデムカードを表しています。

4 **「コントロールパネル」を開き、「シリアルポート」アイコンをダブルクリックする**

チェック!! **「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」でデバイスマップが「利用不可」と表示されている場合は、ここでポートを追加する必要があります。次の手順でCOMポートを追加してください。**

① 「追加」ボタンをクリックする
② 「OK」ボタンをクリックする
③ Windows NT 4.0の再起動を促すメッセージが表示されたら、「再起動しない」をクリックする

5 **「FAXモデムカードの使用について」(→p.246)で確認したポートまたは上記の(チェック)で追加したポートをクリックする**

6 **「設定」ボタンをクリックする**

7 **「詳細」ボタンをクリックする**

8 「I/Oポートアドレス」リストで「既定値」をクリックする

「既定値」を選ぶと、次のように設定されます。

COM1:3f8
COM2:2f8
COM3:3e8
COM4:2e8

9 「割り込み番号(IRQ)」リストから、現在空いているリソース(IRQ)をクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする

11 Windows NT 4.0の再起動を促すメッセージが表示されたら、「再起動しない」をクリックする

12 「閉じる」ボタンをクリックする

13 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする

14 「名前」の部分に「c:¥nt40¥drivers¥reg」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

FAXモデムカードレジストリ設定ツールが起動し、「Serial*」と表示されます。

チェック!! FAXモデムカードレジストリ設定ツールはレジストリを操作するため、使用方法を誤ると重大な障害が発生する可能性があります。使用に際しては、十分注意してください。またレジストリのバックアップをとっておくことをおすすめします。

15 「Serial*」の*の部分がFAXモデムカードのCOM番号-1の項目をクリックする

p.249の①〜③の手順でCOMポートを追加した場合には、追加した順番にSerial10000、Serial10001となります。

16 「OK」ボタンをクリックする

レジストリが書き換えられ、FAXモデムカードレジストリ設定ツールが終了します。

次回起動時より、設定/変更内容が有効になります。

◎ ATAカードの使用について

ATAカードを使用する場合、ATAカードのドライブ文字がCに割り当てられている場合があり、アプリケーションの起動などができなくなることがあります。このような場合は、次の手順で、「Atdisk」のスタートアップの種類を「ブート」から「システム」に変更してください。

1 「コントロールパネル」を開き、「デバイス」アイコンをダブルクリックする

2 デバイスの一覧から「Atdisk」を選び、「スタートアップ」をクリックする

3 スタートアップの種類を「システム」に変更して「OK」ボタンをクリックする

4 「Atdiskデバイスのスタートアップの種類を変更すると、システムは使用不能になる可能性があります。変更してもよろしいですか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックする

「デバイス」が終了します。

6 「コントロールパネル」を閉じる

7 Windows NT 4.0をシャットダウンして、本機を再起動する

再起動後に、変更した設定が有効になります。

◎ 割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャネル」(p.313)をご覧になって、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

◎ PCカードデバイスドライバのインストール

PCカードのデバイスドライバは、PCカードに添付のマニュアルやWindows NT 4.0のヘルプなどをご覧になり、インストールを行ってください。

> PC カードの一覧に赤い「×」の付いたアイコンが表示されている場合は、Windows NT 4.0がそのデバイスに対応していないか、またはドライバが利用できないことを示します。詳細については、デバイスの製造元に問い合わせてください。

◆PCカードのリソースの設定を表示する

PCカードのリソースの設定を表示するには、次の設定を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「PCカード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックする

2 目的のPCカードをクリックする

3 「プロパティ」をクリックして、「リソース」タブをクリックする

PCカードのリソースの変更については、PCカードに添付のマニュアルなどをご覧ください。

◆Windows NT診断プログラムでリソースの設定を表示する

Windows NT診断プログラムでリソースの表示ができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「Windows NT診断プログラム」をクリックする

2 「リソース」タブをクリックしてリソースの内容を確認する

◎ CardBus対応PCカードの利用

CardBus対応PCカードを使用する場合は、CardWizard for Windows NTのインストールが必要です。(→p.255)
また、本機でPC-9821-CS01Xを使用する場合は、次の設定を行ってください。

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 本機にPC-9821-CS01Xカードをセットする

3 本機の電源を入れる

Windows NT 4.0起動後、CardWizard for Windows NTのウィザードが起動します。

4 「修正」ボタンをクリックする

5 メッセージにしたがってネットワークアダプタの追加、または新規にネットワークをセットアップする

・既にネットワークの設定がある場合

①表示されるメッセージにしたがって「OK」ボタンをクリックする

②「ネットワーク」画面が表示されたら「アダプタ」タブをクリックして「追加」ボタンをクリックする

・新規にネットワークをセットアップする場合

①表示されるメッセージにしたがって「OK」ボタンまたは「はい」ボタンをクリックする

②「ネットワークセットアップウィザード」で「ネットワークに接続」を選び、「次へ」ボタンをクリックする

③「ネットワークアダプタ」画面で「一覧から選択」をクリックする

6 「ネットワークアダプタの選択」画面が表示されたら「ディスク使用」ボタンをクリックする

7 次のディレクトリを指定して「OK」ボタンをクリックする

C:¥NT40¥NIHCRD

8 「OEM　オプションの選択」画面の一覧から「NEC PC-9821-CS01X」を選んで「OK」ボタンをクリックする

9 ネットワークアダプタの検索画面に「NEC PC-9821-CS01X」が表示されていることを確認して、「次へ」ボタンをクリックする

10 次のネットワークアダプタの構成を行う

Windows NTファイルを要求された場合、パスは「C:¥i386」と指定してください。

・ネットワークプロトコルの選択

・ネットワークサービスの選択

・ネットワークの設定の確認

・ネットワークに必要なファイルのコピー
・NEC PC-9821-CS01Xの設定
・ネットワークバインドの調整
・ワークグループまたはドメインの参加
ここでは、ドメインの参加はできません。ドメインに参加する場合は、再起動してからネットワークコンピュータの「プロパティ」の「識別」タブで「変更」ボタンをクリックして行ってください。

11 **ネットワークの設定が完了すると、コンピュータを再起動するか確認してくるので、「いいえ」をクリックする**

12 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Service Pack 6」→「Service Pack 6のインストール」をクリックして、Windows NT 4.0 Service Pack 6aをインストールする**

ファイルコピー中に、「コピー先には、コピー元より新しいファイルが存在します。上書きしますか?」などのメッセージが表示された場合は、「すべて上書きしない」を選択してください。

13 **メッセージにしたがって、Windows NT 4.0を再起動する**

チェック!! **CardWizard for Windows NTは、ご購入時にはインストールされていません。CardWizard for Windows NTを使用する場合は、「CardWizard for Windows NTの追加」(→p.255)をご覧になり、セットアップを行ってください。**

◆起動手順

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」をクリックする**

チェック!!

- **CardWizard for Windows NT上では、PK-UG-J001(マルチファンクションカード)は使用できません。使用する場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」にある「PC Card Activator」をクリックし、PC Card Activator画面の「CardWizardを使用不可にする」ボタンをクリックし、CardWizardを使用不可にしてから使用してください。**
- **使用可能なPCカードについては、CardWizard for Windows NTのオンラインヘルプおよびReadmeをご覧ください。**
- **後述の追加および削除を行う場合は、Administrator 権限を持ったユーザで行ってください。**

- 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「PCカード(PCMCIA)」のアイコンは使用できなくなります。
  同アイコンをクリックすると正しい情報が表示されないことがありますが、PCカードの動作上は問題ありません。
- PCカードをスロットから取り出す場合は、必ずCardWizardの「アクション」→「停止」を行ってから取り出してください。
- ネットワークカードで、ホットスワップ(コンピュータの電源が入っている状態でスロットにPCカードをセット、あるいは取り出し)を行うためには、ホットスワップ・テストを行う必要があります。
  ホットスワップ・テストは、ネットワークカードのセットアップを行った後、以下の手順で行ってください。
  ① 「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」→「CardWizard for Windows NT」をクリックし、CardWizardを起動します。
  ② CardWizardの「アクション」→「ウィザード」または、「Wizard」ボタンをクリックします。
  ③ 「ウィザード」画面の「テスト」ボタンをクリックします。
  ④ 「ホットスワップ機能のテスト」画面の「OK」ボタンをクリックします。
- ホットスワップできないPCカード(SCSIカード等)を使用している場合は、サスペンドおよびレジュームは行えません。
- CardWizard for Windows NT上でPCカードをホットスワップする場合は、同一のスロットで行ってください。他のスロットにセットする場合は、Windows NT 4.0を再起動する必要があります。

◎ CardWizard for Windows NTの追加

チェック!! 本機にPCカードがセットされていないことを確認してください。PCカードがセットされている場合は、Windows NT 4.0を終了し、本機の電源を切ってPCカードを抜いてから再起動してください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」をクリックする

2 キーボードから次のように入力して、【Enter】を押す

```
C:¥NT40¥CARDWIZ¥SETUP
```

3 **「CardWizard for Windows NTのセットアップ」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする**

4 **「ようこそ」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする**

5 **「質問」画面で、PCカードが本機に挿入されていないことを確認するメッセージが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする**

6 **「インストール先を選択」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする**

チェック!! **インストールするディレクトリは、特に必要のない限り、変更しないで既定値のままにしてください。**

ファイルのコピーが終了すると「READMEファイルを、いま表示しますか?」というメッセージが表示されます。

7 **「はい」ボタンをクリックする**

READMEファイルを参照したら、ファイルを閉じてください。

8 **「コンピュータをリスタート」画面が表示されるので、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選択し、「終了」ボタンをクリックする**

自動的に再起動します。

◎ CardWizard for Windows NTの削除

チェック!! **本機にPCカードがセットされていないことを確認してください。PCカードがセットされている場合は、Windows NT 4.0を終了し、本機の電源を切ってPCカードを抜いてから再起動してください。**

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」にある「CardWizard for Windows NTインストール解除」をクリックする**

2 **「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリックする**

3 **「セットアップが CardWizard for Windows NTを取り除きました」画面が表示され、画面にアンインストールが完了したことが表示されたら「はい」ボタンをクリックする**

自動的に再起動します。

メモリ

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

メモリ容量について

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64Mバイト
PK-UG-M025	128Mバイト

本機にはメモリスロットが2つあり、最大256Mバイトまでメモリを増設することができます。

メモリスロットには、あらかじめメモリボードが取り付けられています。メモリを最大容量(256Mバイト)に増設するときは、メモリが64Mバイトのモデルの場合は、取り付けられているメモリボードを取り外して、128Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けてください。メモリが128Mバイトのモデルの場合は、もう一枚128Mバイトの増設RAMボードを取り付けてください。メモリが192Mバイトのモデルの場合は、取り付けられている2枚のメモリボードのうち、64Mバイトのメモリボードを取り外して、128Mバイトの増設RAMボードを取り付けてください。

メモリの取り付け方と取り外し方

⚠注意

感電注意

●増設RAMボードの取り付け/取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリパックを取り外してください。電源コードやバッテリパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。

チェック!!

- 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

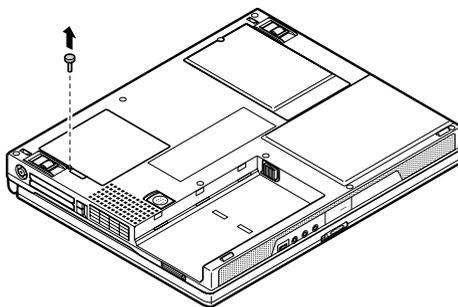
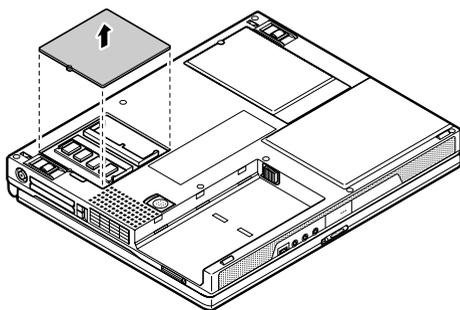
◎ 増設RAMボードの取り付け方

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

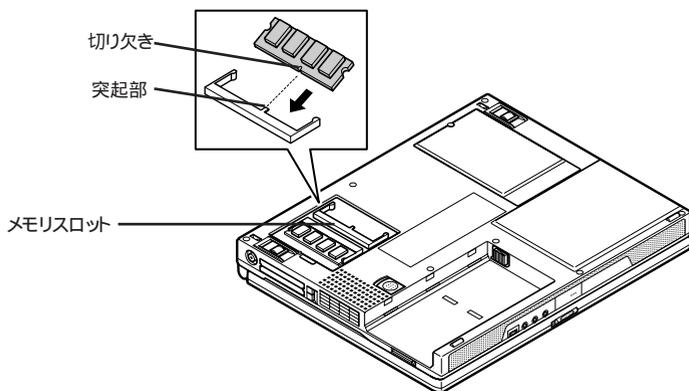
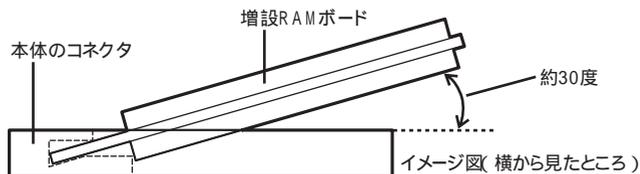
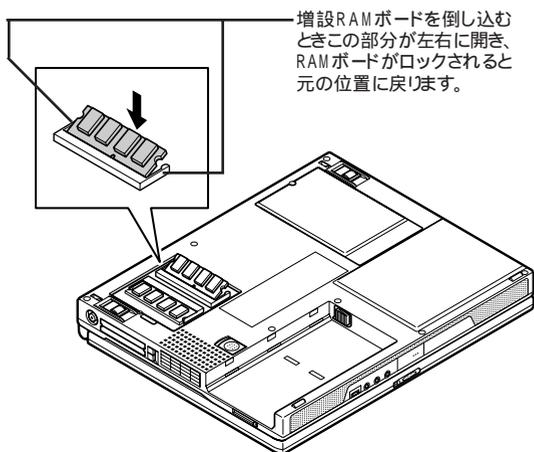
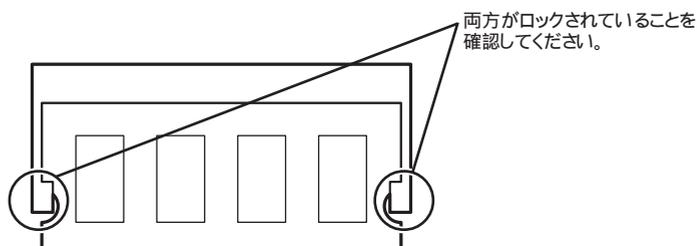
2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

4 バッテリパックを本機から取り外す（→p.87）

5 図のネジをプラスドライバで取り外す

6 メモリスロットのカバーを取り外す

7 増設RAMボードの切り欠き部分を本機コネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

チェック!! 増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。

（実物はイラストと多少異なる場合があります）

チェック!! 挿入するときに、固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む

チェック!! 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。

9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

10 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

Windows 98の場合、休止状態の機能(→p.108)を使用する方は、続けて次の手順11〜12の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。
Windows Me、Windows 2000、Windows NTの場合、手順11〜12の操作は必要ありません。

11 本機の電源を入れる

チェック!! **起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。**

12 休止状態の設定を解除したあと、休止状態を再設定する

「休止状態の設定の解除と再設定」(→p.109)の手順にしたがって設定を行ってください。

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」に従って、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

◎ 増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「全般」タブで右下に表示されている内容を確認する

「＊＊＊KB　RAM」または「＊＊＊MB　RAM」と表示されています。＊＊＊KBまたは＊＊＊MBが総メモリ容量です。

チェック!! **システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。**

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

・増設RAMボードが正しく取り付けられているか

・本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

◎ ハードディスクの空き容量を確認する

Windows Me、Windows 2000で休止状態の機能(→p.96, 121)を使用する場合は、次の手順1～4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 **本機の電源を入れる**

チェック!! **本機の起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。**

2 **「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンまたは「電源オプション」アイコンをダブルクリックする**

「電源の管理のプロパティ」画面または「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

3 **「休止状態」タブをクリックする**

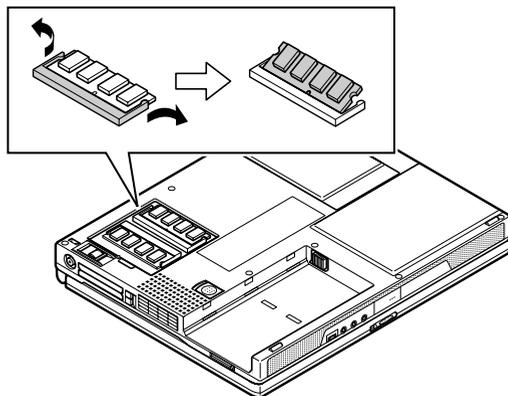
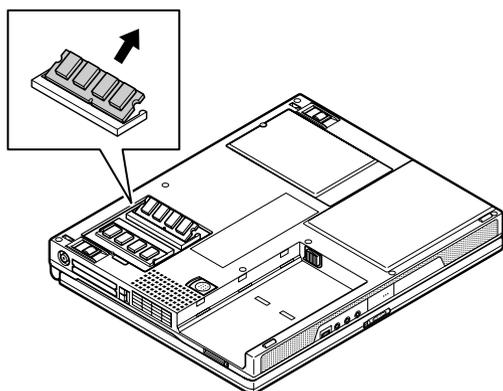
4 **「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する**

チェック!! **「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。**

◎ 増設RAMボードの取り外し方

1 **「増設RAMボードの取り付け方」の手順1～6に従って、メモリスロットのカバーを取り外す**

2 コネクタの両端部分を左右に押し広げる

増設RAMボードが図のようにおきあがります。

3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く

4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

5 バッテリパックを取り付ける

Windows 98の場合、休止状態の機能（→p.108）を使用する方は、続けて次の手順6～7の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。
Windows Me、Windows 2000、Windows NTの場合、手順6～7の操作は必要ありません。

6 本機の電源を入れる

チェック!! 起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。

7 休止状態の設定を解除したあと、休止状態を再設定する

「休止状態の設定の解除と再設定」（→p.109）の手順にしたがって設定を行ってください。

IEEE1394コネクタ

**IEEE1394コネクタを使用すると、高速にデータのやりとりが行えるようになります。
ここではVA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSのみの説明をしています。**

チェック!! IEEE1394は、Windows Me、Windows 98、Windows 2000でのみ使用できます。

IEEE1394とは

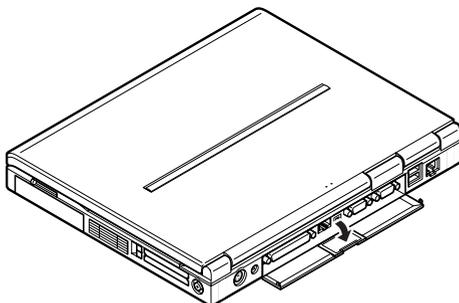
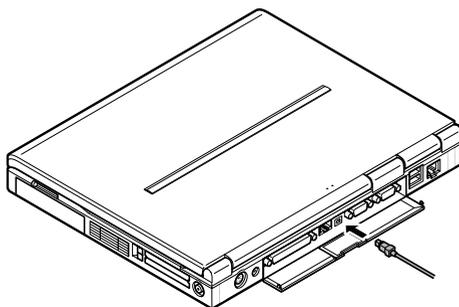
IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が早いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。
IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

IEEE1394対応機器を接続する

◎ 接続する前に

・このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続するときは、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際には、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
・周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称(DV端子など)で呼んでいる場合もあります。

◎ IEEE1394コネクタに接続する

1 **本体背面のカバーを開ける**

2 **カバーを開けたままの状態で、IEEE1394ケーブルを接続する**

チェック!! **接続するときは、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。**

3 **ケーブルの反対側のプラグを周辺機器に接続する**
周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

IEEE1394コネクタを使用しない場合は、コネクタのカバーは閉じておいてください。

◎ パソコン間でファイルを転送する

本機のIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。

チェック!! **IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。**

◆Windows Meの場合

接続にはホームネットワークの設定が必要です。
ホームネットワークを設定するには、「ホームネットワークウィザード」を使います。「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ホーム ネットワーク ウィザード」をクリックして、表示された画面に従って設定を行ってください。

◆Windows 98/Windows 2000の場合

接続にはドライバ(「IEEE 1394 Network Driver Ver.2.0」)が必要になります。ドライバは、以下のホームページから入手することができます。
http://121ware.com/

USBコネクタ

USB対応の機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

チェック!! **Windows NT 4.0はUSBに対応していませんので、Windows NT 4.0で本機を使用している場合は本機のUSBコネクタに機器を接続しても、使用することはできません。**

USBとは

本機にはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが2つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。
現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

・マウス
・プリンタ
・イメージスキャナ
・デジタルカメラ
・ISDNターミナルアダプタ
・キーボード
・テンキーボード
・携帯電話／PHS接続ケーブル
など

USB対応周辺機器の、本機での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧いただくか、各機器の発売元にお問い合わせください。
なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com（ワントゥワンウェア ドット コム）」をご覧ください。
http://121ware.com/

USBコネクタに接続する

◎ 接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備をしてください。

・接続するUSBコネクタ対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。
機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、各種設定スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、USB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。

> 別売のUSBマウスなどで、接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの性能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

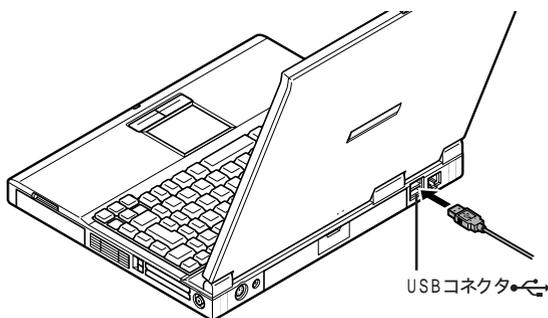
> USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

◎ 接続するときの注意

・「デバイスマネージャ」の画面にある「USB(Universal Serial Bus)コントローラ」の記述は削除しないでください。
・USB機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
・USBコネクタは、すばやく差したり斜めに差したりすると信号が読みとれず、不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はUSBのプラグを本体から抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
・はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
　なお、USB対応機器は、一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。
・スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。

・USB対応周辺機器を接続した状態ではスタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応周辺機器を取り外してください。
・USBマウス使用時にNXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップメニューの「NXパッド(Internal Mouse)」の設定を「使用しない(Disabled)」にしてください(→p.281)。
・外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用するときは、USBハブを本機に接続してからUSB機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB機器が正常に認識されないことがあります。

◎ USBコネクタに機器を取り付ける

1 パソコン本体のUSBコネクタにプラグを差し込む

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

◎ USBコネクタから機器を取り外す

チェック!! USB対応機器は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないと本機が正常に動作しなくなることがあります。

◆Windows Me/Windows 2000の場合

1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
が表示されていない場合は手順6へ進んでください。

2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする
機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。

3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる

6 取り外す機器のプラグを、本体のUSBコネクタから取り外す

◆Windows 98の場合

1 取り外す機器のプラグを、本体のUSBコネクタから取り外す

◎ 別売の外付けUSBキーボードの接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。 別売の外付けUSBキーボードには、USBコネクタが用意されており、別売のUSB機器を取り付けることができます。

チェック!! セーフモードやWindows 98のMS-DOSモードで起動したときは、外付けUSBキーボードを使うことはできません。

外付けUSBキーボードの設定は、本機のキーボードと同じように、Windowsで設定することができます。

その他の機器

本機で使用できるその他の機器

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ装置など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、外付けモデム、ターミナルアダプタなど

本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。

チェック!! **本機がスリープ状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。**

シリアルコネクタ

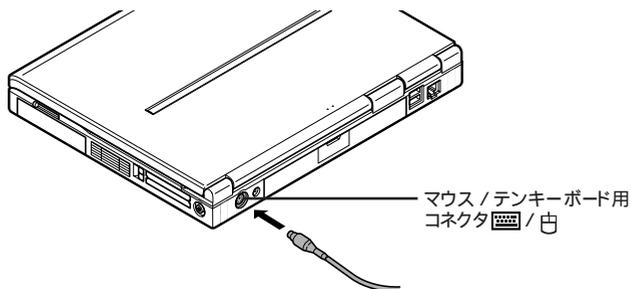
シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。

パラレルコネクタ

別売のプリンタを取り付けるためのコネクタです。
パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。
なお、WindowsではプリンタポートまたはLPT1と呼んでいます。

マウス／テンキーボード用コネクタ

添付または別売のマウスやテンキーボードなどのPS/2タイプのオプションを取り付けるためのコネクタです。

チェック!! **マウスやテンキーボードを接続するときは、必ず、本機の電源を切ってから接続してください。**

マウスとテンキーボードの両方を同時に接続したいときは、別売のYケーブル、またはマウスに添付されているYアダプタを使ってください。

PART

3

システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。

また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューは、本機の使用環境を設定するためのものです。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューを使うと、次のような設定ができます。

- 現在の日付と時間の設定
- ハードウェア環境の確認と変更
- 起動デバイスの起動順位の設定
- セキュリティの設定
- 省電力の設定

BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける

次のような画面が表示されます。

チェック!! BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り、【F2】を押しながら電源を入れ直してください。

```
AMIBIOS HIFLEX English SETUP - VERSION x.xx
(C)2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved

BIOS Revision xxxxxxxx

Standard CMOS Setup
Advanced CMOS Setup
System Security Setup
Power Management Setup
Boot Device Setup
Peripheral Setup
Change Language Setting
Refresh Battery
Auto Configuration with Defaults
Save Setting and Exit
Exit Without Saving

Standard CMOS setup for changing time, date, hard disk type, etc.
ESC：Exit  ↑↓：Sel  F3/F4：Color  F10：Save & Exit
```

2 【↑】または【↓】を押して「Change Language Setting」を選び、【Enter】を押す

3 【↑】または【↓】を押して「Japanese」を選び、【Enter】を押す

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。
以降、BIOSセットアップメニューが日本語で表示されるようになります。

BIOSセットアップメニューを使う

◎ BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける

次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「AMIBIOS HIFLEX 日本語SETUP-VERSION x.xx」と表示されます。

チェック!! BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り、【F2】を押しながら電源を入れ直してください。

AMIBIOS HIFLEX 日本語 SETUP - VERSION x.xx
(C)2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved

BIOS Revision xxxxxxxx

標準セットアップ
拡張セットアップ
セキュリティセットアップ
省電力セットアップ
起動デバイスセットアップ
周辺機器セットアップ
表示言語（Language）セットアップ
バッテリリフレッシュ
デフォルト値をロード
変更を保存して終了
変更を保存せずに終了

システム日付、システム時刻、IDEデバイスのタイプなどを変更します。
ESC：終了　↑ ↓：選択　F3/F4：カラー　F10：保存と終了

◎ BIOSセットアップメニューの基本操作

・操作はキーボードで行います。
・【↑】【↓】で設定項目を選びます。
・設定内容の値は【PgUp】【PgDn】で変更します。
・各設定項目の画面からメイン画面に戻るときは【Esc】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

◎ 変更を保存して終了する

1 メイン画面で【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

2 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

メイン画面で「変更を保存して終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

◎ 変更を保存せずに（起動前の設定のまま）終了する

1 メイン画面で【Esc】を押す

2 【←】【→】で「はい」を選び、【Enter】を押す

起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合は、すべて無効にして）BIOSセットアップメニューが終了します。

メイン画面で「変更を保存せずに終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

工場出荷時の値に戻す

1 **メイン画面で【↑】【↓】を使って「デフォルト値をロード」にカーソルを合わせる**

2 **【Enter】を押す**
確認の画面が表示されます。

3 **【←】【→】で「はい」を選び、【Enter】を押す**

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。
表中の　　部分は、購入時の設定です。

◎ 標準セットアップ

◆ システム日付(年／月／日)
日付を「年／月／日」(西暦)で設定します。

◆ メモリ容量
本機のメモリ容量が自動計算されます。

◆ システム時刻(時:分:秒)
現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。

◆ フロッピィディスクA
フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

設定項目	設定内容	説　明
フロッピィディスクA:	使用しない 1.44MB 3.5"	「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブ(FDD)が接続されていても使用することができません。 「1.44MB 3.5"」の場合、接続されているFDDが使用できます。

◆ 内蔵IDE

現在接続されているIDEデバイスの設定をします。

チェック!! **本設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期設定のまま使用してください。**

設定項目	設定内容	説　明
Type	ユーザ設定 自動 CD/DVD 使用しない	「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」に設定するとユーザによる指定ができます。
Cyln	0-65535	シリンダ数を設定します。※1
Head	0-255	ヘッド数を設定します。※1
WPcom	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。※1
Sec	0-255	セクタ数を設定します。※1
LBA Mode	オン オフ	LBAモードを使用するかどうかを指定できます。※2
Blk Mode	オン オフ	マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。※2
PIO Mode	自動 0-4	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。※2
32Bit Mode	オン オフ	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうか設定できます。

※1 「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

※2 「Type」を「ユーザ設定」「CD/DVD」に設定したときのみ指定可

◆ 起動セクタへのウィルス感染防止

設定項目	設定内容	説　明
起動セクタへのウィルス感染防止	使用する 使用しない	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると書き込み禁止になります。

◎ 拡張セットアップ

◆ビデオ出力方式

設定項目	設定内容	説　明
ビデオ出力方式	NTSC PAL	ご使用の国、地域でのビデオ出力方式を設定します(日本／アメリカでは"NTSC"、ヨーロッパでは"PAL")。

◆LCDパネル拡大表示

設定項目	設定内容	説　明
LCDパネル拡大表示	オン オフ	LCDパネルの拡大表示を行うかどうか設定します。

◆PS/2ポートウォームスワップ

設定項目	設定内容	説　明
PS/2ポートウォームスワップ	使用する 使用しない	サスペンド状態でのPS/2キーボードやPS/2マウスの使用を設定します。

◆NXパッド

設定項目	設定内容	説　明
NXパッド	使用する 自動 使用しない	「使用する」に設定すると、PS/2マウスとNXパッドを同時に使用することができます。「自動」に設定すると、PS/2マウスを接続したときに、NXパッドが使用できなくなります。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。

◎ セキュリティセットアップ

セキュリティの設定を行います。

◆ セキュリティモード

設定するセキュリティのモードを選びます。「パスワード」「スマートカード」「指紋」のいずれかを選ぶと、下に表示されているそれぞれのセキュリティ機能を設定できるようになります。
「スマートカード」を選ぶためには、別売のセキュリティ関連拡張機器が必要になります。
「指紋」を選ぶためには、指紋認識ユニットまたは、別売のセキュリティ関連の拡張機器が必要になります。

参照 **「スマートカード」「指紋」を選ぶ→PART1の「セキュリティ機能」(p.139)**

◆パスワード

セキュリティモードで「パスワード」を選ぶと設定できるようになります。

・スーパバイザパスワードの設定

【Enter】を押すと、パスワード設定の画面が表示されます。

・ユーザパスワードの設定

【Enter】を押すと、パスワード設定の画面が表示されます。スーパバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

◆ 起動時のパスワード

設定項目	設定内容	説　明
起動時のパスワード	はい いいえ	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。

◆ レジューム時のパスワード

設定項目	設定内容	説　明
レジューム時のパスワード	はい いいえ	レジューム時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。 起動時のパスワードを「はい」に設定しないと、この項目の設定は変更できません。

◆ スマートカード

「スマートカード」の各設定は、セキュリティモードで「スマートカード」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、スマートカード発行ツール(PK-SM002V2など)に添付のマニュアルをご覧ください。

◆ 指紋

「指紋」の各設定は、セキュリティモードで「指紋」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、このマニュアルのPART1「セキュリティ機能」の「指紋認証機能」(p.144)または、PCカード用指紋認証ユニット(PK-FP001)に添付のマニュアルをご覧ください。

◆ ハードディスクのパスワードの設定

【Enter】を押すと、ハードディスクのパスワードの設定画面が表示されます。

チェック!! ニューメリックロックキーランプ(1)が消灯しているのを確認し、パスワードの文字列を6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字/小文字の区別はありません)と半角数字の0～9です。

設定項目	設定内容	説明
内蔵HDDパスワードの設定	使用する 使用しない	ハードディスクのセキュリティを有効にするかどうかの設定を行います。

チェック!!

- **ハードディスクのパスワードが設定されていないと「内蔵HDDパスワードの設定」の設定を変更することはできません。**
- **ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータが消えてしまい、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないように十分に注意してください。**

参照 **ハードディスクのパスワードの設定方法について→PART1の「セキュリティ機能」の「ハードディスクのパスワード」(p.145)**

◎ 省電力セットアップ

省電力機能の設定を行います。

チェック!! 本機をWindows Me、Windows 98、Windows 2000で使用している場合は、「省電力セットアップ」の設定は「Intel(R) SpeedStep(TM)テクノロジ」の設定以外すべて無効になります。省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」または「電源オプション」で行ってください(→p.94, 105, 119)。

◆ システムスイッチ切り替え

設定項目	設定内容	説　明
システムスイッチ切り替え	パワーボタン スリープボタン	電源スイッチの機能を設定します(「スリープボタン」に設定すると、電源スイッチでスリープモードに移行できます)。

◆ AC電源駆動時の省電力

設定項目	設定内容	説　明
AC電源駆動時の省電力	オン オフ	AC電源駆動時に、現在の省電力設定を有効にするかを設定します。

◆ 省電力レベルの設定

設定項目	設定内容	説　明
省電力レベルの設定	オフ ユーザ設定 性能優先 最大省電力	「オフ」に設定すると、BIOSによる省電力設定はすべて無効になります。「性能優先」では本機の性能を優先した設定になり、「最大省電力」では、本機の動作時間を優先した設定になります。

「省電力レベルの設定」を「ユーザ設定」に設定すると、次の項目を任意に変更できます。

設定項目	設定内容	説　明
CPUスピード	100% / 50% / 25% / 12.5%	CPUスピードを4つのレベルから選択することができます。
ハードディスクタイムアウト	オフ/ 5秒 / 30秒/ 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもハードディスクに対するアクセスがなかった場合、ハードディスクのモーターを停止します。
ビデオタイムアウト	オフ/30秒/ 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもキーボードやポインティングデバイスの操作が行われなかった場合、液晶ディスプレイの表示を停止します。

設定項目	設定内容	説　明
周辺機器 タイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、シリアルポート、パラレルポート、フロッピーディスクに対するアクセスが2秒間以上なかった場合、それぞれのデバイスを停止します。
オーディオタイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、サウンド機能が30秒以上使用されなかった場合、オーディオデバイスを停止します。
自動スタンバイ タイムアウト	オフ/ 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータをスタンバイモードに移行します。
自動スリープ タイムアウト	オフ/ 5分 / 10分 / 15分 / 20分 / 25分 / 30分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータを「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。

◆ LCDパネル連動スリープ

設定項目	設定内容	説　明
LCDパネル連動 スリープ	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、LCDパネルを閉じたときに「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。

◆ スリープ種別

設定項目	設定内容	説　明
スリープ種別	サスペンド ハイバネーション	スリープモードの種別を変更します。

◆ 自動ハイバネーション

設定項目	設定内容	説　明
自動ハイバネーション	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、サスペンド状態に移行してから30分経過すると、自動的にハイバネーション状態に移行します。

◆LCDパネル輝度設定

設定項目	設定内容	説　明
LCDパネル輝度設定	自動※1 ユーザ設定※2	LCDパネルの明るさを調節します。

※1: 自動設定にすると、起動時には電源を切る前に設定した輝度になり、キーボードやポインティングデバイスからの操作が15秒間ないと自動的に最低輝度になります(ただし、USBキーボード、USBポインティングデバイスからの操作では、最低輝度からの復帰はありません)。

※2:「ユーザ設定」にすると、ホットキーで設定した輝度が次回起動時にも有効になります。

◆スリープ時警告音

設定項目	設定内容	説　明
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。

◆リモート電源制御

設定項目	設定内容	説　明
リモート電源制御	使用する 使用しない	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。

◆時刻指定によるレジューム

設定項目	設定内容	説　明
時刻指定によるレジューム	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、「レジューム時刻」で指定した時刻になるとスリープモードから復帰します。
レジューム時刻	オフ	スリープモードから復帰する時刻を設定します。「時刻指定によるレジューム」が「使用する」に設定されているときのみ設定できます。

◆Intel® SpeedStep™テクノロジの設定※

設定項目	設定内容	説　明
Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジの設定	自動 バッテリ最適化 使用しない	「自動」に設定すると、AC電源でコンピュータを動作している場合、自動的に最高性能で動作します。 「バッテリ最適化」に設定すると、常にバッテリ最適化で動作します。 「使用しない」に設定すると、Intel® SpeedStep™テクノロジが使えなくなります。

※: VA80J/WX、VA70J/WX、VA70J/WSでのみ本設定が表示されます。

◎ 起動デバイスセットアップ

◆ クイックブート

設定項目	設定内容	説　明
クイックブート	使用する 使用しない	BIOSによるシステムの診断を一部スキップし、起動時間を短縮します。

◆ ロゴ表示

設定項目	設定内容	説　明
ロゴ表示	使用する スキップ※ 使用しない※	起動時の表示画面を設定します。

※:BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後に【F2】を押してください。

◆ 起動時表示デバイス

設定項目	設定内容	説　明
起動時表示デバイス	同時表示 LCD表示 CRT表示	起動時に表示するディスプレイを設定します。

◆ 起動時Numロック

設定項目	設定内容	説　明
起動時Numロック	自動 オフ オン	起動時に【Num Lock】をロックするかを設定します。

◆ 第一起動デバイス

設定項目	設定内容	説　明
第一起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピィ CD/DVD SCSI ネットワーク	一番最初に起動するドライブを設定します。

◆ 第二起動デバイス

設定項目	設定内容	説　明
第二起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピィ CD/DVD	二番目に起動するドライブを設定します。

◆ 第三起動デバイス

設定項目	設定内容	説　明
第三起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピィ CD/DVD	三番目に起動するドライブを設定します。

◆ その他のデバイスから起動

設定項目	設定内容	説　明
その他の デバイスから起動	はい いいえ	設定したすべてのデバイスで起動に失敗したとき、その他のデバイスから起動します。

◎ 周辺機器セットアップ

周辺機器に関する設定をします。

◆ USBコントローラ

設定項目	設定内容	説　明
USBコントローラ	使用する 使用しない	USBコントローラを初期化するかを設定します。

◆ 内蔵ハードディスク

設定項目	設定内容	説　明
内蔵ハードディスク	使用する 使用しない	内蔵ハードディスクを使用するかを設定します。

◆ シリアルポート

設定項目	設定内容	説　明
シリアルポート	使用しない COM1 IRQ4 COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

◆ パラレルポート

設定項目	設定内容	説　明
パラレルポート	使用しない LPT1 LPT2 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。
パラレルモード	EPP ECP 出力のみ 双方向	パラレルポートのモードを設定します。特定の周辺機器は、特殊パラレルモードでしか動作しません。それぞれの周辺機器のマニュアルを参照してください。

◆ 赤外線ポート

設定項目	設定内容	説　明
赤外線ポート	使用しない COM2　IRQ3 COM3　IRQ4 COM4　IRQ3 自動※	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

※：ワイヤレスモデルの出荷時の設定は「自動」です。

◆ IR/PIAFS切り替え

設定項目	設定内容	説　明
赤外線ポート切り替え	IR その他 ※	IR（赤外線通信）とPIAFS（ワイヤレス通信／指紋）のどちらを使用するかを設定します。

※：ワイヤレスモデル／内蔵指紋センサモデルの出荷時の設定は「その他」です。
ワイヤレスモデル／内蔵指紋センサモデルでのみ本設定が表示されます。

◆ PIAFS使用時のランプ切り替え※

設定項目	設定内容	説　明
PIAFS使用時のランプ切り替え	着信 圏内	「圏内」にすると、PIAFS（ワイヤレス通信）使用時に、メール着信ランプ（✉）を圏内／圏外表示ランプとして使用することができます。メール着信ランプとして使用するには「着信」に設定します。

※：ワイヤレスモデルのみ本設定が表示されます。

3 システムの設定

◎ 表示言語(Language)セットアップ

セットアップの表示言語を設定します。

◆ 表示言語(Language)セットアップ

設定項目	設定内容	説　明
表示言語 (Language) セットアップ	英語(English) 日本語(Japanese) フランス語(French)	標準では英語に設定されています。

◎ バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュを行います。

参照 バッテリリフレッシュ→PART1の「バッテリ」の「バッテリリフレッシュ」(p.85)

PART

4

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

本機のお手入れ

ここでは、パソコンのお手入れの方法を説明しています。

お手入れをはじめる前に

⚠注意

**●お手入れの前には、必ず本機や本機の周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。**

◎ 準備するもの

◆ 汚れが軽いとき

乾いたやわらかい素材のきれいな布

◆ 汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。
OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに問い合わせてください。

参照 **NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』**

お手入れをする

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

チェック!!
- **水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。**
- **シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。**

◆ 液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

◆ 本体

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

◆ NXパッド

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

◆ フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

◆ 電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取るようにしてください。

◆ キーボード

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。キーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミを取ってください。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。

参照 **NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』**

補足情報

Intellisync使用時の注意(Windows 98モデルのみ)

◎「Intellisyncエージェント」終了時の注意

「Intellisyncエージェント」終了時に表示される「終了してよろしいですか?」の画面で「いいえ」を選択した場合、デスクトップ画面およびタスクバーから「Intellisyncエージェント」の画面が消えてしまうことがあります。その場合は、画面右下のインジケータ領域(タスクトレイ)の「Intellisyncエージェント」をダブルクリックしてください。

◎ 通信相手機器にIntellisyncをインストールするときの設定

IntellisyncをPC98-NXシリーズのデスクトップタイプのパソコンにインストールし、赤外線インタフェースユニット(PC-9821-U03またはPC-9821-U03R)で赤外線接続する場合は、デスクトップタイプのパソコンにインストールしたIntellisyncで次のように設定してください。

「赤外線の設定」で「NEC Infrared Unit」を選択する

- **赤外線インタフェースユニット(PC-9821-U03またはPC-9821-U03R)は、Windows NT 4.0では使用できません。**
- **PC98-NXシリーズのWindows標準赤外線機能では、赤外線インタフェースユニット(PC-9821-U03またはPC-9821-U03R)はサポートしていません。**

別売のUSBポートバー使用時の設定

◎ Windows 98で、別売のUSBポートバー(PK-UP012N)を使用するときの注意

Windows 98で、別売のUSBポートバー(10Base-Tインターフェイス付)(PK-UP012N)を使用するときは、次の手順に従って設定を行ってください。

別売のUSBポートバー(PK-UP012)を使用する場合は、以下の設定は必要ありません。

1 **本機にUSBポートバーを接続する**

USBポートバーが自動的に認識され、汎用USBハブ、USB互換デバイスドライバが自動的にインストールされます。

2 **「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面に「次の新しいドライバを検索しています:CATC NetMate2 Ethernet Adaptor」と表示されたら、「キャンセル」ボタンをクリックする**

次の各ドライバが自動的にインストールされます。

・NEC USB to Serial
・USB ヒューマンインターフェイスデバイス
・NEC USB to Parallel
・NEC USB COM Port
・NEC USB LPT Port

ここではLANドライバのインストールは行いません。次の手順3で行います。

3 **「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックする**

4 **「名前」欄に以下のように入力するか、または「参照」ボタンをクリックして表示される「ファイル名の場所」で以下のファイルを選ぶ**
C:¥OPTIONS¥OTHER¥NEC¥PK-UP012¥SETUP.EXE

5 **「OK」ボタンをクリックする**

LANドライバのインストールプログラムが起動します。

6 **「NEXT」ボタンをクリックする**

7 **「Disconnect the USB cable(if connected)from the CATC USB/Ethernet Link.」と表示されたら、USBポートバーを本機から取り外して「OK」ボタンをクリックする**

8 **「Connect the USB cable to the CATC USB/Ethernet Link.」と表示されたら、USBポートバーを本機に接続する**

9 **「This installation of the CATC USB Ethernet Link Software is complete.」と表示されたら、「Finish」ボタンをクリックする**

10 **本機を再起動する**

以上で設定は終了です。

◎ 別売のUSBハブに別売のUSBポートバーを接続するときの注意

別売のUSBハブ(PK-UP002またはPK-UP003)を2つ以上続けて接続し、その2つ目以降のUSBハブに別売のUSBポートバー(PK-UP012またはPK-UP012N)を接続した場合、USBハブに接続してある他の機器(USBポートバーも含む)が正常に動作しなくなることがあります。この場合は、本機に取り付けた1つ目のUSBハブにUSBポートバーを接続してください。

サウンド機能について(Windows Meモデルのみ)

◎ 音楽CDを利用する

◆ 音楽CDを再生する

Windows Meでは、CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブに音楽CDをセットすると、Windows Media Playerが起動して、自動的に音楽CDを再生します。また、インターネットでCDのデータの検索をしたり、音楽CD再生中に視覚エフェクトを表示させる機能もあります。

参照 **音楽CDの再生について→Windows Media Playerのヘルプ**

本機では、音楽CDをデジタルで再生したり、アナログで再生することができます。購入時は、デジタルで再生するように設定されています。

チェック!! **音楽CDをデジタル再生で再生しているときに、ほかのアプリケーションを使用すると、音楽CDの再生音が音飛びする場合があります。その場合は、ほかのアプリケーションを終了するか、音楽CDの再生方法をデジタル再生からアナログ再生に変更してください。**

参照 **音楽CDの再生方法を変更するには→次の「音楽CDの再生方法の変更」(p.297)**

◆ **音楽CDをハードディスクにコピーする**

Windows Media Playerの「CDオーディオ」の「音楽のコピー」で、音楽CDをハードディスクにコピーすることができます。

参照 **音楽CDのハードディスクへのコピーについて→Windows Media Playerのヘルプ**

本機では、ハードディスクに音楽CDをデジタルでコピーしたり、アナログでコピーすることができます。

参照 **音楽CDのハードディスクへのコピー方法を変更するには→「音楽CDからのコピー方法の変更」(p.299)**

◎ 音楽CDの再生方法の変更

次の手順で、音楽CDの再生方法をデジタル再生、またはアナログ再生のどちらかに設定することができます。

◆ **Windows Media Playerの場合**

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする

Windows Media Playerが起動します

2 メニューバーの「ツール」→「オプション」をクリックする

3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「再生の設定」欄の「デジタル再生」を設定したい再生方法にあわせて選択する

- **デジタル再生にする場合**
  「デジタル再生」を☑にします。
- **アナログ再生にする場合**
  「デジタル再生」を☐にします。

4 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」が表示されます。

5 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

6 「CD-ROM」の左の[+]をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする

CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

7 「プロパティ」タブをクリックする

8 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する

- **デジタル再生にする場合**
  ☑にします。
- **アナログ再生にする場合**
  □にします。

音楽CDの音量の調整は、設定した再生方法にかかわらず「CD Audio」の項目で行います。

◆その他のプレイヤーの場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」が表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「CD-ROM」の左の[+]をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする

CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

4 「プロパティ」タブをクリックする

5 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する

- **デジタル再生にする場合**
  ☑にします。
- **アナログ再生にする場合**
  □にします。

音楽CDの音量の調整は、設定した再生方法にかかわらず「CD Audio」の項目で行います。

参照 音楽CDの再生音量の調整→「音楽CDの音量を調整する」(p.300)

◎ 音楽CDからのコピー方法の変更

次の手順で、音楽CDからのコピー方法を設定することができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする

Windows Media Playerが起動します

2 メニューバーの「ツール」→「オプション」をクリックする

3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「コピーの設定」欄の「デジタルコピー処理」を設定したいコピー方法にあわせて選択する

- **デジタルでコピーしたい場合**
  「デジタルコピー処理」を☑にします。
- **アナログでコピーしたい場合**
  「デジタルコピー処理」を□にします。

設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

参照 音楽CDの再生音量の調整→次の「音楽CDの音量を調整する」(p.300)

◎ 音楽CDの音量を調整する

チェック!! **本機を再起動すると、再起動前にボリュームコントロールで調整した音量が調整前の音量に戻っている場合があります。この場合は、再度音量を調整してください。**

◆ 再生音量を調整する

「Volume Control」画面で音楽CDの再生音量の調整をすることができます。音楽CDの再生音量の調整方法は、音楽CDの再生方法によって異なります。

> 購入時の状態では、音楽CDはデジタル再生するように設定されています。

参照 **音楽CDの再生方法を変更する→「音楽CDの再生方法の変更」(p.297)**

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする

「Volume Control」画面が表示されます。

2 音楽CDの再生方法に応じて、「Volume Control」画面の以下の項目の音量つまみを上下にドラッグして音量を調整する

- **デジタル再生に設定している場合**
  「Volume Control」または「WAVE」
- **アナログ再生に設定している場合**
  「Volume Control」または「CD Audio」

チェック!!
- **Windows Media Player以外のプレーヤーを使用する場合は、再生方法にかかわらず、「Volume Control」または「CD Audio」で音量を調整してください。**
- **「Volume Control」はスピーカから出力されるすべての音量を調整する項目です。音楽CDの再生音量のみを調整したい場合は「WAVE」または「CD Audio」で調整してください。**

◆ 録音音量を調整する

次の手順で、音楽CDからの録音音量を調整できます。

1 「Volume Control」画面のメニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする

2 「音量の調整」で「録音」を選択し、「表示するコントロール」で「Stereo Out」にチェックを付けて「OK」をクリックする

「録音の調整」画面が表示されます。

3 「Stereo Out」の「選択」にチェックを付ける

4 「Stereo Out」の音量調整つまみを上下にドラックして録音音量を調整する

チェック!! 購入時、音楽CDからの録音はデジタル録音に設定されています。「Recording Control」の「CD Audio」は、音楽CDからアナログで録音する場合の音量を調整する項目です。デジタル録音に設定しているときに「CD Audio」を設定しても録音することはできません。「CD Audio」での録音は、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定にすることで可能になります。次の手順で、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定できます。

・音楽CDからの録音方法を変更する

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」が表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「CD-ROM」の左の[+]をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする

CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

4 「プロパティ」タブをクリックする

5 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」が☑になっている場合は☐にする

6 「OK」ボタンをクリックする

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「音楽CDの再生方法の変更」(→p.297)の手順に従って、音楽CDの再生方法をアナログ再生に変更する

機能一覧

仕様一覧

（網掛け）の項目の仕様は、ご使用のモデルによって異なります。

機種名		VA80J/WX	VA70J/WX	VA70J/WS
CPU		インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応 モバイル PentiumIII プロセッサ800MHz	インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応 モバイル PentiumIII プロセッサ700MHz	
内蔵キャッシュメモリ		32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ		256Kバイト（CPU内蔵）		
メモリ	ROM	512Kバイト（BIOSほか）		
メモリ	メインRAM	64Mバイト／128Mバイト／192Mバイト／256M（システムバス100MHz対応）		
メモリ	メインRAM 最大	256Mバイト（別売の増設RAMボード（128Mバイト）を2枚取り付けた場合）		
メモリ	ビデオRAM	4Mバイト		
表示機能	表示素子※1	バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ（XGA）		バックライト付12.1型 TFTカラー液晶 ディスプレイ（SVGA）
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	ATI RAGE™ Mobility-M標準搭載（ビデオアクセラレーション機能対応）		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）※2 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）※3 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色）※3		
表示機能	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色）		
サウンド機能	サウンドチップ	YAMAHA社製 YMF743搭載		
サウンド機能	PCM録音・再生機能	内蔵（ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz）、全二重化対応		
サウンド機能	MIDI音源機能	内蔵（拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音]）		
サウンド機能	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵		
サウンド機能	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド		

機種名		VA80J/WX	VA70J/WX	VA70J/WS
通信機能	LAN	なし/LAN内蔵(100BASE-TX/10BASE-T)		
	モデム	なし/モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(K56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)		
	ワイヤレス通信機能	なし/ワイヤレスデータ通信機能内蔵 PIAFS64K対応		
	携帯電話/PHS接続ケーブル	なし/ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信/9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信/64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ/アステル):32Kデータ通信/64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信/64Kデータ通信		
	FAX	なし/内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)		
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付		
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M※4/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)		
	固定ディスクドライブ※5	内蔵(約10Gバイト/約20Gバイト/約30Gバイト)		
	CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ※6・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※6	なし/あり ・CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 ・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-RWは最大14倍速)、書き込み最大8倍速(CD-R/CD-RW)、書き換え最大4倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)/6倍速(DVD-ROM)、書き込み最大4倍速(CD-R/CD-RW)		
インターフェイス		マウス/テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)、IEEE1394(4ピン)×1、USB×2、ビデオ出力		
	サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック) ヘッドホン出力/ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10kΩ 入力レベル1Vrms マイク入力インピーダンス2.2kΩ 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms		
PCカードスロット		TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可)※7 PC Card Standard準拠、CardBus対応		
パワーマネージメント		自動または任意設定可能		
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)、スマートカード(別売)、指紋リーダ(別売)、I/Oロック機能、ハードディスクのパスワード機能		
	暗証番号ボタン	なし/あり		
	指紋認証機能	なし/あり		
バッテリ駆動時間※8		約1.5〜2.2時間(最大約2.0〜3.0時間)		

4 付録

機種名	VA80J/WX	VA70J/WX	VA70J/WS
バッテリ充電時間※8	約3.0時間		
バッテリによるスタンバイ状態保持時間※8	約3日(バッテリフル充電時)		
電源	ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)、リチウムイオンバッテリ※9、または AC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※10		
消費電力	約19W(内蔵オプション最大接続時　約60W)		
温湿度条件	5〜35℃、20〜80%※11(ただし、結露しないこと)		
外形寸法	307(W)×252(D)×40〜44(H)mm		
質量※8	約2.9kg		約2.8kg

※1:液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※2:VA80J/WX、VA70J/WXではフルスクリーン表示。
VA70J/WSではバーチャルスクリーン表示(Windows 2000モデル、Windows NTモデルを除く)。
※3:バーチャルスクリーンで表示(Windows 2000モデル、Windows NTモデルを除く)。
※4:Windows Me、Windows 2000では3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。
※5:固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
※6:Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※7:Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。
※8:時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※9:バッテリパックは消耗品です。
※10:ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※11:18〜25℃、45〜75%での使用を推奨。

機種名		VA70H/WX	VA65H/WT	VA65H/WS
CPU		モバイル インテル Celeron™ プロセッサ700MHz	モバイル インテル Celeron™ プロセッサ650MHz	
内蔵キャッシュメモリ		32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ		128Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)		
	メインRAM	64Mバイト/128Mバイト/192Mバイト/256Mバイト(システムバス100MHz対応)		
	メインRAM 最大	256Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を2枚取り付けた場合)		
	ビデオRAM	4Mバイト		
表示機能	表示素子※1	バックライト付14.1型 TFTカラー液晶 ディスプレイ(XGA)	バックライト付13.3型 TFTカラー液晶 ディスプレイ(XGA)	バックライト付12.1型 TFTカラー液晶 ディスプレイ(SVGA)
	ウィンドウアクセラレータ	ATI RAGE™ Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)		
		640×480ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色/65536色/1677万色)※2 1280×1024ドット(26万色中256色/65536色/1677万色)※3 1600×1200ドット(26万色中256色/65536色)※3		
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色/65536色)		
サウンド機能	サウンドチップ	YAMAHA社製 YMF743搭載		
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応		
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])		
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵		
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド		
通信機能	LAN	なし/LAN内蔵(100BASE-TX/10BASE-T)		
	モデム	なし/モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(K56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)		
	ワイヤレス通信機能	なし/ワイヤレスデータ通信機能内蔵 PIAFS64K対応		
	FAX	なし/内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)		
	携帯電話/PHS接続ケーブル	なし/ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信/9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信/64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ/アステル):32Kデータ通信/64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信/64Kデータ通信		
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付		
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備		

機種名		VA70H/WX	VA65H/WT	VA65H/WS
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M※4/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)		
	固定ディスクドライブ※5	内蔵(約10Gバイト/約20Gバイト/約30Gバイト)		
	CD-ROMドライブ ・CD-R/RWドライブ※6 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※6	なし/あり ・CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 ・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-RWは最大14倍速)、書き込み最大8倍速(CD-R/CD-RW)、書き換え最大4倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)/6倍速(DVD-ROM)、書き込み最大4倍速(CD-R/CD-RW)		
インターフェイス		マウス/テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)、USB×2、ビデオ出力		
	サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック) ヘッドホン出力/ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10kΩ 入力レベル1Vrms マイク入力インピーダンス2.2kΩ 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms		
PCカードスロット		TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可)※7 PC Card Standard準拠、CardBus対応		
パワーマネージメント		自動または任意設定可能		
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)、スマートカード(別売)、指紋リーダ(別売)、I/Oロック機能、ハードディスクのパスワード機能		
	暗証番号ボタン	なし/あり		
	指紋認証機能	なし/あり		
バッテリ駆動時間※8		約1.5～2.2時間(最大約2.0～3.0時間)		
バッテリ充電時間※8		約3.0時間		
バッテリによるスタンバイ状態保持時間※8		約3日(バッテリフル充電時)		
電源		ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)、リチウムイオンバッテリ※9、またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※10		
消費電力		約19W(内蔵オプション最大接続時 約60W)		
温湿度条件		5～35℃、20～80%※11(ただし、結露しないこと)		
外形寸法		307(W)×252(D)×40～44(H)mm		
質量※8		約2.9kg		約2.8kg

※１：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※２：VA70H/WX、VA65H/WTではフルスクリーン表示。
VA65H/WSではバーチャルスクリーン表示（Windows 2000モデル、Windows NTモデルを除く）。
※３：バーチャルスクリーンで表示（Windows 2000モデル、Windows NTモデルを除く）。
※４：Windows Me、Windows 2000では3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。
※５：固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
※６：Orange Book Part2（CD-R）およびPart3（CD-RW）に準拠。
※７：Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。
※８：時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※９：バッテリパックは消耗品です。
※10：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用（日本仕様）です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※11：18〜25℃、45〜75％での使用を推奨。

4
付録

内蔵FAXモデム機能仕様

内蔵FAXモデム機能は、FAXモデム内蔵モデルのみの機能です。

機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット K56flex、V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング （DTMFトーン、ダイヤルパルス制御）

FAX機能

項　目	規　格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps※
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-9～-15dBm（出荷時-15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）

※回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信　33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps※1
	受信　56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/30667/29333/28000bps※1
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM:56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/34666/34000/33600/33333/32000/31200/30667/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM)
	MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis
	MNP class5
送信レベル	-9～-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠※2

※1　回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

※2　ATコマンドについては、以下のファイルを参照

Windows Me/Windows 98の場合:

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000/Windows NT 4.0の場合:

C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

NCU機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS)(内蔵モデムのみのモデル) パルスダイヤル(10PPS)(LAN内蔵モデル)
	トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

ワイヤレス通信機能仕様

ワイヤレス通信機能は、ワイヤレスモデルのみの機能です。

項　目	規　格
適用回線	自営標準　第3版準拠
通信速度	32Kデータ通信:29.2Kbps(実効値) 64Kデータ通信:58.4Kbps(実効値)
通信規格	RCR STD-28
制御コマンド	ATコマンド※

※:ATコマンドについては、以下のファイルを参照

Windows Me/Windows 98の場合:

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000/Windows NT 4.0の場合:

C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話／PHS接続機能は、携帯電話／PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話／PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種　類	項　目	規　格
PHS(NTTドコモ／アステル)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
PHS(DDIポケット)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6Kbps(データ通信)9.6Kbps(パケット通信) 28.8Kbps(パケット通信)
cdmaOne接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(CDMA方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4Kbps(データ通信)、64Kbps(パケット通信)

共通仕様

項　目	規　格
制御コマンド	ATコマンド※
網制御機能	AA

※：ATコマンドについては、以下のファイルを参照

Windows Me/Windows 98の場合:

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

Windows 2000/Windows NT 4.0の場合:

C:¥WINNT¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

内蔵LAN機能仕様

内蔵LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

規格概要

項　目	規 格 概 要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台／ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長※	100BASE-TX：最大約200m／ステーション間 10BASE-T：最大約500m／ステーション間 最大100m／セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

※：リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャネル

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。
これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

◎ 割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、工場出荷時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	8	システムクロック
1	キーボード	9	USBホストコントローラ※6
2	割り込みコントローラ	10	アクセラレータ※7 サウンド※7 CardBusコントローラ PCIステアリングホルダー
3	赤外線通信※1 ワイヤレスモジュール※2 指紋モジュール※3		
4	通信ポート	11	(空き)
5	PCIステアリングホルダー 内蔵FAXモデム※4 内蔵LANインターフェイス※5 CardBusコントローラ	12	NXパッド
		13	数値データプロセッサ
		14	IDEコントローラ (内蔵ハードディスク、内蔵CD-ROM)
6	フロッピーディスクコントローラ	15	(空き)
7	プリンタポート		

※1:赤外線通信機能使用時
※2:ワイヤレスモデルのみ。ワイヤレス通信機能使用時(赤外線通信機能と同時に使用することはできません)
※3:内蔵指紋センサモデルのみ。指紋認証の機能を使用時(赤外線通信機能と同時に使用することはできません)
※4:FAXモデム内蔵モデルのみIRQ5またはIRQ10に割り当てられます。
※5:LAN内蔵モデルのみIRQ5またはIRQ10に割り当てられます。
※6:ACPI用システム割り込み
※7:IRQ5またはIRQ10に割り当てられます。

◎ DMAチャネル

「DMAチャネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、工場出荷時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス			
	デフォルト	プリンタポートをECPで使用する場合(#1使用時)	プリンタポートをECPで使用する場合(#0使用時)	更にIRを使用する場合
#0	(空き)	(空き)	ECP	ECP※1
#1	(空き)	ECP	(空き)	IR※2
#2	フロッピーディスクコントローラ			
#3	(空き)	(空き)	(空き)	(空き)
#4	DMAコントローラ			

※1: ECPが#1のときはIR
※2: IRが#0のときはECP

索　引

索引

英字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

索引

ま行

や行

ら行

わ行

活用ガイド
ハードウェア編

PC98-NX SERIES
VersaPro
VA80J/WX・VA70J/WX
VA70J/WS・VA70H/WX
VA65H/WT・VA65H/WS

初版　2001年1月
NEC
P
853-810028-075-A